

多摩川流域の土地利用論

— 先史考古学研究からのアプローチ —

1 9 9 1 年

佐藤宏之

(財)東京都埋蔵文化財センター調査研究員

例 言

1. 本書は、昭和63年・平成元・2年度とうきゅう環境浄化財団 多摩川およびその流域の環境浄化に関する調査・試験研究助成金交付一般研究「多摩川流域の土地利用論－先史考古学研究からのアプローチ」（研究代表者 佐藤宏之）の最終完了報告書である。

2. 本書は、研究代表者佐藤宏之を中心に、共同研究者安斎正人・長崎潤一・竹尾 進の共同討議に基づくものであるが、まとめるにあたり、3章を竹尾 進が、他を佐藤宏之が主に執筆した。

3. 本研究グループの構成は、以下の通りである。

研究代表者 佐藤宏之（東京都埋蔵文化財センター調査研究員）

共同研究者 安斎正人（東京大学文学部考古学研究室助手）

竹尾 進（東京都埋蔵文化財センター調査研究員）

長崎潤一（早稲田大学遺跡調査室囑託）

4. 多摩川流域図の作成は、旧陸軍省陸地測量部明治19年測量の原図（2万分の1）に基づき、今回新たに作成したもので、旧地形をできるだけ復元しながら作図している。従って、現在の地形図とは、必ずしも一致しない。

5. 本研究の実施にあたり、各市町村教育委員会・東京都埋蔵文化財センター・東京都教育委員会等の各種機関・諸氏に大変お世話になった。また、資料整理の過程で、下記の方々にお手伝いいただいた。記して謝意を呈したい。

工藤敏久・鈴木美保・慶應義塾大学文学部学生諸氏

目 次

	頁
1. はじめに－研究の目的－	3
2. 研究の対象と範囲	5
3. 多摩川流域の縄文時代	
(1) 概観	7
(2) 縄文時代各時期の多摩川流域の様相	
a. 縄文時代草創期	7
b. 縄文時代早期	8
c. 縄文時代前期	9
d. 縄文時代中期	11
e. 縄文時代後期	12
f. 縄文時代晩期	13
(3) 縄文時代土地利用変遷の断面	
－野川流域と多摩ニュータウン遺跡群を中心にして－	14
4. 多摩川流域の旧石器時代	
(1) 概観	16
(2) 旧石器時代各時期の多摩川流域の様相	
a. ナイフ形石器文化期	17
b. 尖頭器石器群期	18
c. 細石器石器群期	18
(3) 土地利用の変遷－旧石器時代から縄文時代へ－	19
5. 弥生時代以降の土地利用変遷の概観	21
6. おわりに	23

表

図

表

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1. 多摩川流域縄文時代遺跡一覽 | 8. 縄文時代時期不詳住居跡等一覽 |
| 2. 縄文時代草創期住居跡
及び遺物出土遺跡一覽 | 9. 縄文時代参考文献 |
| 3. 縄文時代早期住居跡等一覽 | 10. 多摩川流域旧石器時代遺跡一覽 |
| 4. 縄文時代前期住居跡等一覽 | 11. 旧石器時代ナイフ形石器文化期遺跡一覽 |
| 5. 縄文時代中期住居跡等一覽 | 12. 旧石器時代尖頭器石器群出土遺跡一覽 |
| 6. 縄文時代後期住居跡等一覽 | 13. 旧石器時代細石器石器群出土遺跡一覽 |
| 7. 縄文時代晩期住居跡等一覽 | 14. 旧石器時代参考文献 |

図

1. 多摩川とその主な支流
2. 縄文時代草創期住居跡と遺物出土遺跡分布図
3. 縄文時代早期住居跡検出遺跡分布図
4. 縄文時代前期住居跡検出遺跡分布図
5. 縄文時代中期住居跡検出遺跡分布図
6. 縄文時代後期住居跡検出遺跡分布図
7. 縄文時代晩期住居跡検出遺跡分布図
8. 縄文時代時期不詳住居跡検出遺跡分布図
9. 縄文時代竪穴状遺構等検出遺跡分布図
10. 縄文時代集石検出遺跡分布図
11. 縄文時代炉穴等検出遺跡分布図
12. 縄文時代集石土坑等検出遺跡分布図
13. 各時期毎の住居跡数（1）
14. 各時期毎の住居跡数（2）
15. 旧石器時代遺跡分布図
16. 旧石器時代ナイフ形石器文化期遺跡分布図
17. 旧石器時代尖頭器石器群出土遺跡分布図
18. 旧石器時代細石器石器群出土遺跡分布図

1. はじめに－研究の目的－

多摩川流域と人類の歴史的係わり合いは、歴史時代をはるかに遡り、古く先史時代（旧石器時代・縄文時代）の初頭にまで及ぶものがある。当地域最古の人類の足跡は、稲城市多摩ニュータウンNo.471-B 遺跡出土の中期旧石器時代に属する石器群に求められるが、これは今から約5万年前と考えられている。これ以降、後期旧石器時代初頭（約3万年前）より、連綿とした人類文化の痕跡が当地域には観察され、列島においても最も良好な歴史学的な流域史を復元・形成できる地域となっている。

当地域は、こうした先史時代よりの人類による開発と土地利用の進行の結果、今日の歴史的住環境を形成することとなった。従って、先史時代における人類の土地利用＝文化的環境適応の歴史的構造を通時的に究明することは、従来より実施されていた歴史時代の流域開発史の最古の部分を分明にするだけでなく、多摩川流域の人文科学的環境形成の現代的意義と諸問題を考究する際に、きわめて重要な視座を与えることになる。

後期旧石器時代初頭よりの多摩川流域の土地利用史は、現生人類種たる *Homo sapiens sapiens* の成立とほぼ時を同じくしており、その展開の様相は、概括が可能である。多摩川流域の開発史は、まさに現生人類の土地利用史の縮図たると同時に、その社会・文化の進化・発展の構造的本質を垣間見ることができるのである。結論的に言えば、先史時代よりの人類の多摩川流域の開発は、空間の面的利用の漸進的な発展と言う単純な図式で行われたわけではなく、すでに最初期の段階から、疎密の差はあるにせよ、開発可能な地形的・地理的空間を総合的に開発しているように思われる。多摩川流域の土地利用史は、多摩川と言う地形的特徴（下流域に本格的な平野の発達しないこと。流路の変遷は相対的に少ないこと。上流域＝山地、中流域＝丘陵〔支流部〕と段丘〔主流部〕、下流域＝台地。）に特異的に規制され、先史時代より大きな空間的差異は認められない。むしろ土地利用の質的向上が達成されたもの、換言すれば、土地利用システムの構造進化が内的に進行したものと考えられる。つまり、北米大陸の西部開拓のごとく、特定地形の選択的利用から次第に利用範囲がだんだんと面的に展開したというわけではなく、面的な利用は最初期から行われ、むしろ、その質的利用の進化・発展とその背景となる地域環境開発システムの断続的変革に、ことの真相が求められるのである。従って、先史考古学的方法に基づき、多摩川流域史の土地利用論的研究は、同時に、社会の進化・発展と密接に連動した歴史学的方法と理念に基づいて展開しなければならない。

本研究では、まずこの第一歩として、当地域内に集積されている先史考古学資料の検討と整理を主眼とし、現実の資料に基づいた土地利用史の忠実な復元を試みたものである。

2. 研究の対象と範囲

本研究では、先史時代を主な時間的対象としているため、操作・分析資料としては、旧石器時代と縄文時代の遺跡・遺物を取り上げた。多摩川流域は、日本列島のうちでも最も先史考古学的調査が進展した地域であり、上流部を除いては、ほぼ万遍なく調査が及んでいる。いずれも、開発に伴う事前発掘調査（記録保存）が主体であるが、特に中・下流域では、大規模開発に伴う広域の調査と市町村による分布調査及び東京都教育委員会による遺跡台帳の整備・更新により、豊富な資料が検出されている。主なものとしては、八王子市域の八王子ニュータウン地区と八王子市・町田市・多摩市・稲城市に亘る多摩ニュータウン地区を筆頭に、青梅市・秋川市域等の団地造成や国分寺市・立川市・川崎市等の区画整理事業、野川流域の個別開発の集中に伴う調査等枚挙にいとまが無い。地形的には、上流部の遺跡の立地に関しては十分な調査資料を得ることができなかったが、中・下流域では、丘陵・段丘・台地・河川沖積地における遺跡立地と分布傾向を、おおまかにではあるが把握することができた。ただし、中・下流域においても、調査の進展していない大田区や川崎市（特に東部）域では、詳細な様相は把握できず、最下流域での分布・立地論的分析は深化したとは言にくい状況にある。

対象範囲の厳密な規定は、多摩川流域史の復元と言う観点から、基本的に多摩川流域に限ることとしたが、管見にふれる限り、多摩川流域を厳密に確定した利用可能な図（大縮尺において地形区分を復元しうるような）がなかったため、原図自体を作成することとした。特に多摩川は、都市化の影響を受けた下流域の地形変形要素が大きいことと、考古資料の立地論的研究が河川とのかかなり微妙な関係を問題にせざるをえないため、明治19年製作の「大日本帝国参謀本部陸軍部測量局」及び「同陸地測量部」作成の2万分の1地形図を基本図とし、そこから分水嶺を図上読み取り作業により復元し流域を確定した。従って、特に古多摩川によって形成されたと考えられる武蔵野台地（隆起扇状地）側の流域界に関しては、表面地形からの読み取りによる不正確さが残ることとなった。この問題に関しては、多摩ニュータウン№.471-B 遺跡（中期旧石器時代新段階、約5万年前）を除いて、全ての遺跡が約3万年前以降の後期旧石器時代以降に属し、しかもこの時期にはすでに多摩川の流路がほぼ現況に一致することがわかっていることから、概ね大きな問題はないと判断している。

現在までに確認された多摩川流域の先史時代遺跡は、585 遺跡にのぼり、このうち旧石

器時代の遺跡が 218 遺跡、縄文時代の遺跡が 500 遺跡（1 遺跡に両時代が重複する遺跡が多数ある）である。ただし、縄文時代に関しては、草創期・早期・前期・中期・後期・晩期に 6 大別しているが、草創期を除いては、住居跡・集石等の確実な遺構を伴う遺跡に限定して分析している。草創期は、早期以降と異なり、明確な遺構を形成する遺跡例がきわめて少ないため、遺物出土をもって遺跡と認定した。

旧石器時代に関しては、先述の中期旧石器時代に属する多摩ニュータウン No.471-B 遺跡を除いては、全て後期旧石器時代に属するため、ナイフ形石器文化期・尖頭器石器群期・細石器石器群期に 3 大別している。これらは、概ね時代順であるが、編年学的にはナイフ形石器文化期と尖頭器石器群期の境界は、遺物のみからは判然としない。これは、ナイフ形石器文化期の細分時期区分から見ると、ナイフ形石器が、立川ローム X 層期を初源として IV 上層段階まで継続するのに対して、南関東地方では IV 中層段階から尖頭器が遺物組成に出現し、次第に変化しながらその割合を増加させ、IV 上層段階直後に尖頭器主体の石器群へ漸移的に変遷するためである。しかも、この直後に、細石器石器群が列島の北端と西端から流入して関東地方を席卷し、短い存在時期を経て再び縄文時代草創期初頭の尖頭器石器群に移行していくためである。この尖頭器をめぐる時間的変遷は、概ね尖頭器の型式に基づく編年が成立しているが、尖頭器の形態によっては帰属時期を決定できないものも多く存在し、しかも各種編年試案が併存する状況から、詳細な時期決定は困難である。

以上のことから、本研究では、旧石器時代の時間的指標として、ナイフ形石器→古相尖頭器→細石器という大枠の基軸を設定し、むしろ全体としては、マクロ・スコーピックな傾向の抽出に努め、研究の進んでいる分野や地区等の個別の要件に従って適宜解説を加えることとした。

多摩川は、先述のように、関東地方では先史時代から比較的流路の確定した河川であり、荒川のように古墳時代前後における流路の大幅な変更（これ以前は大宮台地の東側を流れていたのが、この時期以降現在のように大宮台地の西側を流れるようになった）や、利根川のように歴史時代の大規模改修が加えられることが比較的少なく、調査事例の集積と合わせて、通時間的分析には非常に良好な研究環境を作り出している。世界の先史学研究を見渡しても、一流域の先史考古資料を本研究のような精度で分析している例はなく、その意味からもすぐれて今日的価値をもつ研究成果と考えられる。

3. 多摩川流域の縄文時代

(1) 概観

多摩川流域の対象地域において縄文時代の遺跡は2,000 を超す多さになる。これは全国的にみても縄文時代では有数の遺跡分布を示す地域であることは言うまでもない。しかしながらその多くは遺物が散布するだけの遺跡や未調査遺跡であり、性格は不明である。今回抽出した遺跡500箇所を含めて概観すると多摩川流域の北岸では仙川・野川流域に全時期にわたって分布が認められ、その中でも時期によって占地の変化が窺える。特に野川流域では北岸の段丘面上にほとんどが集中している。次に多摩川中流域北岸は中期にのみ集中する特徴を有し、残堀川流域では極端に過疎的である。

多摩川流域の南岸では各支流間での量的な差はあるが、北岸流域と異なり万遍なく遺跡の分布が認められる。各時期を通して分布が顕著に見られるのは多摩ニュータウン地域を含む多摩丘陵地帯であり、これをよりきめ細かくみると多摩丘陵内でも各時期ごとに集落の性格などがより明瞭になりそうである。次に多摩川中流域は浅川と秋川を中心にして分布の傾向が窺えるが、集落の規模をみると小規模なものばかりが集中する。

以上簡単に分布からの概観を述べたが、次節では各時期ごとに地形的な要素を含みながら各支流の集落の形成および集落の構成を主体として述べたい。

(2) 縄文時代各時期の多摩川流域の様相

a. 縄文時代草創期 (第2・13図 第2表)

当該期の住居跡として挙げられるのは、唯一秋川市に所在する前田耕地遺跡(255)であり、草創期初頭の住居跡2軒が検出された。また第2表のとおりに住居跡以外の遺構は現在皆無の状態にあり、本時期においては遺構だけで論ずるに資料の不足を否認しない。よって当該期に限り土器・石器だけでも出土した遺跡を参考資料として活用した。また、各資料については旧石器時代か草創期遺物に属すかが未確定のものは省いてここに掲げた。草創期の遺跡数は97遺跡を数え、そのうち土器を出土した遺跡は13遺跡ある。時期的にはほとんどが隆起線文系土器の時期に比定され、隆起線文系土器以外では二宮・二宮森腰遺跡(257)において多縄文系土器が出土している。当該期の石器を出土した遺跡は84遺跡あり、ほとんどは有舌尖頭器を出土している。時期的には隆起線文系土器よりも古い時期に比定される。

遺跡の分布は、多摩川北岸において野川と残堀川に集中する傾向にあり、南岸では平瀬川と多摩ニュータウン地域内の三沢川・乞田川・大栗川に最も多く集中している。多摩川に面している遺跡より出土している例は3・474・475・480の4遺跡のみであるが、この場合には大河川に面する遺跡は氾濫などの影響を受けない場所に立地する。これらの多くは各河川の河岸段丘上より出土しているが、多摩ニュータウン遺跡群などでは、丘陵斜面地や谷部などより多く出土する例が少なくない。野川流域では、下流域よりも上流域の密集度は顕著であり、水源地と目される日立中央研究所を中心に分布の広がりをみせている。残堀川流域では中流域より遺物が検出され、その最奥部に浅間谷遺跡(486)が位置し、残堀川流域では最多の遺物量を誇る。ほかでは前記の前田耕地遺跡は東に多摩川、北に平井川、南に秋川に挟まれた秋留台地の東端に位置する。この遺跡は全国的にみても有数の草創期の遺跡であり、特に尖頭器の量は膨大な数にのぼり石器製作跡として知られている。前田耕地遺跡は石器の量などから判断すると一定の長さで居住があったと推察でき、三方向に河川があり石材確保などでも容易に獲得できる地として最適地を選定した好例である。周辺遺跡として二宮・二宮森腰遺跡があり、前田耕地遺跡に続く時期と考えられる。前田耕地遺跡以後も長きにわたって生活するに適した環境の地であったのであろう。以上のようによに遺跡の分布を概観したが、草創期の特徴として見られるのは、標高170m以上の遺跡には草創期の遺物が出土していないことがまず第一にあげられる。これは他時期と比しても草創期の人間の生活行動範囲が極めて狭いことが第2図などでも看取できる。おそらく多摩川の支流で生活に安定した場所を選定し、奥深い地を居住・狩猟に対象とすることをせず済む環境にあったと想定できる。また草創期の土器が出土した遺跡を中心として当該期の遺跡の分布が窺える傾向にある。これは拠点的な性格をもつものかあるいは季節や時間的な要因による小範囲内での移動による結果なのかは今後の課題としてあげられる。

b. 縄文時代早期 (第3・13図 第3表)

縄文時代早期では住居跡を検出した遺跡は34遺跡を数え、また住居跡総数は120軒を超え、この時期になって急増する。時期別に分類すると概ね早期前葉の撚糸文期と早期後葉の条痕文期の2期になる。(第13図 第3表) 34遺跡のうち住居跡数1～4軒の小規模な遺跡は大半を占め、5軒以上を越す遺跡は市立第五中学校遺跡(20)・はけうえ遺跡(51)・恋ヶ窪南遺跡(57)・多摩ニュータウンNo.145遺跡(152)・二宮・二宮森腰遺跡(257)・半蔵窪遺跡(352)の7遺跡であり、20・21・57は10軒以上を数える。

遺跡の分布を概観すると草創期では多摩川北岸と南岸がほぼ同数であったが、早期では多摩川南岸に多く検出され、全体の約3分の2を占める。草創期と大きく異なるのは多摩川北岸では遺跡のほとんどが野川流域の中流域より奥部に集中する。この地域は野川北岸に「はけ」と呼ばれる河岸段丘が下流域より奥部まで形成され、その河岸段丘上に各遺跡は立地している。一方多摩川南岸では草創期遺跡よりも各支流の奥部へと展開の様相を見せはじめている。多摩ニュータウン地域では大栗川と大田川に挟まれた丘陵地の斜面上に立地するが、特に注目すべき点はこの区域では全てが早期前葉である。逆に浅川・谷地川流域の河口部や支流が分岐する箇所では早期後葉が点在する傾向にある。このような傾向は多摩川北岸の野川流域では見られずに中流域より上流域まで早期前葉と後葉の住居跡が検出されている。おそらく野川流域では全期にわたってあることと他地域よりも住居跡数が多いことから地形的にみても自然環境からも非常に安定していた流域であることが推測される。他の流域では狩猟採集や自然環境の変化、地形的制約により長きにわたる居住の定着ができなかったのではなかろうか。しかしながら早期になって草創期よりも広域になっているのは確かで、その例が白丸西の平遺跡(302)である。この遺跡は標高386mを測り、傾斜角15度にもなる斜面地の突端部分のやや緩い箇所のテラス上に住居跡が確認された。最も近い二宮・二宮森腰遺跡でも直線距離で約20kmも離れており、白丸西の平遺跡との間は空白地帯のようにも窺えるが、住居跡以外の遺構を探ると崩橋遺跡(292)では竪穴状遺構が、中郷原遺跡(314)では炉穴が検出されている。2遺跡は多摩川流域の急峻な谷合いのなかで部分的に見られる河岸段丘上に立地しているが、白丸西の平遺跡のように地形的な条件のみならず他の内因・外因が満たされればこの流域内でも今後の発掘調査によって当該期の遺跡を発見しえるであろう。住居跡以外で当該期で特徴的な遺構として炉穴があり、今回対象地域内では800基を超している。ここで注目されるのは多摩ニュータウン地域と他地域の割合は1:10と大きな格差を示している。というのも時期的な相違によるもので質量ともに差が生じていることであろう。前述したように多摩ニュータウン地域では早期前葉が主体を占めることから、時期的には判然としない炉穴もこのようなことから早期後葉の所産として位置付けることができる。

c. 縄文時代前期 (第4・13図 第4表)

縄文時代前期の住居跡を検出した遺跡は69遺跡を数え、住居跡総数は150軒を数える。時期的には前期前葉が約3分の1を占め、前葉から後葉のより細別できないものが半数以

上を占め、後葉や末期と確定できるものは1割強に留まっている。10軒を越す遺跡は稲荷丸北遺跡(5)、二宮・二宮森腰遺跡(257)の2遺跡のみであり、両遺跡とも時期は諸磯期に属す。1遺跡の平均住居跡数は2軒強と小規模な集落ばかりである。

住居跡の検出した遺跡は第4図でも歴然としており、多摩川北岸では野川下流域にほとんどが集中している。時期的にも関山期が最古であり、他は黒浜期以降諸磯期中心である。野川最上流には花沢東遺跡(54)があるのみでほかの時期と比して極端な分布の相違をみせる。残り2遺跡は田中・寺前遺跡(18)、寺前遺跡(65)が多摩川に面する河岸段丘上にある。これらに対して多摩川南岸では早期などと比しても遺跡の密集が顕著になっている。特に多摩ニュータウン地域内の大栗川・乞田川・三沢川に住居跡の検出した遺跡の3分の2がここに集中する。この地域は起伏のある丘陵の地形を呈しており、実際に住居跡の検出される地形は各支流に面した中位面などを中心にした斜面地に多く立地する。大田川や乞田川などでは水系界まで入り込み多く点在する。しかしながら各遺跡の住居跡数はいずれも少数であり、この地域一帯を短期間で移動を繰り返していたのではなかろうか。同様に浅川や谷地川流域に点在する遺跡は地形的にみても多摩ニュータウン地域と非常に類似している。住居跡の時期なども諸磯期が集中している。遺跡の地形的な要素などから多摩川北岸の武蔵野台地の方がより住環境が優れているように考えられるが、多摩川南岸の丘陵地に集中する現象は果たしていずれに基づくものであろうか。最大の原因は縄文時代早期末から前期頃に始まる海進による影響が考えられる。この海進は2～3mの海面上昇があったと考えられ、関東平野では栃木県藤岡町付近まで海岸線が伸びていたとされる。当対象地域以外の下総地域での遺跡分布を検討したが、やはり多くが内陸部に前期の遺跡は展開している。よって当時の人間は取り巻く環境の変化に応じて、より生活を営むに適した場所を求めていたことであろう。またこの場合には居住移動に際しても、少人数で活動する方が効率のよいものであることが推測される。この裏付けとして各遺跡の住居跡数が少ないことが挙げられ、これが最大の根拠となろう。

上述のほかでは多摩川上流において雨竜岳遺跡(294)・白丸西の平遺跡(302)・登計原遺跡(303)があり、294は前期前葉の花積下層期の住居跡で最奥部に発見された。302は早期で説明したとおりの地形であるが、303は多摩川に向かった斜面地の突端にやや緩やかな地形を利用して住居跡がつくられている。2軒のうち1軒は前期最終末の十三菩提期であり、時期が新しくなるにつれ広範囲な分布の傾向を窺えそうである。

d. 縄文時代中期 (第5・13・14図 第5表)

住居跡を検出した遺跡総数は190遺跡と前時期から急増している。しかも住居跡総数は第14図のように約1900軒を数える多さである。第13図を一覧しても中期だけが卓抜していて、全住居跡数の8割を占める。ここでは中期を初頭の五領ヶ台期、前葉の勝坂期、後葉の加曾利E期に大きく3分類をし、各住居跡を帰属させて各期の検討を試みた。

まず五領ヶ台期であるが、対象地域内での遺跡数は16遺跡で住居跡数20軒と非常に少なく、すべて小規模の構成である。遺跡の分布をみても多摩川中流の長沢遺跡(277)が最上流に位置する。多摩川北岸ではこの277と恋ヶ窪南遺跡(57)だけであり、当該期の住居跡は多摩川南岸に集中している。これまでに多摩ニュータウン地域内の大栗川には各期の住居跡があったが当該期の住居跡は皆無である。かわって三沢川の上流域の開析した谷の斜面地に位置する。他では浅川流域に点在するのみで、極めて範囲の狭い分布傾向を示す。

次に勝坂期は住居跡を検出した遺跡は81遺跡あり、住居跡総数は562軒にもなる。ほとんどは5軒以下の小規模な遺跡であるが、10軒以上を有するのは15遺跡にもものぼる。

遺跡の分布は各支流に万遍なく分布している。例外として浅堀川流域ではまったく見られない。野川流域では奥部に大規模な集落が存在し、中流域まで当該期の遺跡が広がる。多くは河岸段丘上の縁辺部に立地し、土器・石器など質量ともに秀逸である。この流域の他に多摩川北岸では南養寺遺跡(72)周辺は幅の広い河岸段丘上に立地し、長沢遺跡(277)や羽ヶ田上遺跡(284)・山根坂上遺跡(285)などは多摩川の幾度か氾濫を受けながらも住居を構えていたことが知られている。多摩川南岸は多摩ニュータウン地域の大栗川と三沢川と南浅川流域に大規模な集落が点在する。多摩ニュータウンNo.72遺跡(127)は大栗川に面した周辺では最も安定した段丘上に立地するが、多摩ニュータウンNo.471・473遺跡(95)や小比企向原遺跡(315)・滑坂遺跡(169)などは丘陵の斜面地に立地する。95や315などは尾根頂部を巡るようにして住居跡は設けられ、集落構成の共通性が認められる。これらが中核となって周囲に小規模な集落がある。この地域より北側の多摩川南岸一帯は前述の3遺跡と同様の性格を見せる宇津木台遺跡群D地区(216)を除いてすべてが5軒以下の集落ばかりである。

加曾利E期は住居跡を検出した遺跡は120遺跡になり、全時期の最多を誇る。住居跡総数も約1,000軒を超している。しかしながら依然と5軒以下の小集落が6割を占めている。勝坂期より増加したのが10軒以上の中規模から大規模な集落で2割強にもなった。

まず多摩川北岸の分布では野川・仙川流域の北岸の「はけ」に集中が著しく認められる。

最奥部地域を除く流域南岸では全くと言っていいほど集落の確認はできない。これは南岸が北岸のような「はけ」を有しておらず、低地から中位面が続く環境にあり、住居の定着が困難なことの要因となろう。多摩ニュータウン地域内は遺跡数も若干増しているが、10軒以上の住居跡をもつ遺跡が7か所になり、住居跡数も増加傾向にある。大田川流域では多摩ニュータウンNo.72遺跡(127)・多摩ニュータウンNo.107遺跡(132)などの大集落があり、それぞれ大田川流域の河岸段丘上の広大な平坦地を利用して構築している。時期的には加曽利EⅡ期を中心として広がりを見せ、単一時期では多摩ニュータウンNo.300遺跡(146)などがある。この地域より北側の多摩川南岸一帯は勝坂期ではほとんどが5軒以内の遺跡ばかりであったが、6軒以上を有する遺跡が拠点的に分布している。白丸西の平遺跡などは多摩川上流域の中心的役割を示している可能性を考えるとできよう。住居跡数だけでなく遺跡分布も広がり、最奥部では現在小河内ダムによって水没したが堂場谷戸遺跡(305)がある。この時期の活動範囲は前期などに比較してより広範になっているのは、住居跡を構築する技術や狩猟採集に際する技術がより高度化し、適応化してきたことがあげられる。その例として、中期最終末になると敷石住居跡が出現してくる。いままでの竪穴住居跡と違いその敷石住居跡は石材の選定や構築からすると倍以上の時間を要し、技術も伴わなければならないからである。敷石住居跡は内陸的な要素をもつとされていたが、最近では多摩川下流域の各支流でも分布が認められている。時期的には後期前葉まで存在するとされている。

e. 縄文時代後期 (第6・13・14図 第6表)

後期住居跡を検出した遺跡は34遺跡に留まり、住居跡総数も53軒と非常に少ない。前述した中期の敷石住居跡のなかでは中期最終末から後期に属するものばかりだが、ここでは後期として断定しえたものしか表に記載しなかったが、より詳細な分析を行えばその住居跡数は増すことであろう。

遺跡の分布は中期を引き継ぐように広範囲であるが、多摩川南岸にその多くは位置する。多摩川北岸では野川流域は上流域の段丘上に位置する。また中期などでもみられたが、塚上遺跡(66)・下石原遺跡(355)・府中都市計画道路2・1・4号線遺跡(70)・多喜窪遺跡(61)の4遺跡は多摩川の浸食によった地形の段丘上の縁辺部に立地しており、多摩川の浸食作用が大きかったことが分布で明瞭に理解できる。多摩川南岸で特徴的に見られるのは各支流とも奥部に展開せず、支流が分岐する地点に多くは点在する。分岐する地点はやや

広い段丘を有する面をもつ箇所が多く、ここに選地し、その段丘が続く箇所にも範囲が拡大される。

東京湾周辺では後期の貝塚を伴う遺跡が中期よりも多く発見されており、対象地域では多摩川下流域において多くの分布が認められると予想していたが、結果は極めて少ない。これは地形的にみて前述した4遺跡の流域での浸食作用よりも河口地域はより大きいことが窺え、この要因が選地において大きな比重を占めていたものであろう。しかるに水系界の南と北側では貝塚遺跡が多く発見されるのは占地に足る十分な要素を持ちえていたからである。

f. 縄文時代晩期 (第7・13・14図 第7表)

晩期の住居跡を検出した遺跡はわずか4遺跡であり、住居跡総数も9軒だけである。晩期の遺物を出土した遺跡も100遺跡も満たないほどであり、対象地域外の晩期遺跡も同様に極めて少ない傾向にある。住居跡を検出した遺跡数と遺物出土量も少なく、その分布も散漫であるので、断定できないが、推測では集落の多くは多摩川下流域に集中しそうである。下沼部遺跡(1)・塚上遺跡(66)・上原遺跡(80)の3遺跡がこの下流域に分布するが、いずれも多摩川流域に沿った段丘の安定した場所を選んで占地している。1は非常に狭い範囲の発掘調査しか行われていないので、遺跡全体の調査が実施されれば多くの住居跡がのぞめ、晩期の性格をより濃くするであろう。中高瀬遺跡(279)は多摩川中流域に位置し、これも段丘上に立地する。279から下流域の間には住居跡こそ発見されていないが、大栗川下流の配石墓を多量に検出した新堂遺跡(471)や方形配石遺構など多種の遺構を検出した下布田遺跡(68)がある。ほとんどが多摩川流域に沿っており、遺物の出土した遺跡も各支流の上流に位置する。おそらく食料などの獲得などでも各支流の奥部まで入り込むことをせず済む良好な自然環境にあったのであろう。極めて活動範囲が狭くても安定した生活がなされ、各種の技術も高度化することによって大河川に面する地に居住が可能になったことが当該期で明瞭になった。

(3) 縄文時代の土地利用変遷の断面

— 野川流域と多摩ニュータウン遺跡群を中心にして —

前節では各時期の多摩川流域の分布傾向を中心にして概観を述べた。本節は具体例を多く有している（遺跡群）を選定して、多摩川を取り巻く環境についてより鮮明にする目的で2地域を抽出した。2地域は多摩ニュータウン地域と野川流域の対象地域では最も遺跡数を多く検出したところであり、また地形的に極めて大きな相違を示しており比較材料としては格好の資料である。野川は武蔵野台地南部に位置し、古多摩川の名残川で立川段丘の北端を流れている。この立川段丘は武蔵野段丘に側方浸食作用があつて形成されたと考えられ、立川段丘には「はげ」と呼ばれる国分寺崖線が続く。野川は日立中央研究所内の湧水地から注がれるが、途中の国分寺崖線上にはいくつもの湧水が集められ、立川段丘面を開析している。

野川流域の北岸にあたる「はげ」にはこうした多数の湧水地に接して多数の遺跡が旧石器時代から縄文時代後期まで連なって存在する。しかしながら各時期ごとに遺跡の分布を追ってみるとこの流域は縄文時代早期では数か所の遺跡で住居跡を確認できただけで、早期に比定される炉穴も僅かである。前期では1遺跡のみで予想外に少ない。「はげ」の環境を考えると広い平坦地をもち、かつ海進の時期（縄文時代前期）には広葉落葉樹林に移るころで、十分な採集が可能であつた筈である。にもかかわらず一定の居住を示す住居跡の存在が少ないことは、生活基盤となる食料獲得は他にあつたとしか考えられない。中期になると爆発的な住居跡の増加傾向にあるのは、前時期と違った食料獲得形態（システム）が形成されたのであろう。おそらく中期では豊かな湧水地のもとに植物等を主体とする採集生活の確立へと変化があつたことが推測できる。後期になると、また遺跡数の減少がみられるが、遺跡の立地にも若干の変化を窺える。台地上に立地するのもあるが、台地の裾部から緩斜面地に住居跡をもつ遺跡がみられるようになる。このことは台地上に位置するよりもより河川に面する方が有効性をもつ生活の基準があつたからであらう。おそらく野川に深い関わりをもつ狩猟採集がそこにはあり、具体的には魚介類の獲得行動などが主流を占めていたのであろう。

一方、多摩ニュータウン遺跡群ではどのような様相を示すのであろうか。多摩ニュータウン遺跡群は多摩丘陵に位置し、丘陵内には大栗川・乞田川・三沢川という主要河川が流れる。地形は河岸段丘もみられるが、多くは丘陵地形の特徴を有し、斜面地が大半である。

この地域は旧石器時代から縄文時代後期まで各時期の遺跡が疎密はあれど分布する。野川流域と極端に異なるのは前期の住居跡の分布である。その数量差は格段であり、そこに人々の当該期の生活ぶりが如実に現われている。前期の住居跡は丘陵の裾部にあたる中位面より下部のやや緩い斜面地などに多く点在する。また、ほとんどは各河川に面しており、奥部には検出されない。各河川とも大きな氾濫は認められず比較的安定した地形を呈していたようであり、よって河川の近くで生活基盤を設けることができたのであろう。しかも丘陵地内には豊富な植生があったと考えられ、丘陵奥部にも活動範囲は当然あったことは否定できない。それならば野川流域においても同様の傾向があってもしかるべきだが、当該期の住居跡が極端に少ないことから、むしろ内陸的な広範囲にわたる季節性の未発達な狩猟採集活動（漁撈を含む）が展開されていたと推測する方が自然的ではなかろうか。中期になると2地域だけではなく他地域にも多くの住居跡が分布しており、台地上や丘陵頂部など多種多様な地形に立地している。この時期になると前述のように内陸的な前半期の狩猟採集活動から、季節的な土地利用システムの確立と領域形成の発達を予想可能な狩猟採集活動へと移行するものとする。住居跡群や集落の広範囲での展開は、土地利用システムの高度の進化による人口許容力 *carrying capacity* の増大の結果であろう。2地域では地形的にも典型的に異なりをみせるが、それでもそれぞれに大集落を持ちえているのは技術的な補足がなされた結果によるものである。次に後期になると多摩丘陵地域においてはまさに河川に面した、それも奥部へは望まずに支流の下流域の近くに集落を設けている。中期よりもより狩猟採集の効率化が図られ、かつ当該期では海岸線において貝塚が多くなる傾向も考えあわせると多摩川流域へも漁撈技術が伝達され、その技術に伴ってより漁撈活動に重点を移した狩猟採集形態にもとづく生活基盤が成立したのであろう。このことから中期よりも一層の居住の定着化が進められたと考える。

野川流域と多摩ニュータウン遺跡群における各時期ごとに地形的側面・分布的側面等からみた土地の利用ならびにその変遷を以上にあげてみた。この結果からあくまでも住は副次的であり、生活の根幹をなす食料の獲得が最優先され、この視点から当時の人々はより住みやすい地を求めて領域の設定がなされてきたのであろう。まさに2地域の前期でのあり方などをみて、実証できる材料であった。

4. 多摩川流域の旧石器時代

(1) 概観

多摩川流域には、現在 218 遺跡にのぼる旧石器時代の遺跡を確認しているが、その内訳は、ナイフ形石器文化期 108 遺跡、尖頭器石器群 97 遺跡、細石器石器群 35 遺跡、時期不詳 58 遺跡となる。ナイフ形石器文化期が最も多いが、当該期は約 3 万年前から約 1.3 万年前と持続期間が長く、一方、尖頭器石器群が約 1.5 万年前から約 1.2 万年前、細石器石器群が約 1.2 万年前から約 1.1 万年前と比較的短い（年代はいずれも推定）。従って、必ずしも人口学的多少を表現しているとは考えられず、むしろ漸増傾向にあるものと考えられる。

ナイフ形石器文化期は、ちょうど末期を除いて後期旧石器時代の大部分の年代に相当するが、約 2 万年前を境に、前半期と後半期に 2 分される。前半期の遺跡は、全国的（約 350 遺跡）に見れば多摩川流域は比較的多いほうであるが、それでも 20 遺跡程度である。前半期から後半期に連続居住する遺跡も多く、約 100 遺跡強が後半期に属する。尖頭器石器群は、ナイフ形石器文化期（後期旧石器時代）後葉で共伴し始め、漸増しながらついには尖頭器主体の遺物組成を示すため、厳密な時期区分はできない。従って、本論では、あえて、時期区分することなく、目安として区別しているにすぎない。

尖頭器石器群は、周辺加工尖頭器や片面加工・準両面加工及び両面加工の尖頭器（いわゆる槍先形尖頭器）を対象としている。尖頭器主体の石器群は、準両面加工か両面加工の尖頭器が組成の主体となることが多い。ここでは、文化層中に尖頭器が存在する遺跡は全てカウントした。

細石器石器群は、古相の野岳・休場型（稜柱系）と新相の船野型・ホロカ型・湧別技法による細石核諸型式（削片系）に分期できるが、ここでは一括している。なお、最近の事例では、削片系細石核に土器が伴う例が知られているが、ここでは詳細な分析の対象には加えず、各論で扱うことにしたい。

ナイフ形石器文化期・尖頭器石器群期・細石器石器群期のみで構成される遺跡は、各々 44・37・9 遺跡であり、いずれかの複合遺跡 62 遺跡に比してもそれほど多くない。複合遺跡のうち、ナイフ形石器文化期＋尖頭器石器群期が 35 遺跡、尖頭器石器群期＋細石器石器群期が 16 遺跡有り、他に、ナイフ形石器文化期＋細石器石器群期も少数（6 遺跡）だが存在する。注目されるのは、3 時期全てを複合させる遺跡が 16 あることで、このことは、後期旧石器時代全体を通じて著しい遺跡立地の違いを見せないことをよく物語っている。各数

値から解釈する限り、各々単独時期で構成される遺跡も多いが、複合遺跡もそれほど少なくはなく、後期旧石器時代内では、大幅な劇的な土地利用パターンの変更を生じていない可能性が高いことを示相するものと言えよう。換言すれば、後期旧石器段階においては、生業や生態系適応戦略の微環境に応じた特殊化はそれ程進行しておらず、各々の時期の独自の適応戦略を開発しながらも、大勢においては、通時的な土地利用の様態が保持されているものと考えられる。この傾向は、縄文時代にも基本的に引き継がれる現象であることは興味深い。

日本列島の後期旧石器段階は、季節的な定着性を持ちながらも移動生活を基本としており、少なくとも後半期の始めには準部族社会段階に到達していた可能性が高い。一方、縄文時代は、定着集落を形成する部族社会（一部に階層化社会化していたとする有力な説もある）ではあるが、年間の適応戦略中には、集住的な冬村と夏季を中心とする植物採集・狩猟のための散住形態のような構造を有していた可能性が高い。ある意味で対照的とも思えるような両段階間で、立地や分布に共通要素を多分に見い出せることは、大きな意味を持つ。

（２） 旧石器時代各時期の多摩川流域の様相

a. ナイフ形石器文化期 （第16図）

ナイフ形石器文化期は、約2万年の長きにわたって日本列島に展開した独自の地域文化であるが、多摩川流域の旧石器時代の遺跡もその大多数が本期に所属する。従って、旧石器時代の遺跡分布は、すなわち本期の遺跡分布と類同であり（第15・16 図）、しかも縄文時代の遺跡分布とよく似た傾向を示す。ただし縄文時代に比して、中流から上流寄りには遺跡の分布が極端に少なく、ナイフ形石器文化期の土地利用＝環境開発が、上流部の険しい山地には本格的には及んでいなかったことをよく証左している。この理由としては、当該期がいわゆる氷期に該当し、海水準の低下の著しい時期のため、東京湾が陸化していた可能性も大きな要因として挙げられるが、むしろ、ナイフ形石器人の生計戦略の基盤が中～下流域の低丘陵～台地上にあったことをよく示唆するものと考えられる。広く列島を見渡しても、標高差はあるにせよ、類似環境での遺跡群の形成と発達も顕著に認められ、しかも通時間的な面的変遷は観察されないことは、多摩川流域例が特異的現象ではないことをよく表している。

特に、ナイフ形石器文化期の特徴としては、顕著な遺跡群の形成にある。著しい遺跡の

集中は、3箇所程見られ、仙川の北岸域、野川の北岸域及び多摩ニュータウンの大栗川を中心とする河川域が指摘できよう。旧石器時代の調査の場合、いわゆる関東ローム層を大深度に掘下げる調査法の関係から、調査の進遅の別に大きく左右された調査成果の偏りを示すが、これら3地域の遺跡群形成の傾向はゆるがないであろう。

仙川北岸域及び野川北岸域は、武蔵野段丘面と立川段丘面の境が形成する崖線上に多くの遺跡が立地し、背後に広い台地を控える好環境を形成している。清瀬市伊勢遺跡のように、周辺に水場のない遺跡例も僅かに散見されるようだが、基本的には中・小河川に面した段丘上等に立地選択の意志が働いていた可能性が高い。一方、多摩ニュータウン地域は、一見すると丘陵地ではあるが、当該期の遺跡の顕著な集中は、中・小河川によってようやく形成された河岸段丘上に点在しており、背後に丘陵を有するか台地を有するかの差異があるとしても、遺跡立地は前2者とよく共通している。ただし、多摩ニュータウンNo.512遺跡例のように、中・小河川の合流部を見下ろす小高い尾根上（比高差80m以上）に立地する遺跡もあり、こうした遺跡は、石器群の内容からみて通常の生活跡ではなく、獣群の移動を監視するような見張り場的機能を持っていたものと推定している。丘陵部においては、こうした地形特性を利用した遺跡の機能別の展開も考慮せねばならず、今後の調査・研究の課題となろう。

b. 尖頭器石器群期 （第17図）

尖頭器石器群を出土した遺跡は、予想外に数が多い。これは、単独出土例が多いためであるが、前段階のナイフ形石器文化期の諸遺跡と共通する分布上の特徴を有している。ただし、遺跡の集中の度合いは、ナイフ形石器文化期よりも若干弱く、やや分散する傾向を持つ。このことは、この時期の尖頭器が、ナイフ形石器との機能分化により出現したのではなく、機能を強化する形で漸進的に置き換わられたものであろうとする仮説とも分布論・立地論的に矛盾しないと考えている。実際に、槍先形尖頭器は、ナイフ形石器文化（＝後期旧石器時代）後半期にかなりの期間併存し、漸進的に変遷・移行しているのである。

c. 細石器石器群期 （第18図）

一方、細石器石器群は、存続期間の短さもあづかってか、遺跡数は相当に少ない。しかも多くは、いわゆる稜柱形の野岳・休場型を主体とし、舟底形は非常に少ない特徴を持つ。従来、細石器石器群は、河川との関連でよく論じられたが、分布から見るかぎりでは、ナ

イフ形石器文化期・尖頭器石器群期と共通した要素を強く示唆している。しかも、松原村王子ヶ城遺跡のように、きわめて内奥部まで分布を伸ばしている例もあり、かならずしも河川を主とした内水面漁撈との関連でのみとらえることはできないであろう。むしろ、細石器石器群中、縄文時代により近い時期に、列島の北半ないし西半から波及した削片系細石核を有するグループがこれを担った可能性が高い。舟底形の細石核を持つ削片系のグループは、石器組成においても異なりを見せるが、何よりも河川との関連を強く示唆する立地選択の傾向を有しており、これらの人間集団の生態系適応戦略の変更は、縄文時代との関連で重要な問題となろう。

(3) 土地利用の変遷 —旧石器時代から縄文時代へ—

ナイフ形石器文化期から尖頭器石器群期及び稜柱形を主とする細石器石器群期にかけての遺跡立地には、顕著な違いを見出すことはできない。これは、基本的な土地利用パターンの抜本的な変更がなく、生態系適応戦略の進化を伴いながらも基本的な生業パターンの根本的变化がなかったことを示唆している。

一方、細石器石器群でも比較的後出の削片系細石核を持つ石器群は、その前段階である稜柱形に比べて、はるかに数は少ないもののいくつかの対照的なあり方を示す。まず第一に、稜柱形がほぼ遠隔地石材である黒曜石を石材としているのに対して、削片系は、珪質頁岩を主とするものと在地産の凝灰岩等を主とするものの2者に分かれる。他の器種においても、時間的変遷に伴い、遠隔地石材に依存する比率を次第に弱め、在地石材の割合を増すことが確かめられていることから、このことは、遠隔地石材の安定供給に表象される旧石器時代的な物質の交換・流通網の崩壊を表すものと考えられる。削片系細石器群の関東での分布は、褐色珪質頁岩製の荒屋型彫器・同細石核・角二山型搔器からなる石器群が利根川に強く結びついて分布しており、一部は荒川付近にまで達している。これら石器群の代表的遺跡である新潟県荒屋遺跡では、炭化物を多く含む多数の土坑や焼土跡が存在し、遺跡立地も大規模河川の合流部に位置する。石器の残存脂質分析でサケの解体の可能性が報告されている。従って、荒屋遺跡は、内水面漁撈に特殊化した遺跡と考えられる。

一方、神奈川では、九州方面が起源と考えられる船野系の舟底形細石核を有する一群が分布する。これらの船野系石器群は、在地産の緑色凝灰岩を主石材とし、いずれも河川付近の低標高地に分布が偏在するらしい。この中でも、最近発見された相模原市勝坂遺跡では、きわめて古い段階の土器が共伴することが確かめられている。

これらの証拠から推論すると、ナイフ形石器文化期から尖頭器石器群、稜柱形の細石器石器群は、基本的には旧石器時代的な遊動的生態系開発戦略を進化・発展させながら展開したが、後氷期の環境変化に促されて、地域社会の（情報）ネットワークが崩壊し、削片系細石器石器群の出現を契機とした縄文的な定住型狩猟採集経済へとシフトしていくものと考えられる。この際、縄文的生態系開発戦略へ移行させたりリリーサーは、従来議論の俎上にまったく挙がらなかった削片系細石器石器群の生業行動様式＝内水面漁撈活動にあるのではないだろうか。そもそも、漁撈活動は、狩猟採集活動とは異なり、河川の一定地点での一定期間・季節にわたる定着を強いる。従って、定住化とはとても呼べないが、定着化行動と言うひとつの先適応 *preadaptation* があって、初めて本格的な定住型の狩猟採集活動へと道を開いたものと考えられる。

5. 弥生時代以降の土地利用変遷の概観

多摩川流域では、先述のように、縄文時代晩期の遺跡は非常に少ない。しかも、河川との依存関係を強化していたことが推定されたが、弥生時代の開始期においても同様な現象が認められる。当該流域の弥生時代は、前期末から中期段階より確認されはじめるが、これは、前期段階の遺跡が存在しないというよりも、南関東においては、弥生編年で言う前期段階の明瞭な痕跡がきわめて乏しく、最近の研究では、縄文時代晩期から弥生時代前期後半～中期初頭に連続するものと考えられている。いずれにせよ、弥生時代初頭の遺跡は、下流域に限られるようであり、後期以降になると次第に中流域に分布を伸ばすらしい。従って、多摩川流域の土地利用史上、旧石器時代から縄文時代草創期への変化及び縄文時代中期末から後期への変化と並ぶ大きな画期的変化であると考えられる。

この理由としては、従来よりの見解は、初期の農耕技術によって開発可能な河川下流域が、まず占地されたとされてきたが、当地域では、実際に水田跡が検出された例に乏しく、実体的には不明な部分が多い。最近の弥生研究では、水田農耕以外の畑作や狩猟の比重を重視する見解が有力になりつつあり、従前の水田農耕史観（水田農耕斉一説）から、弥生初頭における縄文的な生業パターン（システム）の継続と多様な生業論に観点が移行してきている。当該地域でも、縄文晩期の遺跡立地と近い点や、遺物組成も土器文様・形式組成の内容が連続する点から見て、上記の観点での理解も有効と考えられる。

弥生時代終末と古墳時代の開始は、通常近畿における首長墓系列としての前方後円墳の成立によって画期されるのが一般的であることから、前方後円墳の本格的な展開が見られない多摩川流域では、ただちに決定することがむずかしいが、概ね弥生時代には上流域への進出はなかったとする見解をここでは採用する。弥生時代後期後葉から古式土師器の段階の遺跡は、相対的に豊富である。古墳時代になると、上流域への進出は本格化し、各地に集落や方形周溝墓（これらの方形周溝墓は古墳時代初頭と考えられている）等が作られるようになるが、それでも本流や支流の、前面に比較的広い谷底平野を有する段丘面上に立地が集中する傾向を有する。古墳時代中期以降の集落は、前段階と異なり、逆に数が少なくなる。このことは、一見すると人口減少に短絡化されてしまいがちであるが、恐らく発掘調査の進んでいない沖積面に集落が展開するものと思われる。土地利用史の観点からすれば、縄文時代的な生業パターンに農耕が組みこまれた弥生時代的な台地環境への依存度の高い集落立地から、水田農耕への集約がほぼ完成され、その周囲に同心円的に各種副

次的生業を配するシステムの成立により、沖積面への集落の進出を促した古墳時代中期段階への移行は、きわめて重要な意味を持つ。

後半段階には、下流域や中流域の段丘面には円墳を主体とする古墳群が形成される。細い支流部の丘陵内へ万遍なく集落が進出するのは奈良時代以降であり、この段階でようやく面的な流域の開発が本格化したものと評価できよう。古墳時代の後半段階には、規模の大きい支流内に大量の横穴墓群や集落が形成され、奈良時代以降、小さな流域にまで集落立地が認められるようになる。特に、こうした平安時代の山間部の集落は、きわめて規模が小さく、通常2～3軒を単位としており、作業場的な施設を伴うことが多く、散村形態での丘陵開発の実体をよく示している。すでに国家体制が確立し、律令体制の下で武蔵国として確立した政治制度を有しており、この時代以降、多摩川流域史は本格的な歴史時代に突入するものと考えられる。

6. おわりに

以上の結果、多摩川流域の先史時代の土地利用の変遷は、面的拡張ではなく、質的な生態系適応戦略システムの変換にあることが明らかとなった。その大きな画期は3つある。第一は、遊動型狩猟採集戦略の旧石器時代終末から定住型狩猟採集戦略の縄文時代初頭への変化。第二は、縄文時代初頭より連綿と進行した縄文的な採集重視型の狩猟採集活動のピークである縄文時代中期から、河川環境の開発戦略へ重点を移行した後期への変化。第三は、弥生時代初頭の農耕経済導入あるいはその影響下に展開した土地利用様態の変化である。

先史時代より多摩川流域を開発してきた人々は、一線的に面的拡大を遂げながら漸進的に土地利用を進行させたのではなく、その時々々の生態系を開発戦略を、時代や文化の技術的枠組みの中で最大限機能的に発揮しながら、システム変換と言う、一面では劇的とも呼ぶような断続的な変化を通して、土地利用システムを進化させてきたと言えよう。

第1表 多摩川流域縄文時代遺跡一覽

1	下沼部貝塚	56	花沢西	111	多摩ニュータウンNo.52
2	奥沢台	57	恋ヶ窪南	112	多摩ニュータウンNo.281
3	下野毛	58	恋ヶ窪	113	多摩ニュータウンNo.450
4	六所東貝塚	59	羽根沢	114	多摩ニュータウンNo.466
5	稲荷丸北	60	恋ヶ窪東	115	多摩ニュータウンNo.769
6	瀬田	61	多喜窪	116	多摩ニュータウンNo.57
7	滝ヶ谷	62	上神明	117	多摩ニュータウンNo.779
8	下山	63	東塚	118	多摩ニュータウンNo.73
9	下山北	64	弁財天池	119	堂場
10	堂ヶ谷戸	65	寺前東	120	和田・百草
11	総合運動場	66	塚上	121	仁王塚
12	厚生年金センター	67	上布田	122	万蔵院台
13	大蔵	68	下布田	123	御嶽山
14	向野田	69	飛田給	124	多摩ニュータウンNo.64
15	上之台	70	府中都市計画道路2・1・4号線	125	多摩ニュータウンNo.67
16	西台	71	谷保東方	126	多摩ニュータウンNo.446
17	釣鐘池北	72	南養寺	127	多摩ニュータウンNo.72
18	田中・寺前	73	谷保上之下 所在	128	多摩ニュータウンNo.433
19	北野	74	向郷	129	多摩ニュータウンNo.426
20	市立第五中学校	75	大和田	130	多摩ニュータウンNo.727
21	丸池	76	御伊勢前	131	多摩ニュータウンNo.101
22	殿山	77	野山第4	132	多摩ニュータウンNo.107
23	嘉留多	78	狭山	133	多摩ニュータウンNo.512
24	砧中学校	79	上作延南原	134	多摩ニュータウンNo.630
25	下神明	80	下原	135	多摩ニュータウンNo.125
26	入間町城山	81	長尾鯉坂	136	多摩ニュータウンNo.401
27	若葉町	82	権現台	137	多摩ニュータウンNo.402
28	滝坂	83	長尾台	138	多摩ニュータウンNo.457
29	中台	84	初山	139	多摩ニュータウンNo.745
30	蛇久保	85	栗谷	140	多摩ニュータウンNo.740
31	上野原	86	西首遺跡第2地点	141	多摩ニュータウンNo.91
32	池ノ上	87	西首遺跡第3地点	142	多摩ニュータウンNo.463
33	寺山	88	弦巻	143	多摩ニュータウンNo.122
34	東原	89	駒沢学園校地内	144	多摩ニュータウンNo.699
35	羽根沢台	90	武蔵台	145	多摩ニュータウンNo.207
36	原	91	多摩ニュータウンNo.3	146	多摩ニュータウンNo.300
37	天文台構内	92	多摩ニュータウンNo.5	147	多摩ニュータウンNo.518
38	出山	93	黒川台西	148	多摩ニュータウンNo.358
39	坂上	94	北浦	149	多摩ニュータウンNo.293
40	野川	95	多摩ニュータウンNo.471・473	150	多摩ニュータウンNo.406
41	I C U構内遺跡群	96	多摩ニュータウンNo.470	151	多摩ニュータウンNo.359
42	野川公園柵	97	宮添	152	多摩ニュータウンNo.145
43	武蔵野公園	98	多摩ニュータウンNo.380	153	多摩ニュータウンNo.182
44	栗山	99	多摩ニュータウンNo.520	154	多摩ニュータウンNo.226
45	新橋	100	多摩ニュータウンNo.378	155	多摩ニュータウンNo.114
46	中山谷	101	多摩ニュータウンNo.379	156	高幡台A
47	前原	102	多摩ニュータウンNo.511	157	八王子市打越町、北野町 所在
48	貫井南	103	多摩ニュータウンNo.20	158	北野
49	西之台	104	多摩ニュータウンNo.19	159	打越中谷戸
50	平代坂	105	多摩ニュータウンNo.46	160	南部地区No.3
51	はけうえ	106	桜ヶ丘ゴルフ場 所在	161	南部地区No.10
52	貫井	107	向ヶ岡	162	馬場谷戸南
53	荒牧	108	多摩ニュータウンNo.27	163	南部地区No.55
54	花沢東	109	多摩ニュータウンNo.30	164	南部地区No.54
55	本町(国分寺村石器時代)	110	多摩ニュータウンNo.31	165	大原A・B・C(南部地区No.6)

166	南部地区No.12	223	宇津木台遺跡群H地区	280	北小宮
167	南部地区No.14	224	西野	281	羽ヶ田
168	南部地区No.9	225	下耕地	282	岳の上
169	滑坂	226	石川天野	283	日の出町大久野新井 所在
170	南部地区No.15	227	春日台	284	羽ヶ田上
171	南部地区No.23	228	北大谷	285	山根坂上
172	南部地区No.21	229	宇津木向原	286	方砂
173	南部地区No.22	230	滝山高燥	287	寺改戸
174	南部地区No.20	231	野久保	288	千ヶ瀬
175	南部地区No.18	232	創価大学・太陽の丘	289	K-11-2 (大塚山)
176	南部地区No.44	233	鞍骨山	290	喜代沢
177	南部地区No.27	234	中野甲の原	291	裏宿
178	南部地区No.38	235	中田	292	崩橋
179	南部地区No.36	236	西中野	293	大附
180	南部地区No.28	237	原屋敷	294	雨竜岳
181	南部地区No.29	238	檜原	295	下宿
182	南部地区No.30	239	弁天池・弁天池北	296	滝振畑
183	南部地区No.40	240	船田	297	上生原
184	南部地区No.39	241	落越B・C地区	298	大船
185	南部地区No.35	242	落越D～F・H～V・X・Y地区	299	桜橋原
186	南部地区No.34	243	中原	300	入ヶ谷
187	南部地区No.33	244	宮田	301	下野原
188	南部地区No.32	245	十内入上原	302	白丸西の平
189	南部地区No.31	246	深沢	303	登計原
190	子安三丁目	247	狐塚	304	南氷川
191	御所水	248	力石	305	堂場谷戸
192	散田町横山中学校 所在	249	八王子市宮下町 所在	306	上河内平
193	狭間	250	櫛谷	307	京王帝都相模原線No.2
194	神谷原(櫛田第Ⅱ)	251	八王子市戸吹町熊野堂 所在	308	黒川東
195	櫛田第Ⅲ	252	戸吹	309	黒川台東
196	櫛田第Ⅳ	253	龍津寺東	310	吹上
197	櫛田第Ⅴ	254	秋川市二宮 所在	311	平山
198	下寺田	255	前田耕地	312	弁天橋
199	館町第5地点	256	寺中・宅地附・宮ヶ谷戸	313	野山第3
200	館町第7地点	257	二宮・二宮森腰	314	中郷原(下清水)
201	館町第1地点	258	武者手ヶ原・塚場	315	小比企向原
202	館町第8地点	259	清水	316	黒川丸山
203	館町第3地点	260	代継	317	坂東谷
204	神明上北	261	みとうがいで	318	桜田
205	神明上	262	中村	319	池の下
206	七ツ塚	263	松原	320	多摩ニュータウンNo.9
207	石川パーキング	264	五日市高校	321	多摩ニュータウンNo.90
208	広福寺台	265	下宿道上	322	多摩ニュータウンNo.116
209	宇津木台遺跡群J地区	266	戸倉オオラッ原	323	多摩ニュータウンNo.205
210	宇津木台遺跡群I地区	267	加茂原	324	多摩ニュータウンNo.206
211	東寺方	268	宇佐岳原	325	多摩ニュータウンNo.366
212	美根(平町A地点)	269	寺岡	326	多摩ニュータウンNo.382
213	宇津木台遺跡群A地区	270	雑司原	327	多摩ニュータウンNo.383
214	宇津木台遺跡群B地区	271	上川苔・峰	328	多摩ニュータウンNo.386
215	宇津木台遺跡群N地区	272	上川苔熊野神社	329	多摩ニュータウンNo.388
216	宇津木台遺跡群D地区	273	王子ヶ城	330	多摩ニュータウンNo.396
217	宇津木台遺跡群K地区	274	尾根通り	331	多摩ニュータウンNo.419
218	宇津木台遺跡群L地区	275	中之平	332	多摩ニュータウンNo.424
219	宇津木台遺跡群M地区	276	福生 所在	333	多摩ニュータウンNo.531
220	宇津木台遺跡群F地区	277	長沢	334	多摩ニュータウンNo.540
221	宇津木台遺跡群G地区	278	草花	335	多摩ニュータウンNo.544
222	宇津木台遺跡群E地区	279	中高瀬	336	多摩ニュータウンNo.608

337	多摩ニュータウンNo.636	392	多摩ニュータウンNo.363	447	多摩ニュータウンNo.801
338	多摩ニュータウンNo.677A	393	多摩ニュータウンNo.384	448	多摩ニュータウンNo.804
339	多摩ニュータウンNo.682	394	多摩ニュータウンNo.389	449	多摩ニュータウンNo.811
340	多摩ニュータウンNo.707	395	多摩ニュータウンNo.393	450	多摩ニュータウンNo.815
341	多摩ニュータウンNo.726	396	多摩ニュータウンNo.398	451	多摩ニュータウンNo.818
342	多摩ニュータウンNo.737	397	多摩ニュータウンNo.400	452	多摩ニュータウンNo.850
343	多摩ニュータウンNo.754	398	多摩ニュータウンNo.407	453	多摩ニュータウンNo.852
344	多摩ニュータウンNo.759	399	多摩ニュータウンNo.414	454	多摩ニュータウンNo.853
345	多摩ニュータウンNo.774	400	多摩ニュータウンNo.423	455	多摩ニュータウンNo.858
346	多摩ニュータウンNo.796	401	多摩ニュータウンNo.451	456	多摩ニュータウンNo.898
347	多摩ニュータウンNo.799	402	多摩ニュータウンNo.454	457	多摩ニュータウンNo.863
348	多摩ニュータウンNo.817	403	多摩ニュータウンNo.464	458	多摩ニュータウンNo.864
349	多摩ニュータウンNo.860	404	多摩ニュータウンNo.894	459	多摩ニュータウンNo.869
350	多摩ニュータウンNo.861	405	多摩ニュータウンNo.480	460	多摩ニュータウンNo.872
351	大久保	406	多摩ニュータウンNo.481	461	多摩ニュータウンNo.88
352	半蔵窪	407	多摩ニュータウンNo.482	462	多摩ニュータウンNo.98
353	精進バケ	408	多摩ニュータウンNo.490	463	多摩ニュータウンNo.99
354	天王台	409	多摩ニュータウンNo.503	464	多摩ニュータウンNo.188
355	下石原	410	多摩ニュータウンNo.509	465	多摩ニュータウンNo.175
356	稲荷森	411	多摩ニュータウンNo.513	466	多摩ニュータウンNo.32
357	亀の子山	412	多摩ニュータウンNo.514	467	池の上
358	潮見台A地点	413	多摩ニュータウンNo.523	468	川崎市多摩区菅 所在
359	潮見台B地点	414	多摩ニュータウンNo.525	469	風久保西
360	鷺ヶ峰	415	多摩ニュータウンNo.530	470	大塚
361	菅生水沢	416	多摩ニュータウンNo.556	471	新堂
362	南平	417	多摩ニュータウンNo.559	472	野川中洲北
363	北の谷	418	多摩ニュータウンNo.562	473	岡本前耕地
364	多摩ニュータウンNo.880	419	多摩ニュータウンNo.582	474	喜多見陣屋
365	多摩ニュータウンNo.4	420	多摩ニュータウンNo.583	475	東和泉
366	多摩ニュータウンNo.10	421	多摩ニュータウンNo.588	476	黒川海道
367	多摩ニュータウンNo.14	422	多摩ニュータウンNo.591	477	黒川若葉台駅
368	多摩ニュータウンNo.71	423	多摩ニュータウンNo.595	478	広福寺境内
369	多摩ニュータウンNo.92	424	多摩ニュータウンNo.597	479	平
370	多摩ニュータウンNo.105	425	多摩ニュータウンNo.603	480	国領南
371	多摩ニュータウンNo.113	426	多摩ニュータウンNo.615	481	谷ツ
372	多摩ニュータウンNo.146	427	多摩ニュータウンNo.622	482	中久保
373	多摩ニュータウンNo.166	428	多摩ニュータウンNo.638	483	東元町4丁目 所在
374	多摩ニュータウンNo.174	429	多摩ニュータウンNo.646	484	東京経済大学構内
375	多摩ニュータウンNo.177	430	多摩ニュータウンNo.652	485	堂山
376	多摩ニュータウンNo.227	431	多摩ニュータウンNo.661	486	浅間谷
377	多摩ニュータウンNo.231	432	多摩ニュータウンNo.663	487	六道山
378	多摩ニュータウンNo.237	433	多摩ニュータウンNo.664	488	七軒家
379	多摩ニュータウンNo.241	434	多摩ニュータウンNo.665	489	国分寺市光町一丁目 所在
380	多摩ニュータウンNo.266	435	多摩ニュータウンNo.671	490	国分寺市西元町一丁目 所在
381	多摩ニュータウンNo.271	436	多摩ニュータウンNo.676	491	国分寺市西元町三丁目 所在
382	多摩ニュータウンNo.287	437	多摩ニュータウンNo.683	492	国分寺市南町一丁目 所在
383	多摩ニュータウンNo.296	438	多摩ニュータウンNo.685	493	殿ヶ谷新田
384	多摩ニュータウンNo.303	439	多摩ニュータウンNo.721	494	松中原
385	多摩ニュータウンNo.304	440	多摩ニュータウンNo.734	495	天王橋A
386	多摩ニュータウンNo.307	441	多摩ニュータウンNo.748	496	上水向
387	多摩ニュータウンNo.309	442	多摩ニュータウンNo.749	497	大山道東
388	多摩ニュータウンNo.320	443	多摩ニュータウンNo.751	498	宮の橋
389	多摩ニュータウンNo.325	444	多摩ニュータウンNo.760	499	観音寺原
390	多摩ニュータウンNo.355	445	多摩ニュータウンNo.782	500	留原
391	多摩ニュータウンNo.891	446	多摩ニュータウンNo.789		

第2表 縄文時代草創期住居跡及び遺物出土遺跡一覽

遺跡No.	住居跡及び遺物	時期	備考
2	尖頭器 1		
3	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
19	有舌尖頭器 2	隆起線文系土器以前	
26	槍先形尖頭器 1		
31	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
39	石槍 1		
40	槍先形尖頭器 1		
46	微隆起線文系土器? 1	隆起線文系	
47	隆起線文系土器 1 有舌尖頭器 6	隆起線文系	
49	隆起線文系土器 1 有舌尖頭器 2	隆起線文系	
51	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
57	土器		数量不明
78	有舌尖頭器 1 尖頭器 1 石槍 6 2		
85	尖頭器 1		木葉形
91	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
92	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	小形
98	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
101	有舌尖頭器 4	隆起線文系土器以前	
111	有舌尖頭器 2	隆起線文系土器以前	
113	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	小形
115	有舌尖頭器 3	隆起線文系土器以前	
116	隆起線文系土器 1	隆起線文系	
127	有舌尖頭器	隆起線文系土器以前	数量不明
128	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
129	土器108 有舌尖頭器 1 0	隆起線文系土器以前	
130	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
135	土器 4 有舌尖頭器 1 尖頭器 2	隆起線文系土器以前	
138	有舌尖頭器 3	隆起線文系土器以前	
140	有舌尖頭器 6	隆起線文系土器以前	
150	有舌尖頭器 2	隆起線文系土器以前	
152	尖頭器 1		
201	尖頭器 3		
202	尖頭器 2		
222	尖頭器 2		
232	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
255	住居跡 2 土器 2 個体 石槍 2264 削器 196 搔器 136 石斧 2 石錐 3 礫器 1 2 磨石 1 石核・剥片	隆起線文系土器以前 初頭	石核・剥片は数量不明
257	多縄文系土器	多縄文系	数量不明
308	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
320	局部磨製石斧 1		
321	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
322	隆起線文系土器 2 3 打製石斧 1 1 搔器 3 削器 2 有溝磨製石器 1	隆起線文系 隆起線文系	
323	有舌尖頭器 1 石槍 1		
324	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
325	有舌尖頭器 4	隆起線文系土器以前	
326	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
327	有舌尖頭器 2	隆起線文系土器以前	
328	有舌尖頭器 3	隆起線文系土器以前	
329	有舌尖頭器 5 尖頭器 1		尖頭器は木葉形
330	局部磨製石斧 1		
331	有舌尖頭器 3	隆起線文系土器以前	
332	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
333	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
334	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	

遺跡No.	住居跡及び遺物	時期	備考
335	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	小形 菱形尖頭器は小形
336	有舌尖頭器 1 菱形に近い尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
337	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	尖頭器は木葉形
338	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
339	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
340	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
341	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
342	有舌尖頭器 3	隆起線文系土器以前	
344	有舌尖頭器 4 尖頭器 1		
345	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
346	土器約 60 槍先形尖頭器 1 3 打製石斧 4 搔器 1 砥石 1 剥片・碎片約 2000		
347	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
348	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
349	局部磨製尖頭器 1		
350	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
468	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
469	土器 6		大形
472	土器 116 有舌尖頭器 1 尖頭器 2 搔器 2 打製石斧 1 棒状石器 1 石核用素材 1 二次加工のある剥片 3 剥片 9 8 碎片 3 2 その他の石器 7 礫 250		
473	石槍 1		
474	尖頭器 1		
475	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
476	有舌尖頭器 5 尖頭器 2 石鏃 6? 搔器 1 有舌尖頭器? 4 剥片 1 3		
477	尖頭器 1?		
478	隆起線文系土器 1	隆起線文系	
479	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
480	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
482	石槍 打製石斧		数量不明
483	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
484	有舌尖頭器 1 槍先形尖頭器 3		柳葉形
485	石槍 1		
486	有舌尖頭器 2 石槍 1 7 搔器 2		
487	尖頭器 1		
488	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
489	有舌尖頭器 1 尖頭器 1		
490	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
491	有舌尖頭器 1	隆起線文系土器以前	
492	有舌尖頭器 1 槍先形尖頭器 2		
493	石槍 1		
494	石槍 1		
495	尖頭器 1		
496	石槍 3 削器 1 半月形石器 1		
497	石槍 1		
498	石槍 1		
499	石槍 1		

第3表 縄文時代早期住居跡等一覽

遺跡No.	住居跡及び他遺構	時期	備考
1	集石 2	早期	
8	炉穴 5	早期後半	
9	炉穴 2 9	早期後半	
10	集石 4	早期	
14	集石 1	早期	
15	住居跡 2	早期末	
19	住居跡 3	子母口	
20	住居跡 1 2	早期前半	
23	炉穴 8 1	早期後半 7 7 野島 4	
25	住居跡 3	燃糸文系終末	
28	住居跡 1 集石 1 屋外炉 1	住居跡は大浦山 他は稲荷台or平坂	
31	住居跡 1 集石 4	住居跡は燃糸文系終末 集石は早期前半	
32	竪穴状遺構 1 集石 1	夏島or稲荷台	
36	炉穴 1	三戸～田戸上層	
37	住居跡 3	早期前半	
38	住居跡 1 竪穴状遺構 2	早期後半	
40	炉穴 1 2	茅山	
51	住居跡 1 2 炉穴 8	住居跡は夏島or稲荷台 6 早期 6 炉穴は早期後半	
57	住居跡 1 6 炉穴 1	早期後半	
61	住居跡 1 集石 2 炉穴 1 集石土坑 1	住居跡は早期前半 炉穴は早期後半 集石は稲荷台or平坂 1 早期無文土器系 1 集石土坑は早期後半	
70	炉穴 7 群	田戸上層	
89	炉穴 2	早期後半～末	
90	住居跡 3	燃糸文系	
111	住居跡 3	井草or大丸	
120	炉穴 2	早期後半	
121	小竪穴 1	早期後半	
126	炉跡 1	早期前半	
129	炉穴 1	早期後半	
138	炉穴 5	早期後半	
140	土器埋設土坑 1	鶴ヶ島台	
149	住居跡 3	燃糸文系	
150	住居跡 1	早期前半	
152	住居跡 7 炉跡 1	早期前半	
153	住居跡 4	井草	
160	炉穴 2	早期後半	
163	炉跡 1	早期	
164	炉跡 1	早期	
165	埋甕 1	早期	
169	炉穴 6	早期後半	
170	炉穴 3	早期後半	
171	炉跡 1	早期	
175	炉穴 2	早期	
176	炉跡 1	早期	
178	炉跡 1	早期	
179	炉跡 1	早期	
183	炉穴 1	早期	
184	炉跡 1	早期	
185	炉跡 1	早期	
186	炉跡 1	早期	
187	炉穴 1	早期	
190	炉穴 3	早期	
194	住居跡 3 小竪穴 2 炉穴 5 4	住居跡・小竪穴は鶴ヶ島台 炉穴は早期	
197	炉穴 1 0	野島	

遺跡No.	住居跡及び他遺構	時期	備考
205	竪穴状遺構1	早期前半	
209	住居跡1	早期	
214	炉穴1	早期	
215	住居跡1	早期後半	
216	住居跡1 炉穴4	住居跡は早期前葉 炉穴は早期	
220	炉穴4	早期	
222	住居跡3 炉穴8 3 集石土坑1	住居跡は早期後半 炉穴は早期	集石土坑は早～前期
225	炉穴7	早期	
239	住居跡3 炉穴10	住居跡は野島? 炉穴は早期後半	
248	住居跡2 炉穴5 4	住居跡は早期前半1 早期後半1 炉穴は早期末	
257	住居跡5以上	早期前半	
292	竪穴状遺構1	早期前半	
302	住居跡3	夏島1 早期中葉1 早期末葉?1	
312	住居跡2 炉穴3	住居跡は野島1 条痕文系1 炉穴は野島	
313	住居跡2 炉穴7	住居跡は燃糸文系 炉穴は燃糸文系5 条痕文系2	
315	炉穴2	早期	
318	炉穴16以上	早期後半	
352	住居跡7 炉穴4 3	住居跡は早期末 炉穴は早期後半	
355	炉穴1	早期	
358	住居跡2 炉穴3	住居跡は茅山 炉穴は早期	
359	住居跡2 炉穴1	早期	
360	炉穴3 5	早期	
361	住居跡4 炉穴2 3	住居跡は稲荷台 炉穴は早期後半	
387	住居跡1	早期前葉	
421	集石1		早期後半～前期
425	竪穴状遺構1	早期後半	
462	炉穴2	鶺鴒ヶ島台	
464	炉穴4群	子母口or野島	
469	炉穴3群	早期	
470	住居跡3	早期前半1 早期後半1 早期1	
481	住居跡1 炉穴1	住居跡は鶺鴒ヶ島台 炉穴は早期	
500	炉穴5	早期	

第4表 縄文時代前期住居跡等一覽

遺跡No.	住居跡及び遺構	時期	備考
4	住居跡2	黒浜～諸磯c	
5	住居跡1 1	諸磯a 8 諸磯b 3	
6	住居跡1	諸磯b	
8	住居跡2	関山1 諸磯b 1	
9	住居跡1 集石3	住居跡は諸磯b 集石は諸磯	
10	住居跡1	黒浜	
18	住居跡1	前期前半	
54	住居跡1	諸磯b	
65	住居跡2	諸磯b	
77	住居跡1		前～後期と思われる
79	集石4	諸磯	
83	住居跡1	黒浜	
88	住居跡1	関山	
89	住居跡2 竪穴状遺構1 集石1	諸磯b	
92	住居跡1	前期前半	
96	住居跡1	前期前半	
101	住居跡2	関山	
102	小竪穴1	前期前半	
104	住居跡1	諸磯	
106	住居跡1	諸磯b	
108	住居跡4 埋窆1	花積下層	
109	住居跡2	諸磯b	
110	住居跡1	諸磯b	
111	住居跡1	黒浜	
112	住居跡1	関山	
114	住居跡1	花積下層	
116	住居跡2	関山	
118	住居跡1	諸磯b	
126	住居跡1	前期前半	
129	住居跡4 集石土坑1	住居跡は諸磯a	集石土坑は前～中期
130	住居跡1	黒浜	
131	住居跡1	諸磯b	
137	住居跡1	関山	
138	住居跡4 竪穴状遺構1 集石4	住居跡は花積下層1 諸磯a 1 諸磯b 2 竪穴状遺構・集石は前期	
139	住居跡1	前期後半	
140	住居跡4 竪穴状遺構1 土器埋設土坑2 0	住居跡は諸磯a or b 1 諸磯b 1 前期前半2 竪穴状遺構は諸磯b or c 土器埋設土坑は諸磯b or c 1 9	
141	住居跡5	前期前半1	
142	住居跡1 土器埋設土坑1	諸磯b 住居跡は諸磯b 土器埋設土坑は諸磯a or b	
143	住居跡1	諸磯b	
144	住居跡2	前期後半	
145	住居跡1	諸磯b	
148	住居跡4 竪穴状遺構1	住居跡は諸磯b 3 諸磯c 1 竪穴状遺構は諸磯c	
150	住居跡4	関山1 諸磯b 3	
151	住居跡1 竪穴状遺構1	住居跡は諸磯b 竪穴状遺構は諸磯か諸磯以前	
154	住居跡3	前期前半	
166	住居跡1 0	前期最終末2	8軒は前期末～中期初
170	埋窆1	花積下層	
173	住居跡1	前期	
182	住居跡1	前期	

遺跡No.	住居跡及び他遺構	時期	備考
189	住居跡 1	前期	
191	住居跡 1	諸磯 b	
197	住居跡 3	花積下層 2 関山 1	
206	住居跡 1	関山 or 黒浜	
207	住居跡 1	十三菩提	
212	住居跡 1	諸磯 b	
213	竪穴状遺構 1 集石 1	竪穴状遺構は前期前半 集石は諸磯	
214	住居跡 1	黒浜 or 諸磯 a	
216	住居跡 7	前期後葉 6 前期後葉? 1	
217	住居跡 1 集石 1	諸磯 b	
229	埋甕 1	諸磯 c	
233	住居跡 1	関山	
257	住居跡 1 3	関山 3 諸磯 b 1 0	
294	住居跡 1	花積下層	
302	住居跡 1	黒浜	
303	住居跡 2	十三菩提 1 水子 1	
308	住居跡 2 埋甕 1	花積下層	
311	住居跡 3	黒浜~諸磯 c	
332	土器埋設土坑 1	諸磯	
334	集石土坑 1	諸磯 b	
342	土器埋設土坑 1	前期後半	
352	住居跡 1	諸磯 b	
356	住居跡 5	花積下層 1 黒浜 1 諸磯 a 2 諸磯 b 1	
357	住居跡 3	黒浜~諸磯 c	
363	住居跡 1	諸磯 b	
368	住居跡 1	前期	
369	集石 1	諸磯	
372	竪穴状遺構 1	諸磯 c	
417	集石 1 2	前期	
432	竪穴状遺構 1	前期	
439	集石 1	前期	
446	住居跡 1	前期前半	
455	集石 2	前期	
457	土器埋設土坑 3	諸磯	
466	集石 1	前期後半	
481	住居跡 2 集石 1	住居跡は花積下層 1 諸磯 b 1 集石は前期前半	

第5表 縄文時代中期住居跡等一覽

遺跡No.	住居跡及び他遺構	時期	備考
2	住居跡2 6 竪穴状遺構1	勝坂2 加曾利E I 7 加曾利E II 2 加曾利E I ? 1 加曾利E ? 4 中期7 加曾利E第IV~VII段階3 竪穴状遺構は加曾利E IV	
3	住居跡1 1 炉跡1	加曾利E I 3 加曾利E I ~ II 1 加曾利E II 3 加曾利E II ~ III 2 加曾利E III 2 炉跡は加曾利E III	
6	住居跡2 屋外埋壘3	住居跡は加曾利E II 屋外埋壘は加曾利E	
7	住居跡2	加曾利E I	
8	住居跡2	勝坂1 阿玉台1	
10	住居跡1 6	勝坂III 9 加曾利E I 2 加曾利E II 3 中期後半2	
11	住居跡1	阿玉台	数量不明
12	集石土坑	中期	
13	住居跡2 0	勝坂6 阿玉台1 加曾利E I 5 加曾利E II 4 加曾利E II ~ III 2 加曾利E IV 2	
16	住居跡1	中期	
17	住居跡8	加曾利E II 1 加曾利E III 4 加曾利E IV 2 加曾利E I	
18	住居跡2	加曾利E	
19	住居跡9	勝坂III ~ 加曾利E II	
20	住居跡2 9 集石土坑1 1	勝坂II 6 勝坂III 10 加曾利E I 2 阿玉台1 加曾利E II 5 加曾利E III 4 加曾利E II ~ III 1 集石土坑は加曾利E	
21	集石1	中期	
22	住居跡1	加曾利E IV	
24	住居跡3	加曾利E I ~ III	
25	住居跡3 屋外炉1 散石1	住居跡は加曾利E I ~ II 1 加曾利E 2 屋外炉・散石は加曾利E	
26	住居跡3	加曾利E I 1 加曾利E II 2	
29	住居跡8	加曾利E	うち散石1
30	住居跡1 7	中期	
33	住居跡1	加曾利E	散石
34	住居跡1 5	勝坂II 3 加曾利E I 3 加曾利E II 5 勝坂I ~ II 1 勝坂II ~ 加曾利E I 2 勝坂~ 加曾利E I 1	
36	住居跡4	勝坂	
39	住居跡5 集石2	勝坂1 加曾利E第II段階1 加曾利E 2	1軒は加曾利E~称名寺 集石は加曾利E IV ~ 堀之内
41	住居跡3 8	勝坂II ~ 加曾利E IV	
44	住居跡2 集石土坑3 埋壘1 2	住居跡は勝坂II 集石土坑・埋壘は中期	
46	住居跡4 6	勝坂I 7 勝坂II 9 勝坂III 13 加曾利E I 3 加曾利E II 7 加曾利E III 5 加曾利E IV 2	
47	住居跡1 0	勝坂8 加曾利E II 1 加曾利E IV 1	
48	住居跡2 3	勝坂I 3 勝坂II 9 勝坂III 4 加曾利E I 4 加曾利E II 3	
50	住居跡3	勝坂2 加曾利E II 1	
51	住居跡4	加曾利E II	
52	住居跡6	勝坂4 加曾利E II 2	
53	住居跡1	勝坂	
54	住居跡2	勝坂I	
55	住居跡1 3 埋壘2	住居跡は加曾利E I 3 加曾利E II 1 0 埋壘は加曾利E III	

遺跡No.	住居跡及び他遺構	時期	備考
56	住居跡1 埋甕3	住居跡は加曾利E第V段階 埋甕は加曾利EⅡ	
57	住居跡4 集石土坑11	住居跡は五領ケ台 埋甕は五領ケ台～勝坂	
58	住居跡20 埋甕3	住居跡は勝坂Ⅰ1 勝坂Ⅱ2 加曾利EⅠ2 加曾利EⅡ7 加曾利EⅢ1 加曾利EⅣ4 加曾利E第Ⅲ段階1 加曾利E第V段階2 埋甕は加曾利E第Ⅵ段階	
59	住居跡8	加曾利EⅣ	うち敷石3
61	住居跡11 集石2 埋甕を伴う配石1	住居跡は勝坂 集石は勝坂 埋甕を伴う配石は加曾利E	
62	伏甕1	加曾利EⅡ	
63	住居跡1	加曾利E	
64	住居跡24	中期	うち敷石1 (加曾利EⅣ)
66	住居跡1	加曾利E	
67	住居跡2		柄鏡(加曾利EⅣ～ 称名寺)
69	住居跡16 住居跡or配石3 竪穴状遺構2 集石11 埋甕4	住居跡は勝坂Ⅱ6 勝坂Ⅲ2 加曾利EⅠ2 加曾利EⅡ5 勝坂Ⅲ～加曾利EⅠ1 住居跡or配石は加曾利EⅣ 竪穴状遺構は 勝坂Ⅱ 集石は勝坂9 加曾利E2 埋甕は加曾利EⅡ	
70	住居跡23	勝坂Ⅱ8 勝坂Ⅲ4 加曾利EⅠ3 加曾利EⅣ3 加曾利E5	
71	住居跡2	加曾利EⅣ	
72	住居跡25	住居跡は勝坂Ⅱ8 勝坂Ⅲ～加曾利EⅠ1 勝坂12 加曾利E後半1 集石は勝坂Ⅱ	うち敷石2・柄鏡1 (加曾利EⅣ) 敷石(中期後半 ～称名寺)
73	住居跡1		
74	住居跡約68	勝坂1 加曾利E約60 中期7	敷石3(加曾利E2 中期1)
75	住居跡26	勝坂1 加曾利EⅠ1 中期14	敷石3(中期)
78	住居跡4	加曾利EⅡ1 加曾利EⅢ3	
81	住居跡9	勝坂Ⅱ1 勝坂Ⅲ1 加曾利EⅠ4 勝坂Ⅱ～Ⅲ2 勝坂～加曾利EⅠ1	
82	住居跡1	勝坂	
84	住居跡18	勝坂Ⅱ～加曾利EⅣ17	柄鏡1(加曾利EⅣ)
85	住居跡2	五領ケ台	
86	住居跡2 墓壇1	住居跡は加曾利EⅠ 墓壇は勝坂	
87	住居跡1 敷石遺構1	住居跡は加曾利EⅢ 敷石遺構は加曾利E後半	
88	住居跡2	加曾利EⅠ 加曾利EⅡ1	
89	住居跡1 竪穴状遺構1	五領ケ台	
90	集石土坑3	中期	
91	住居跡2	勝坂	
93	住居跡	中期	数量不明
94	集石1	加曾利EⅠ	
95	住居跡50 埋甕2 長方形柱穴列5 墓壇20～30	住居跡は五領ケ台2 勝坂48 埋甕は勝坂Ⅰ 長方形柱穴列・墓壇は勝坂	
97	住居跡15 埋甕7	住居跡は勝坂Ⅲ～加曾利EⅠ1 加曾利EⅡ～Ⅳ14 埋甕は加曾利EⅢ	
98	住居跡1	加曾利E未	
99	住居跡13	勝坂1 加曾利EⅠ～Ⅱ12	
100	住居跡1	勝坂	
103	住居跡1	加曾利EⅢ	
105	住居跡31 集石4	勝坂	

遺跡No.	住居跡及び他遺構	時期	備考	
108	住居跡1 炉跡1	住居跡は加曾利E 炉跡は加曾利EIV	敷石(加曾利EIV ~後期前半) 柄鏡1(加曾利EIV)	
111	住居跡1 墓墳1	住居跡は勝坂Ⅲ 墓墳は加曾利EⅡ		
113	住居跡1			
115	住居跡4	加曾利EⅡ~Ⅲ3		
116	住居跡8 埋甕1 石組遺構1	住居跡は加曾利EⅢ5 加曾利EIV3 埋甕は加曾利EⅢ 石組遺構は加曾利EⅢ		
120	住居跡4 墓墳1	住居跡は勝坂Ⅱ1 勝坂Ⅲ2 加曾利EⅢ1 墓墳は加曾利EIV		
122	住居跡4	勝坂2 加曾利EⅡ2		
125	住居跡15	勝坂Ⅲ1 勝坂3 加曾利EIV4 加曾利E6 中期1		
126	住居跡20	勝坂17		敷石3(加曾利EIV) 敷石15(加曾利E末 ~称名寺) 埋甕は(加曾利EIV~ 称名寺)
127	住居跡140 埋甕15	住居跡は勝坂20 加曾利EⅠa10 加曾利EⅠb75 加曾利EⅡ~Ⅲ20		
128	住居跡1	加曾利EⅠ		
129	住居跡1	勝坂		
132	住居跡30	勝坂1 加曾利EⅡ1 加曾利EⅢ28		
133	住居跡2	勝坂1 勝坂~加曾利EⅠ		
134	住居跡1	加曾利EⅡ		
135	住居跡6	勝坂Ⅲ~加曾利EⅠ1 中期5		
136	住居跡1	加曾利EⅢ		
140	土器埋設土坑1	五領ケ台		
146	住居跡30	加曾利EⅡ		
147	住居跡1	加曾利E		
149	住居跡2	加曾利E		
150	住居跡1	加曾利EⅠ		
155	住居跡4	加曾利EⅢ		
159	住居跡2	加曾利EⅠ		
161	住居跡1	中期		
166	住居跡1	五領ケ台		
167	住居跡2 竪穴状遺構1	住居跡は加曾利EⅢ 竪穴状遺構は中期		
168	住居跡1	中期		
169	住居跡74	勝坂Ⅰ3 勝坂Ⅱ31 勝坂Ⅲ20 加曾利EⅡ2 加曾利EⅢ1 加曾利EIV1 勝坂~加曾利EⅠ古5 加曾利EⅠ新11		
170	住居跡4	勝坂Ⅱ	加曾利EIV~堀之内1	
171	住居跡1	中期		
180	住居跡1	勝坂		
181	住居跡1	中期		
188	住居跡1	中期		
190	住居跡4	勝坂Ⅱ3 加曾利EⅢ1		
192	住居跡1			
194	住居跡47 集石24 方形柱穴列1	住居跡は 清水台13 勝坂Ⅰ10 勝坂Ⅱ24 集石は清水台~勝坂Ⅲ 方形柱穴列は勝坂ⅠorⅡ 勝坂Ⅰ2 勝坂Ⅱ~加曾利EⅡ50		
195	住居跡55	住居跡は五領ケ台4 勝坂Ⅲ4		敷石3(加曾利EIV)
196	住居跡10 埋甕3	加曾利EⅡ2 埋甕は中期		
197	住居跡2	五領ケ台		
198	住居跡3	加曾利EⅠ		
201	住居跡2	勝坂1 加曾利EIV1		
204	住居跡20	加曾利E7 中期13		
206	集石1	中期		
207	住居跡1	五領ケ台		
			うち敷石1(中期)	

遺跡No.	住居跡及び他遺構	時期	備考
208	住居跡2 集石3	住居跡は勝坂Ⅲ 集石は中期	
210	住居跡2	勝坂Ⅱ1 加曾利EⅠ	
213	住居跡2	五領ケ台1 加曾利EⅠ1	
214	住居跡1 集石土坑2	住居跡は加曾利E 集石土坑は中期	
216	住居跡8 8 屋外埋壘4	住居跡は中期前葉3 中期前～中葉1 中期中葉3 8 中期中～後葉1 中期中後葉4 5 屋外埋壘は中期前葉1 中期中葉1 中期中後葉2	
220	住居跡1 集石土坑1	住居跡は勝坂Ⅱ～Ⅲ 集石土坑は中期	
222	集石土坑1	中期	
224	住居跡1	加曾利EⅡ	
226	住居跡3 埋壘1	住居跡は加曾利EⅢ 埋壘は加曾利EⅡ	
228	住居跡1	中期	
229	住居跡1 9 配石1	住居跡は勝坂5 加曾利EⅠ4 配石は加曾利EⅢ	
231	住居跡2	加曾利EⅡ	
234	住居跡1	五領ケ台	
235	住居跡2	勝坂Ⅱ1 加曾利EⅢ1	
236	住居跡1	加曾利E	
238	住居跡2	加曾利EⅡ	
240	住居跡2 配石1 埋壘1	埋壘は加曾利EⅡ	住居跡・配石は 加曾利EⅣ～称名寺
242	住居跡1	勝坂	
243	住居跡1	勝坂	
244	住居跡6	勝坂Ⅰ1 勝坂Ⅱ1 中期3 勝坂Ⅲ～加曾利EⅠ1	
245	住居跡1	中期	
247	住居跡3	加曾利Eの古1 加曾利EⅠ 曾利1	
248	住居跡2	五領ケ台～勝坂Ⅰ1 加曾利EⅢ1	
249	住居跡2	勝坂Ⅲ～加曾利EⅠ	
250	住居跡1	中期	敷石
253	住居跡1 埋壘2	住居跡は加曾利EⅠ 埋壘は加曾利EⅡ1 曾利1	
254	住居跡1	中期	
255	住居跡1 集石土坑1 埋壘2	住居跡は五領ケ台 集石土坑は勝坂 埋壘は五領ケ台	
257	住居跡1 4 埋壘4	住居跡は勝坂3 加曾利EⅨ 阿玉台1 埋壘は中期	柄鏡1(中期)
258	住居跡1	加曾利E	
260	住居跡5	勝坂3 中期2	
262	住居跡1	中期	敷石
263	住居跡1	中期	敷石
267	住居跡8	加曾利EⅢ	
268	住居跡4	中期	
269	住居跡1	加曾利E	
271	住居跡1	加曾利EⅢ	
272	住居跡1	加曾利E	
277	住居跡1 1 炉穴1	住居跡は五領ケ台1 勝坂1 加曾利EⅠ1 加曾利EⅠ～Ⅱ7 加曾利Eの新しい方1 炉穴は五領ケ台	
278	住居跡4 敷石炉4	勝坂	
280	住居跡1	勝坂	
282	住居跡3 埋壘1	住居跡は勝坂2 中期1 埋壘は勝坂Ⅲ	
283	住居跡1	加曾利E	敷石
284	住居跡9	勝坂4 加曾利E5	
285	住居跡3 2 集石土坑1	住居跡は勝坂1 加曾利EⅡ～Ⅲ主体3 1 集石土坑は加曾利EⅠ～Ⅱ	
289	住居跡1	勝坂Ⅰ～Ⅱ	

遺跡No.	住居跡及び他遺構	時期	備考
291	住居跡5 集石2	中期	敷石4 (加曾利EⅣ)
292	住居跡1	勝坂Ⅲ	
293	住居跡2	中期	住居跡と思われる
295	炉跡3	中期	
297	炉跡らしい石組1	加曾利E	
299	住居跡18	中期	
300	住居跡1	加曾利EⅡ	
301	住居跡2	勝坂Ⅲ1 加曾利EⅠ1	
302	住居跡7	加曾利EⅠ1 加曾利EⅡ2	
		加曾利E未3 加曾利EⅠ	
305	住居跡1	加曾利E	
307	住居跡2	五領ケ台	
309	住居跡	中期	数量不明
310	住居跡19 集石1	住居跡は勝坂4 加曾利E9 中期6	
		集石は中期	
311	住居跡35 集石15	住居跡は勝坂2 加曾利E33	
		集石は加曾利E	
313	集石2	中期前半	
314	住居跡2	勝坂Ⅲ	
315	住居跡159 集石5 配石土坑9 埋壘16	住居跡は勝坂30 加曾利E85	
		加曾利EⅢ主体44	
		集石は中期 配石土坑・埋壘は中期末	
		加曾利E	
316	住居跡16	勝坂1 加曾利EⅠ1	
317	住居跡2	五領ケ台1 勝坂3	
318	住居跡4	五領ケ台	
319	住居跡2		中期?
328	竪穴状遺構1		
332	集石1	勝坂	
346	住居跡11 集石1	住居跡は加曾利EⅣ1 加曾利E6	敷石4 (加曾利EⅠ 加曾利EⅣ~称名寺 3)
		集石は勝坂	
351	住居跡3	中期後半	
353	住居跡39	中期	
354	住居跡1 集石土坑6	住居跡は勝坂Ⅰ 集石土坑は中期前葉3	
		中期前~中葉1 中期2	
355	住居跡1 集石土坑1	中期	
358	住居跡9	加曾利EⅡ	
359	住居跡23	中期	
361	住居跡1	加曾利EⅢ	
362	住居跡8	加曾利EⅠ~Ⅱ	
370	住居跡1	中期	
385	住居跡1	中期	敷石
393	埋壘2	中期	
411	集石1	中期前半	
450	集石3	中期中葉	
451	集石1	勝坂	
460	住居跡2	五領ケ台	
467	住居跡1 有穴遺構1	住居跡は加曾利E 有穴遺構は中期	
469	住居跡1	加曾利EⅢ	
481	住居跡11 竪穴状遺構1 集石14	住居跡は勝坂2 加曾利E前半8	
		加曾利EⅠ 竪穴状遺構は中期後半	
		集石は中期	
500	住居跡8	勝坂2 加曾利E第Ⅰ段階3	
		加曾利E第Ⅲ段階2 加曾利E第Ⅳ段階1	

第6表 縄文時代後期住居跡等一覽

遺跡No.	住居跡及び他遺構	時期	備考
8	住居跡1	加曾利B	
39	集石土坑1	称名寺	
42	住居跡1	後期前葉	柄鏡
45	住居跡2	加曾利B 1	
51	住居跡3	後期前半	
61	住居跡1	称名寺	敷石
66	住居跡1	堀之内	
70	住居跡2	称名寺	
82	配石1	堀之内	
106	住居跡3 配石1	住居跡は堀之内1 2 堀之内2 1 配石は後期前半	住居跡は敷石
112	住居跡1	後期前半	
115	住居跡1	称名寺	
123	住居跡1	堀之内	敷石
124	住居跡2	堀之内1	
132	住居跡3	称名寺	
158	住居跡1	後期初頭	敷石
165	住居跡1	堀之内	敷石
228	住居跡1	堀之内	敷石
234	住居跡2	称名寺~加曾利B 3	うち1軒は敷石
236	住居跡1	堀之内	敷石
240	住居跡3	後期1	敷石2 (後期前半)
246	住居跡1	堀之内1	敷石
253	住居跡1	後期	敷石
255	住居跡1 集石土坑1 配石2	集石土坑は堀之内1 配石は後期前半	住居跡は敷石 (後期)
256	住居跡2	堀之内	敷石
259	住居跡5	後期	敷石
261	住居跡1	後期	敷石
264	住居跡1 埋壺を伴う炉跡1 立石跡1	住居跡は後期後半 炉跡は堀之内1 立石跡は後期後半	住居跡は敷石
281	住居跡2	堀之内	敷石
282	住居跡2 列石1	住居跡は堀之内1 列石は称名寺or堀之内1	住居跡は敷石
286	住居跡1	堀之内1	敷石
287	集石6	堀之内2以後1 加曾利B 1 5	
290	住居跡1 配石1	加曾利B	
292	住居跡1	堀之内1	敷石
302	住居跡1	称名寺	
306	住居跡1	堀之内2	敷石
310	集石1	後期	
352	竪穴状遺構1 炉跡状遺構1	竪穴状遺構は後期前葉 炉跡状遺構は後期前葉?	
355	住居跡1 配石1 土坑墓1	後期	住居跡は敷石
467	墓壙5	堀之内2 1 加曾利B 1 1 加曾利B 3 2 後期1	
471	配石8 立石1	後期後半~晩期前半	
472	集石土坑5	堀之内1	

第7表 縄文時代晩期住居跡等一覽

遺跡No.	住居跡及び他遺構	時期	備考
1	住居跡1	晩期	
66	住居跡1	安行3c	
68	方形配石遺構1 集石1 埋壺1 合口甕棺1	晩期	
80	住居跡6	安行3b3 安行3c3	
279	住居跡1	安行3a~c	
471	配石墓3 2 埋壺2	埋壺は安行3c1 安行 1	配石墓は後期後半~ 晩期前半 (安行3c主体)

第8表 縄文時代時期不詳住居跡等一覽

遺跡No.	住居跡及び遺構	備考	遺跡No.	住居跡及び遺構	備考
1	炉穴3		107	集石9	
2	住居跡2		108	集石2	
7	住居跡1		110	集石2	
8	住居跡1		111	配石1	
10	住居跡1		112	住居跡1	
13	住居跡2 配石1		113	集石1	
14	集石	複数	114	集石2	
15	炉跡1 集石4 炉穴4		115	集石3 炉穴2	
19	屋外炉約30		117	住居跡1	
20	住居跡2		119	炉穴2	
25	集石1	数量不明	125	埋甕2	
27	住居跡		127	集石10 炉穴1	
29	土坑墓2		129	集石1 墓塚12	
34	住居跡1		133	集石1	
35	集石土坑3		135	集石6	
36	住居跡2		139	竪穴状遺構6 集石1	
37	集石9		140	集石31 炉穴19	
38	集石12 炉穴3		141	集石8	
39	集石土坑2		142	集石2	
40	石積み17		145	集石1	
43	住居跡4		149	集石1	
46	住居跡2 集石土坑2		150	集石3 炉跡1 炉穴1	
47	集石5		151	集石8	
48	集石6		152	集石1 炉穴1	
49	集石9 炉穴22		153	集石3	
51	集石11 配石1		155	集石2	
52	住居跡3		156	集石2 集石炉3 炉跡1	中期以前 敷石
53	集石2		157	住居跡1	
55	住居跡1		159	住居跡1 集石2	
56	住居跡1		162	竪穴状遺構1 炉穴7	
58	住居跡7 集石3		165	集石土坑2	
60	住居跡2		166	住居跡8 集石 埋甕	住居跡は前期末~中期 初頭 集石・埋甕は数量不明
62	集石2				
64	集石2				
65	散石1		167	集石7	
69	集石19 集石土坑6		169	住居跡9 集石7	
70	集石30		170	集石1	
72	集石14 埋甕1		172	集石1	
74	集石1		174	炉跡1	
75	集石43		177	炉跡1	
76	集石炉3		193	住居跡10 配石2	
77	住居跡1	前~後期?	194	住居跡13	うち敷石2軒
79	集石7 散石1		195	集石1 配石9 埋甕8	
81	住居跡1		196	配石1 埋甕土坑4	
82	住居跡3 炉跡2			集石土坑7	
89	集石7		197	集石1	
90	竪穴状遺構3 配石土坑1		198	集石1	
91	集石1		199	集石1	
92	集石6		200	集石3	
94	集石10		202	集石6	
95	集石10 炉穴1		203	集石5	
96	集石2 炉穴1		204	集石9	
97	配石1		205	集石	複数
98	集石5		207	住居跡1 集石土坑1	
101	集石1		210	集石2	
105	集石1		211	配石1	

遺跡No.	住居跡及び遺構	備考	遺跡No.	住居跡及び遺構	備考
213	集石 1		324	集石 2	
215	住居跡 1		326	集石 1	
216	集石 1 7 集石土坑 4 3 屋外埋壘 1		327	集石 1	
218	集石土坑 1		328	集石 1	
219	集石 3 炉穴 2		330	集石 1	
221	炉穴 7		331	集石 4	
222	集石土坑 1		332	集石 2	
223	集石土坑 3		338	集石 1	
224	集石 1		339	集石 2	
225	集石 1		342	集石 4 炉穴 4	
226	集石 1 0 集石土坑 8 炉穴 2 4		343	集石 3 炉穴 2	
227	集石 1		344	集石 1	
228	炉穴 3		346	集石 4 1 屋外炉 2	
229	配石 2 墓壇 6 埋壘 1		347	集石 2	
230	集石 1		350	集石土坑 1	
231	住居跡 1		352	配石 1	
232	住居跡 3 集石 5 炉穴 3 0		353	集石土坑 3 7	
233	集石 1		357	集石 8	
234	集石 3		364	集石 1 2	
235	集石 1		365	集石 1	
237	住居跡 2		366	炉穴 1	
239	集石 8		367	集石 6	
241	集石 1 炉穴 4		368	炉穴 1	
246	集石土坑 3		370	集石 2	
251	住居跡 1	敷石	371	集石 2	
252	住居跡 2		372	集石土坑 1	
253	集石 3		373	集石 1 4	
255	集石土坑 2		374	集石 1	
260	集石 1		375	集石 1	
264	柱穴列 1		376	集石 1	
265	住居跡 1	敷石	377	集石 4	
266	住居跡 1	敷石	378	集石 3	
267	小竪穴 1 集石 1 配石 1		379	集石 9	
270	住居跡? 1	敷石	380	集石 3	
273	住居跡 1	敷石	381	集石 2	
274	住居跡?	石棒が立っていた	382	集石 3	
275	炉穴	数量不明	383	集石 3	
276	住居跡 1	敷石	384	炉穴 6	
282	住居跡 1		385	集石 1	
284	集石 9 集石土坑 1 5 敷石集石土坑 4 埋壘 3		386	集石 2 炉跡 3	
288	住居跡 1		387	集石 7 炉穴 1 2	
290	住居跡 1 4 配石 3	うち敷石 1 軒	388	集石 8	
291	集石 1 7		389	集石 6	
292	集石 4		390	集石 2	
296	住居跡 5 集石	集石は数量不明	391	集石 2	
298	住居跡 1	敷石	392	集石 1 3	
303	配石土坑 1		393	集石 5	
304	住居跡 1	敷石	394	集石 1	
308	竪穴状遺構 1 散石 1		395	集石 1	
311	炉穴 1		396	集石 6	
312	住居跡 1 集石 8 炉穴 7		397	炉穴	多数
314	集石 2 配石土坑 3 炉穴 2		398	集石 2	
317	住居跡 1		399	集石 1	
321	集石 2		400	集石 1	
322	集石 3		401	集石 1	
			402	集石土坑 1	
			403	集石 2	
			404	炉穴 2	

遺跡No.	住居跡及び遺構	備考	遺跡No.	住居跡及び遺構	備考
405	住居跡2 集石2 7		438	集石1	
406	集石1		439	集石7	
407	集石7		440	集石土坑1	
408	集石2		441	集石5	
409	集石4		442	集石1	
410	集石1		443	集石3 7	
412	竪穴状遺構1 集石1		444	集石2	
413	集石1		445	集石1	
414	集石3		446	集石2 炉穴1	
415	集石1 集石土坑2		447	集石1	
416	集石1		448	竪穴状遺構1	
418	集石1		449	集石1	
419	集石1		451	集石3 炉穴1	
420	集石1		452	集石5	
422	集石5 炉穴1		453	集石2	
423	集石1		454	集石3	
424	集石1		456	集石2	
426	集石2		457	集石2	
427	集石1		458	集石3	
428	集石2		459	集石8	
429	集石1		460	集石1 炉穴3	
430	集石6		461	集石1	
431	集石1 炉穴1		463	炉穴1	
433	集石3		465	集石1	
434	集石1		469	集石1	中期以前
435	集石2		470	集石1 炉穴1	
436	集石4 集石土坑2		480	集石	数量不明
437	炉穴1		481	住居跡1 集石9	

第9表 多摩川流域縄文時代参考文献

- 1 下沼部貝塚
 - ・区史編纂委員会 1974 「大田区史」資料編考古I
 - ・安孫子昭二他 1978 「下沼部遺跡」
- 2 奥沢台
 - ・大塚初重 1959 「世田谷奥沢遺跡」日本考古学年報8
 - ・区史編纂委員会 1975 「世田谷区史料」8 考古編
 - ・十菱駿武 1983 「慶元寺一号墳・陣屋前遺跡・奥沢台遺跡他」
 - ・大槻信次 1986 「1985年度年報」
- 3 下野毛
 - ・吉田 格 1956 「東京都玉川野毛公園内竪穴住居址発掘概報」武蔵野35-1
 - ・大槻信次 1984 「下野毛遺跡」
- 4 六所東貝塚
 - ・吉田 格 1938 「武蔵東六所出土の繊維土器」史前学雑誌10-6
 - ・吉田 格 1960 「東京都内に於ける貝塚の研究—世田谷区六所東貝塚」武蔵野39-4・5・6合併号
- 5 稲荷丸北
 - ・稲荷丸北遺跡調査団 1983 「稲荷丸北遺跡」
 - ・稲荷丸北遺跡第2次調査会 1989 「稲荷丸北遺跡 II」
- 6 瀬田
 - ・区史編纂委員会 1962 「新修 世田谷区史」上
 - ・小出義治他 1982 「瀬田遺跡—駿河銀行瀬田寮—」
- 7 滝ヶ谷
 - ・大槻信次他 1986 「滝ヶ谷遺跡調査報告書」
 - ・滝ヶ谷遺跡第2次調査会 1988 「滝ヶ谷遺跡 II」
- 8 下山
 - ・十菱駿武他 1982 「下山遺跡I」
 - ・十菱駿武他 1984 「下山遺跡II」
- 9 下山北
 - ・十菱駿武他 1984 「下山北遺跡」
- 10 堂ヶ谷戸
 - ・安藤更生 1955 「東京都世田谷区岡本町遺跡」日本考古学年報3
 - ・十菱駿武他 1982 「堂ヶ谷戸遺跡」I・II
 - ・大槻信次他 1986 「1985年度年報」
- 11 総合運動場
 - ・桜井清彦他 1970 「世田谷区立総合運動場内遺跡調査報告（第1・2次調査）」
 - ・桜井清彦他 1974 「世田谷区立総合運動場内遺跡調査報告（第3・4次調査）」
- 12 厚生年金センター
 - ・区史編纂委員会 1962 「新修 世田谷区史」付編
 - ・大場磐雄他 1963 「荏原地域における考古学上の調査」『荏原地域文化財総合調査報告』
- 13 大蔵
 - ・区史編纂委員会 1962 「新修 世田谷区史」付編
 - ・区史編纂委員会 1975 「世田谷区史料」8 考古編
 - ・十菱駿武他 1984 「上之台遺跡・大蔵遺跡」
 - ・大槻信次他 1985 「大蔵遺跡III」
- 14 向野田
 - ・大槻信次他 1985 「上之台遺跡III・向野田遺跡」
- 15 上之台
 - ・区史編纂委員会 1975 「世田谷区史料」8 考古編
 - ・倉田芳郎編 1978 「東京・上之台遺跡」先史11

- ・大槻信次他 1985 「上之台遺跡Ⅲ・向野田遺跡」
- 16 西台
 - ・区史編纂委員会 1975 「世田谷区史料」8 考古編
- 17 釣鐘池北
 - ・区史編纂委員会 1962 「新修 世田谷区史」上
 - ・榎本金之丞他 1973 「釣鐘(池)遺跡緊急調査概報」集古1
 - ・釣鐘池遺跡調査団 1977 「釣鐘池北遺跡調査概報」
- 18 田中・寺前
 - ・大槻信次他 1988 「田中・寺前遺跡」都発表要旨13
 - ・狛江市教育委員会 1989 「狛江の遺跡」
- 19 北野
 - ・中央高速道路三鷹・世田谷地区遺跡調査団 1967 「中央高速道路三鷹・世田谷地区発掘調査報告書」
 - ・三鷹市教育委員会 1989 「北野遺跡Ⅰ」
- 20 市立第五中学校
 - ・市立第五中学校遺跡調査団 1976 「市立第五中学校遺跡」
 - ・市立第五中学校遺跡調査団 1978 「市立第五中学校遺跡-図版編」
 - ・三鷹市遺跡調査団 1983 「三鷹市立第五中学校遺跡」
- 21 丸池
 - ・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覽
- 22 殿山
 - ・区史編纂委員会 1962 「新修 世田谷区史」付編
 - ・大場啓雄他 1963 「荏原地区における考古学上の調査」荏原地区文化財総合調査報告
 - ・区史編纂委員会 1975 「世田谷区史料」8 考古編
- 23 嘉留多
 - ・對比地秀行他 1982 「嘉留多遺跡・砧中学校7号墳」
 - ・十菱駿武他 1985 「嘉留多遺跡Ⅱ」
- 24 砧中学校
 - ・区史編纂委員会 1975 「世田谷区史料」8 考古編
- 25 下神明
 - ・長井茂春他 1984 「下神明遺跡Ⅰ」
 - ・大槻信次他 1985 「下神明遺跡第5次調査概報」
 - ・大槻信次他 1986 「1985年度年報」区遺跡調査報告7
- 26 入間町城山
 - ・竹内秀雄他 1959 「東京都調布市入間町遺跡調査概報」古代31-1
 - ・調布市遺跡調査団 1981 「調布市入間町城山遺跡」
 - ・調布市遺跡調査団 1982 「しろやま-調布市入間町城山遺跡第9次調査概報」
- 27 若葉町
 - ・佐藤達夫 1973 「仙川町遺跡」日本考古学年報24
 - ・調布市遺跡調査団 1978 「調布市実篤公園遺跡-確認調査-」
 - ・調布市遺跡調査団 1987 「深大寺堂山遺跡-第4次調査-」
- 28 滝坂
 - ・吉田 格他 1983 「三鷹市滝坂遺跡の調査概報」考古学ジャーナル216
 - ・吉田 格他 1983 「三鷹市滝坂遺跡の調査概報」武蔵野考古2
- 29 中台
 - ・市史編纂委員会 1990 「調布市史」上
- 30 蛇久保
 - ・市史編纂委員会 1990 「調布市史」上
- 31 上野原
 - ・調布市遺跡調査団 1981 「調布市の遺跡調査-第1集-」
 - ・調布市遺跡調査団 1986 「上野原遺跡」

- 32 池ノ上
・調布市深大寺遺跡調査団 1983 「調布市深大寺池ノ上遺跡」
- 33 寺山
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 34 東原
・青木一美 1966 「東京都調布市深大寺東原遺跡調査概報」土13
・石川和明 1968 「調布市深大寺東原遺跡調査報告」多摩考古9
- 35 羽根沢台
・大場磐雄他 1966 「北多摩北部地区における考古学上の調査」
『北多摩文化財総合調査報告 第2分冊』
・市史編纂委員会編 1970 「三鷹市史」
・三鷹市遺跡調査団 1979 「羽根沢遺跡」
- 36 原
・市史編纂委員会編 1970 「三鷹市史」
・三鷹市遺跡調査団 1985 「原遺跡」
- 37 天文台構内
・東京天文台構内遺跡調査団 1983 「東京天文台構内遺跡」
- 38 出山
・三鷹市遺跡調査団 1979 「出山遺跡」
・三鷹市遺跡調査団 1985 「出山遺跡Ⅱ」
- 39 坂上
・三鷹市遺跡調査団 1985 「坂上遺跡」
- 40 野川
・野川遺跡調査会 1970 「東京・野川遺跡の発掘調査」考古学ジャーナル49
・野川遺跡調査会 1971 「野川遺跡の調査」文化財の保護3
- 41 I C U構内遺跡群
・三鷹市史編纂委員会編 1970 「三鷹市史」
- 42 野川公園柵
・J. E. キター・中津由紀子 1978 「野川公園埋蔵文化財発掘調査概要」
- 43 武蔵野公園
・市史編纂委員会 1968 「府中市史」上
・小田静夫・C. T. キーリー 1973 「武蔵野公園遺跡Ⅰ」
- 44 栗山
・栗山遺跡調査団 1975 「栗山」
- 45 新橋
・J. E. キター・中津由紀子 1977 「新橋遺跡」
- 46 中山谷
・比留間 博他 1971 「中山谷」
・J. E. キター・小田静夫 1975 「中山谷遺跡」
- 47 前原
・前原遺跡調査団 1976 「前原遺跡」
- 48 貫井南
・貫井南遺跡調査団 1974 「貫井南」
・吉田 格他 1983 「小金井市貫井南遺跡の調査」都発表要旨Ⅵ
- 49 西之台
・小田静夫他 1980 「小金井市西之台遺跡B地点」
・大場磐雄・吉田 格他 1966 「北多摩北部地区における考古学上の調査」
『北多摩文化財総合調査報告 第2分冊』
- 50 平代坂
・前原横穴調査団 1973 「平代坂B」

- ・東京学芸大学考古学研究会 1974 「平代坂・七軒家」
- 51 はけうえ
 - ・はけうえ遺跡調査団 1980 「はけうえ」
 - ・吉田 格・中山真治 1986 「小金井市はけうえ遺跡第2・3次」都発表要旨Ⅹ
- 52 貫井
 - ・吉田 格 1958 「東京都小金井町貫井遺跡調査報告」武蔵野38-1
 - ・貫井遺跡調査団 1978 「貫井」
 - ・貫井遺跡調査団 1979 「小金井市貫井遺跡 第一部」
 - ・貫井遺跡調査団 1979 「小金井市貫井遺跡 第二部」
- 53 荒牧
 - ・伊藤富治夫 1978 「小金井市荒牧遺跡の調査」都発表要旨Ⅲ
- 54 花沢東
 - ・花沢東遺跡調査団 1985 「花沢東遺跡」
 - ・市史編纂委員会 1986 「国分寺市史」上
- 55 本町（国分寺村石器時代）
 - ・井上喜久治 1893 「玉川沿岸遺跡探見の記」東京人類学雑誌9-93
 - ・大野延太郎・鳥居龍蔵 1894 「武蔵国北多摩郡国分寺村石器時代遺跡」東京人類学雑誌9-102
 - ・市史編纂委員会 1986 「国分寺市史」上
- 56 花沢西
 - ・市史編纂委員会 1986 「国分寺市史」上
- 57 恋ヶ窪南
 - ・市史編纂委員会 1986 「国分寺市史」上
- 58 恋ヶ窪
 - ・恋ヶ窪遺跡調査団 1979 「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅰ」
 - ・恋ヶ窪遺跡調査団 1980 「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅱ」
 - ・恋ヶ窪遺跡調査団 1982 「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅲ」
- 59 羽根沢
 - ・市川健二郎 1949 「恋ヶ窪敷石住居遺跡発掘報告」学習院史学会報1
 - ・市史編纂委員会 1986 「国分寺市史」上
- 60 恋ヶ窪東
 - ・市史編纂委員会 1986 「国分寺市史」上
- 61 多喜窪
 - ・吉田 格 1954 「武蔵野台地の縄文式文化以前の遺跡」武蔵野33-3・4
 - ・市史編纂委員会 1986 「国分寺市史」上
- 62 上神明
 - ・十菱駿武他 1983 「慶元寺一号墳・陣屋前遺跡・奥沢台遺跡他」
 - ・大槻信次他 1984 「諏訪山遺跡・鎌ヶ谷遺跡他」
 - ・長井茂春他 1984 「下神明遺跡Ⅰ」
 - ・大槻信次他 1986 「1985年度年報」
- 63 東塚
 - ・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覽
- 64 弁財天池
 - ・樋口清之他 1974 「狛江第一小学校校庭遺跡」
 - ・市史編纂委員会編 1985 「狛江市史」
 - ・狛江市教育委員会 1986 「弁財天池遺跡一昭和60年度狛江第一小学校内試掘調査」
- 65 寺前東
 - ・中村（寺前東）遺跡調査団 1985 「狛江市寺前東遺跡」
 - ・市史編纂委員会編 1985 「狛江市史」
- 66 塚上
 - ・能登 健他 1973 「狛江市塚上遺跡」

- ・田中義昭他 1981 「坟上遺跡-日本興業銀行狛江寮建設工事に伴う調査」
- ・市史編纂委員会編 1985 「狛江市史」
- 67 上布田
 - ・赤城高志 1979 「調布市上布田遺跡第Ⅱ地点(仮称)の調査」都発表要旨Ⅴ
 - ・調布市遺跡調査団 1981 「調布市の遺跡調査-第1集-」
 - ・滝沢 亮 1983 「調布市上布田遺跡の調査」考古学ジャーナル219
- 68 下布田
 - ・調布市遺跡調査会 1981 「調布市下布田遺跡-昭和56年度範囲確認調査-」
 - ・調布市遺跡調査会 1982 「調布市下布田遺跡-昭和57年度範囲確認調査-」
- 69 飛田給
 - ・調布市染地遺跡調査団 1980 「調布市飛田給遺跡-第2地点-」
 - ・生田周治 1981 「調布市飛田給遺跡の調査」都発表要旨Ⅵ
 - ・調布市遺跡調査団 1983 「調布市飛田給遺跡」
- 70 府中都市計画道路2・1・4号線
 - ・府中市遺跡調査団 1983 「清水が丘遺跡発掘調査概報Ⅰ」
 - ・府中市遺跡調査団 1984 「清水が丘遺跡発掘調査概報Ⅱ」
 - ・府中市遺跡調査団 1985 「清水が丘遺跡発掘調査概報Ⅲ」
- 71 谷保東方
 - ・谷保東方遺跡調査団 1978 「谷保東方遺跡」
 - ・和田 哲 1983 「国立市の遺跡」国立市文化財報告12
- 72 南養寺
 - ・桐朋高等学校社会部 1978 「国立市南養寺南遺跡調査報告」多摩考古13
 - ・国立市遺跡調査団 1984 「南養寺遺跡Ⅰ」国立市文化財報告15
 - ・国立市遺跡調査団 1985 「南養寺遺跡Ⅱ」国立市文化財報告19
 - ・国立市遺跡調査団 1986 「南養寺遺跡Ⅲ」国立市文化財報告21
- 73 谷保上之下 所在
 - ・和田 哲 1983 「国立市の遺跡」国立市文化財報告12
- 74 向郷
 - ・市史編纂委員会 1968 「立川市史」上
 - ・立川市教育委員会 1981 「羽衣町遺跡発掘調査報告Ⅰ」
- 75 大和田
 - ・立川市教育委員会 1972 「大和田遺跡第Ⅲ次発掘調査概報」
 - ・立川市教育委員会 1974 「大和田遺跡第Ⅳ次発掘調査概報」
 - ・大和田遺跡調査団 1982 「大和田遺跡 1982」
 - ・吉田 格他 1983 「立川市大和田遺跡の調査」都発表要旨Ⅶ
- 76 御伊勢前
 - ・御伊勢前遺跡調査団 1981 「御伊勢前」
- 77 野山第4
 - ・武蔵村山市教育委員会 1988 「野山・御伊勢前・大ヌカリ
-昭和61・62年度埋蔵文化財確認調査報告-」
- 78 狭山
 - ・大場磐雄他 1967 「西多摩北東部地区における考古学上の調査」
『西多摩文化財総合調査報告 第1分冊』
 - ・吉田 格・比留間 博 1970 「狭山・六道山・浅間谷遺跡」
- 79 上作延南原
 - ・上作延南原遺跡発掘調査団 1986 「上作延南原遺跡発掘調査報告書」
- 80 下原
 - ・和島誠一 1965 「川崎市長尾下原遺跡発掘調査概要」神奈川県文化財協会
 - ・和島誠一 1966 「下原遺跡第2次調査の概要」神奈川県文化財協会
 - ・川崎市教育委員会 1972 「調査の概要-下原遺跡-」川崎市文化財調査集録7

- 81 長尾鯉坂
・増子章二 1982 「長尾鯉坂遺跡発掘調査報告書」
- 82 権現台
・新井 清 1958 「長尾権現台遺跡調査略報」たちばな20
- 83 長尾台
・玉口時雄・伊東秀吉・関 俊彦 1972 「長尾台遺跡」東出版
- 84 初山
・渡辺 誠 1972 「川崎市初山遺跡第3次調査概報」川崎市文化財調査集録7
- 85 栗谷
・栗谷遺跡発掘調査委員会 1974 「栗谷遺跡」
- 86 西菅遺跡第2地点
・西菅遺跡第二次調査団 1974 「西菅No.2地点遺跡(概要)」
- 87 西菅遺跡第3地点
・高津図書館友の会郷土史研究部 1976 「西菅遺跡第三地点発掘調査報告」
- 88 弦巻
・伊東秀吉他 1975 「川崎市多摩区高石字弦巻遺跡発掘調査報告」川崎市文化財調査集録10
- 89 駒沢学園校地内
・駒沢学園校地内遺跡調査団 1985 「駒沢学園校地内予備調査概要」
- 90 武蔵台
・都立府中病院内遺跡調査会 1984 「武蔵台遺跡 I」
- 91 多摩ニュータウンNo.3
・小藁一夫・丹野雅人 1982 「多摩ニュータウンNo.3遺跡」
『多摩ニュータウン遺跡』昭和56年度 第5分冊
- 92 多摩ニュータウンNo.5
・福田敏一 1987 「多摩ニュータウンNo.5遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和60年度 第2分冊
- 93 黒川台西
・黒川東遺跡発掘調査団 1979 「黒川東遺跡」
- 94 北浦
・調布市遺跡調査会 1978 「調布市下布田遺跡-範囲確認調査-
- 95 多摩ニュータウンNo.471-473
・東京都埋蔵文化財センター 1987 「東京都埋蔵文化財センター 年報7 昭和61年度」
・東京都埋蔵文化財センター 1988 「東京都埋蔵文化財センター 年報8 昭和62年度」
・東京都埋蔵文化財センター 1989 「東京都埋蔵文化財センター 年報9 昭和63年度」
- 96 多摩ニュータウンNo.470
・栗城譲一 1989 「多摩ニュータウンNo.470 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和62年度 第3分冊
- 97 宮添
・黒川東遺跡発掘調査団 1979 「黒川東遺跡」
- 98 多摩ニュータウンNo.380
・東京都埋蔵文化財センター 1987 「東京都埋蔵文化財センター 年報7 昭和61年度」
- 99 多摩ニュータウンNo.520
・多摩ニュータウン遺跡調査会 1977 「多摩ニュータウン遺跡調査概報-No.520 遺跡-
- 100 多摩ニュータウンNo.378
・竹田 均 1979 「多摩ニュータウン遺跡調査報告 VIII」
- 101 多摩ニュータウンNo.379
・竹尾 進 1981 「多摩ニュータウンNo.379 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和55年度 第1分冊
- 102 多摩ニュータウンNo.511
・竹尾 進 1983 「多摩ニュータウンNo.511 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和57年度 第1分冊
- 103 多摩ニュータウンNo.20
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧

- 104 多摩ニュータウンNo.19
・栗城謙一 1982 「多摩ニュータウンNo.19遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和56年度 第6分冊
- 105 多摩ニュータウンNo.46
・可児通宏 1969 「多摩ニュータウン遺跡調査報告 VII」
・高林 均 1979 「多摩ニュータウンNo.46遺跡」『多摩ニュータウン遺跡調査概報』昭和54年度
- 106 桜ヶ丘ゴルフ場 所在
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 107 向ヶ岡
・江坂輝弥 1959 「東京都南多摩郡連光寺台遺跡」日本考古学年報8
・吉田 格 1961 「縄文式文化」『南多摩文化財総合調査報告 第1分冊』
・多摩都市計画道路事業1・3・1号線関連遺跡調査団 1980 「向ヶ岡」
- 108 多摩ニュータウンNo.27
・岡崎完樹 1979 「多摩ニュータウンNo.27遺跡」『多摩ニュータウン遺跡調査概報』昭和54年度
- 109 多摩ニュータウンNo.30
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 110 多摩ニュータウンNo.31
・高林 均 1974 「多摩ニュータウン遺跡調査概報-No.31・32・259 遺跡-」
- 111 多摩ニュータウンNo.52
・小林達雄他 1967 「第1部多摩ニュータウンNo.52遺跡の発掘調査」
『多摩ニュータウン遺跡調査報告 II』
・安孫子昭二他 1967 「No.52遺跡の調査」『多摩ニュータウン遺跡調査報告 III』
- 112 多摩ニュータウンNo.281
・多摩ニュータウン遺跡調査会 1972 「多摩ニュータウン遺跡調査概報-No.281 遺跡-」
- 113 多摩ニュータウンNo.450
・東京都埋蔵文化財センター 1986 「東京都埋蔵文化財センター 年報6 昭和60年度」
- 114 多摩ニュータウンNo.466
・小葉一夫 1981 「多摩ニュータウンNo.466 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和55年度 第2分冊
- 115 多摩ニュータウンNo.769
・丹野雅人他 1983 「多摩ニュータウンNo.769 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和57年度 第5分冊
- 116 多摩ニュータウンNo.57
・可児通宏 1971 「多摩ニュータウンNo.57遺跡の調査」文化財の保護3
・安孫子昭二他 1988 「多摩ニュータウンNo.57遺跡-遺跡の概要と整備のあらまし-」
- 117 多摩ニュータウンNo.779
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 118 多摩ニュータウンNo.73
・可児通宏 1969 「多摩ニュータウン遺跡調査概報-No.73・75 遺跡-」
- 119 堂場
・鈴木克彦他 1972 「堂場遺跡調査報告書」
- 120 和田・百草
・多摩市道1458号線遺跡調査団 1978 「多摩市道1458号線遺跡-昭和53年度調査報告書」
・多摩市道1458号線遺跡調査団 1979 「多摩市道1458号線遺跡-昭和54年度調査報告書」
・多摩市遺跡調査団 1982 「和田・百草遺跡群-和田29号線道路拡幅にともなう調査」
- 121 仁王塚
・江坂輝弥 1959 「東京都南多摩郡七生村百草、仁王塚における縄文文化早期遺跡の発掘調査」
貝塚89・90・91合併号
- 122 万蔵院台
・日野市遺跡調査団 1974 「万蔵院台遺跡第I次調査概要」
・上坂 悟他 1974 「日野市万蔵院台遺跡の調査」考古学ジャーナル99
・上坂 悟 1975 「日野市万蔵院台遺跡の調査」都発表要旨I
・上坂 悟 1976 「日野市万蔵院台遺跡の第2次調査」考古学ジャーナル124

- 123 御嶽山
・八王子市教育委員会 1986 「八王子市埋蔵文化財年報-1985年度」
- 124 多摩ニュータウンNo.64
・多摩ニュータウン遺跡調査会 1969 「多摩ニュータウン遺跡調査概報-No.64・68 遺跡-」
- 125 多摩ニュータウンNo.67
・多摩ニュータウン遺跡調査会 1971 「多摩ニュータウン遺跡調査概報-No.67遺跡-」
- 126 多摩ニュータウンNo.446
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 127 多摩ニュータウンNo.72
・東京都埋蔵文化財センター 1989 「東京都埋蔵文化財センター 年報9 昭和63年度」
- 128 多摩ニュータウンNo.433
・比田井克仁 1986 「多摩ニュータウンNo.433 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和59年度 第1分冊
- 129 多摩ニュータウンNo.426
・丹野雅人他 1989 「多摩ニュータウンNo.426 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和62年度 第5分冊
・原川雄二他 1981 「多摩ニュータウンNo.426 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和55年度 第3分冊
- 130 多摩ニュータウンNo.727
・中西 充 1984 「多摩ニュータウンNo.726・727・728 遺跡」
『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度 第6分冊
- 131 多摩ニュータウンNo.101
・阿部祥人 1981 「多摩ニュータウンNo.101 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和55年度 第3分冊
- 132 多摩ニュータウンNo.107
・東京都埋蔵文化財センター 1989 「東京都埋蔵文化財センター 年報9 昭和63年度」
- 133 多摩ニュータウンNo.512
・山口慶一 1984 「多摩ニュータウンNo.512 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度 第4分冊
- 134 多摩ニュータウンNo.630
・竹田 均 1984 「多摩ニュータウンNo.630 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度 第5分冊
- 135 多摩ニュータウンNo.125
・岩橋陽一 1987 「多摩ニュータウンNo.125 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和60年度 第3分冊
- 136 多摩ニュータウンNo.401
・山口慶一 1986 「多摩ニュータウンNo.401・679 遺跡」
『多摩ニュータウン遺跡』昭和59年度 第2分冊
- 137 多摩ニュータウンNo.402
・佐藤 攻 1986 「多摩ニュータウンNo.402・678 遺跡」
『多摩ニュータウン遺跡』昭和59年度 第2分冊
- 138 多摩ニュータウンNo.457
・川島雅人 1982 「多摩ニュータウンNo.457 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和56年度 第3分冊
- 139 多摩ニュータウンNo.745
・東京都埋蔵文化財センター 1986 「東京都埋蔵文化財センター 年報6 昭和60年度」
- 140 多摩ニュータウンNo.740
・田中純男 1984 「多摩ニュータウンNo.740 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度 第7分冊
- 141 多摩ニュータウンNo.91
・田中純男 1986 「多摩ニュータウンNo.91遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和59年度 第4分冊
・竹尾 進 1987 「多摩ニュータウンNo.91遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和60年度 第2分冊
- 142 多摩ニュータウンNo.463
・中西 充 1987 「多摩ニュータウンNo.463 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和60年度 第1分冊
- 143 多摩ニュータウンNo.122
・金持健司 1984 「多摩ニュータウンNo.122 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度 第1分冊
- 144 多摩ニュータウンNo.699
・小林博範 1984 「多摩ニュータウンNo.699 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度 第5分冊

- 145 多摩ニュータウンNo.207
・江里口省三 1982 「多摩ニュータウンNo.207 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和56年度 第2分冊
- 146 多摩ニュータウンNo.300
・多摩ニュータウン遺跡調査会 1972 「多摩ニュータウン遺跡調査概報
-No.151・183・184・216・217・300 遺跡」
- 147 多摩ニュータウンNo.518
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 148 多摩ニュータウンNo.358
・竹田 均 1984 「多摩ニュータウンNo.358 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度 第1分冊
- 149 多摩ニュータウンNo.293
・多摩ニュータウン遺跡調査会 1971 「多摩ニュータウン遺跡調査概報
-No.214・215・222・282・283・293・300 遺跡」
- 150 多摩ニュータウンNo.406
・竹尾 進 1986 「多摩ニュータウンNo.406 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和59年度 第2分冊
- 151 多摩ニュータウンNo.359
・江里口省三 1981 「多摩ニュータウンNo.359・563 遺跡」
『多摩ニュータウン遺跡』昭和55年度 第3分冊
- 152 多摩ニュータウンNo.145
・竹田 均・佐藤宏之 1983 「多摩ニュータウンNo.145 遺跡」
『多摩ニュータウン遺跡』昭和57年度 第1分冊
- 153 多摩ニュータウンNo.182
・佐藤宏之 1987 「多摩ニュータウンNo.182 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和60年度 第1分冊
・東京都埋蔵文化財センター 1987 「東京都埋蔵文化財センター 年報7 昭和61年度」
- 154 多摩ニュータウンNo.226
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 155 多摩ニュータウンNo.114
・東京都埋蔵文化財センター 1986 「東京都埋蔵文化財センター 年報6 昭和60年度」
- 156 高幡台A
・高幡台団地遺跡調査団 1966 「日野市高幡台遺跡調査概報第1次」
- 157 八王子市打越町、北野町 所在
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 158 北野
・市史編纂委員会 1967 「八王子史」下
- 159 打越中谷戸
・八王子バイパス打越遺跡調査団 1984 「打越中谷戸遺跡」
- 160 南部地区No.3
・南部地区遺跡調査団 1984 「八王子市南部地区遺跡調査報告1」
・南部地区遺跡調査団 1986 「八王子市南部地区遺跡調査報告2」
- 161 南部地区No.10(只沼)
・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
-東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 162 馬場谷戸南
・馬場谷戸南遺跡調査団 1986 「馬場谷戸南遺跡」
- 163 南部地区No.55
・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
-東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 164 南部地区No.54
・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
-東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」

- 165 大原 A・B・C (南部地区No.6)
- ・南部地区遺跡調査団 1984 「八王子市南部地区遺跡調査報告1」
 - ・南部地区遺跡調査団 1986 「八王子市南部地区遺跡調査報告2」
- 166 南部地区No.12
- ・服部敬史他 1971 「八王子市由木地区および小比企丘陵の遺跡」
 - ・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
—東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
 - ・南部地区遺跡調査団 1983 「No.12遺跡—予備調査報告書」
- 167 南部地区No.14
- ・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
—東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
 - ・八王子市教育委員会 1986 「八王子市埋蔵文化財年報—1985年度」
- 168 南部地区No.9
- ・学習院大学輔仁会史学部 1960 「八王子市小比企町向原縄文中期住居址発掘調査概報」多摩考古1
 - ・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
—東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 169 滑坂
- ・渡辺忠胤 1960 「八王子市小比企町向原複合住居址発掘調査報告」多摩考古1
 - ・中村 威 1960 「八王子市小比企町山王台敷石住居址発掘調査報告」多摩考古1
 - ・八王子市南部地区遺跡調査会 1988 「滑坂遺跡」
- 170 南部地区No.15
- ・南部地区遺跡調査団 1984 「八王子市南部地区遺跡調査報告1」
 - ・八王子市教育委員会 1986 「八王子市埋蔵文化財年報—1985年度」
- 171 南部地区No.23
- ・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
—東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 172 南部地区No.21
- ・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
—東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
 - ・八王子市教育委員会 1986 「八王子市埋蔵文化財年報—1985年度」
- 173 南部地区No.22
- ・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
—東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
 - ・八王子市教育委員会 1986 「八王子市埋蔵文化財年報—1985年度」
- 174 南部地区No.20
- ・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
—東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 175 南部地区No.18
- ・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
—東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 176 南部地区No.44
- ・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
—東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 177 南部地区No.27
- ・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
—東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 178 南部地区No.38
- ・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
—東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」

- 179 南部地区No.36
・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
- 東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 180 南部地区No.28
・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
- 東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 181 南部地区No.29
・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
- 東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 182 南部地区No.30
・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
- 東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 183 南部地区No.40
・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
- 東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 184 南部地区No.39
・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
- 東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 185 南部地区No.35
・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
- 東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 186 南部地区No.34
・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
- 東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 187 南部地区No.33
・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
- 東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 188 南部地区No.32
・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
- 東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 189 南部地区No.31
・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子市南部地区の遺跡
- 東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 190 子安三丁目
・八王子市教育委員会 1986 「八王子市埋蔵文化財年報-1985年度」
- 191 御所水
・市史編纂委員会 1967 「八王子史」下
- 192 散田町横山中学校 所在
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 193 狭間
・桜井清彦 1966 「東京都八王子市狭間遺跡」日本考古学年報14
・玉口時雄 1968 「東京都八王子市狭間遺跡」日本考古学年報16
- 194 神谷原(櫛田第Ⅱ)
・櫛田遺跡調査団 1981 「神谷原Ⅰ」
・櫛田遺跡調査団 1982 「神谷原Ⅱ」
- 195 櫛田第Ⅲ
・櫛田遺跡調査団 1975 「櫛田遺跡群予備調査記録」
・櫛田遺跡調査団 1976 「櫛田遺跡群 1975年度調査概報」
・櫛田遺跡調査団 1977 「櫛田遺跡群 1976年度調査概報」

- 196 栲田第Ⅳ
 ・栲田遺跡調査団 1975 「栲田遺跡群予備調査記録」
 ・栲田遺跡調査団 1979 「栲田遺跡群 1978年度調査概報」
- 197 栲田第Ⅴ
 ・栲田遺跡調査団 1975 「栲田遺跡群予備調査記録」
 ・栲田遺跡調査団 1979 「栲田遺跡群 1978年度調査概報」
- 198 下寺田
 ・寺田遺跡調査団 1975 「下寺田・要石遺跡－東京都八王子市寺田および要石遺跡の発掘調査」
- 199 館町第5地点
 ・館町遺跡調査団 1986 「館町遺跡Ⅱ」
- 200 館町第7地点
 ・館町遺跡調査団 1983 「八王子館町遺跡確認調査報告」
 ・館町遺跡調査団 1986 「館町遺跡Ⅱ」
- 201 館町第1地点
 ・館町遺跡調査団 1983 「八王子館町遺跡確認調査報告」
 ・八王子市教育委員会 1986 「八王子市埋蔵文化財年報－1985年度」
- 202 館町第8地点
 ・館町遺跡調査団 1983 「八王子館町遺跡確認調査報告」
 ・館町遺跡調査団 1985 「館町遺跡Ⅰ」
- 203 館町第3地点
 ・館町遺跡調査団 1983 「八王子館町遺跡確認調査報告」
 ・館町遺跡調査団 1985 「館町遺跡Ⅰ」
 ・八王子市教育委員会 1986 「八王子市埋蔵文化財年報－1985年度」
- 204 神明上北
 ・市史編纂委員会 1984 「日野市史史料集」考古資料編
 ・日野市遺跡調査団 1986 「日野市埋蔵文化財発掘調査輯報」Ⅰ
- 205 神明上
 ・市史編纂委員会 1984 「日野市史史料集」考古資料編
- 206 セツ塚
 ・吹上遺跡調査団 1970 「日野吹上遺跡」
 ・日野市遺跡調査会 1981 「日野市遺跡調査会年報」Ⅲ
 ・市史編纂委員会 1984 「日野市史史料集」考古資料編
- 207 石川パーキングエリア
 ・服部敬史他 1974 「八王子市谷地川流域における考古学的調査」
 ・石川パーキングエリア遺跡調査団 1983 「八王子市石川パーキングエリア遺跡」
- 208 広福寺台
 ・大場磐雄他 1965 「北多摩南部地区における考古学上の調査」
 『北多摩文化財総合調査報告 第1分冊』
 ・昭島市教育委員会 1970 「昭島市の文化財」
 ・和田 哲 1982 「考古学からみた昭島市」
- 209 宇津木台遺跡群J地区
 ・宇津木台地区遺跡調査団 1984 「宇津木台遺跡群Ⅳ－1981～1982年度発掘調査報告書（1）」
- 210 宇津木台遺跡群I地区
 ・宇津木台地区遺跡調査団 1985 「宇津木台遺跡群Ⅴ－1981～1982年度発掘調査報告書」
- 211 東寺方
 ・多摩市遺跡調査団 1983 「東寺方遺跡－市立総合体育館にともなう調査－」
 ・多摩市遺跡調査団 1984 「船ヶ台・庚申山・落川南・東寺方遺跡
 －昭和58年度市道工事にとともなう調査－」
- 212 美根（平町A地点）
 ・和田 哲 1968 「八王子市平町縄文前期遺跡」古代51

- 213 宇津木台遺跡群 A 地区
 ・服部敬史他 1974 「八王子市谷地川流域における考古学的調査」
 ・宇津木台地区遺跡調査団 1982 「宇津木台遺跡 I - 1980年度発掘調査報告書 -」
- 214 宇津木台遺跡群 B 地区
 ・八王子市教育委員会 1986 「八王子市埋蔵文化財年報 - 1985年度」
- 215 宇津木台遺跡群 N 地区
 ・宇津木台地区遺跡調査団 1983 「宇津木台遺跡群 II - 1981年度発掘調査報告 (1)」
- 216 宇津木台遺跡群 D 地区
 ・八王子市教育委員会 1986 「八王子市埋蔵文化財年報 - 1985年度」
- 217 宇津木台遺跡群 K 地区
 ・宇津木台地区遺跡調査団 1983 「宇津木台遺跡群 II - 1981年度発掘調査報告 (1)」
- 218 宇津木台遺跡群 L 地区
 ・宇津木台地区遺跡調査団 1986 「宇津木台遺跡群 VI」1982年度発掘調査報告書
- 219 宇津木台遺跡群 M 地区
 ・宇津木台地区遺跡調査団 1985 「宇津木台遺跡群 V - 1981~1982年度発掘調査報告書 -」
- 220 宇津木台遺跡群 F 地区
 ・八王子市教育委員会 1986 「八王子市埋蔵文化財年報 - 1985年度」
- 221 宇津木台遺跡群 G 地区
 ・宇津木台地区遺跡調査団 1984 「宇津木台遺跡群 IV - 1981~1982年度発掘調査報告書 (1)」
- 222 宇津木台遺跡群 E 地区
 ・宇津木台地区遺跡調査団 1983 「宇津木台遺跡群 III - 1981年度発掘調査報告 (2)」
- 223 宇津木台遺跡群 H 地区
 ・服部敬史他 1974 「八王子市谷地川流域における考古学的調査」
 ・八王子市教育委員会 1986 「八王子市埋蔵文化財年報 - 1985年度」
- 224 西野
 ・東京西線及び北八王子変電所遺跡調査団 1974 「北八王子西野遺跡」
- 225 下耕地
 ・八王子市大谷遺跡調査団 1968 「八王子市大谷地区の遺跡」
 ・春日台遺跡調査団 1974 「春日台・下耕地遺跡」
- 226 石川天野
 ・石川天野遺跡調査団 1981 「東京・八王子市石川天野遺跡 - 1980年度調査」
 ・石川天野遺跡調査団 1982 「東京・八王子市石川天野遺跡 - 1981年度調査」
 ・石川天野遺跡調査団 1983 「東京・八王子市石川天野遺跡 - 1982年度調査」
 ・石川天野遺跡調査団 1984 「東京・八王子市石川天野遺跡 - 1983年度調査」
- 227 春日台
 ・八王子市大谷遺跡調査団 1968 「八王子市大谷地区の遺跡」
 ・春日台遺跡調査団 1974 「春日台・下耕地遺跡」
- 228 北大谷
 ・八王子市大谷遺跡調査団 1968 「八王子市大谷地区の遺跡」
- 229 宇津木向原
 ・中央高速道八王子地区遺跡調査団 1964 「中央高速道路八王子地区遺跡調査概報 第1次」
 ・中央高速道八王子地区遺跡調査団 1973 「宇津木遺跡とその周辺 - 方形周溝墓初発見の遺跡 -」
- 230 滝山高燥
 ・市史編纂委員会 1967 「八王子史」下
 ・石川天野遺跡調査団 1979 「石川天野・滝山高燥遺跡」
- 231 野久保
 ・都立第二商業高校考古学部 1956 「八王子市丹木町縄文中期遺跡調査概報」
- 232 創価大学・太陽の丘
 ・八王子市教育委員会 1986 「八王子市埋蔵文化財年報 - 1985年度」

- 233 鞍骨山
 ・八王子市谷野遺跡調査団 1971 「東京都鞍骨山遺跡」文化財の保護3
 ・八王子市谷野遺跡調査団 1971 「鞍骨山遺跡」
- 234 中野甲の原
 ・梶 国男他 1976 「八王子市明神社北遺跡第3次調査概報」考古学ジャーナル122
 ・吉田 格 1980 「八王子市甲の原遺跡調査概報」文化財の保護12
 ・梶 国男他 1985 「八王子市・中野明神社周辺遺跡の調査」多摩考古17
 ・中野甲の原遺跡調査団 1986 「中野甲の原遺跡」
- 235 中田
 ・梶 国男 1971 「東京都八王子市中野町中田台遺跡」日本考古学年報19
 ・渡辺忠胤 1971 「東京都八王子市中野町中田遺跡」日本考古学年報19
 ・岡田淳子他 1972 「東京都八王子市八王子中田遺跡」日本考古学年報20
- 236 西中野
 ・佐々木蔵之助 1967 「八王子市西中野遺跡発掘調査概報」多摩考古8
 ・佐々木蔵之助 1970 「東京都八王子市西中野敷石住居址」日本考古学年報18
- 237 原屋敷
 ・市史編纂委員会 1967 「八王子史」下
 ・梶 国男 1970 「八王子市中野町原屋敷弥生時代後期住居址調査報告」多摩考古10
- 238 榎原
 ・後藤守一 1933 「府下に於ける石器時代住居址発掘調査－榎原石器時代住居遺蹟」
 『東京府史蹟保存物調査報告書』10
 ・宮崎 胤 1935 「武蔵国南多摩郡榎原発見の土偶」史前学雑誌7-4
 ・宮崎 胤 1936 「武蔵国南多摩郡榎原発見の土偶(二)」史前学雑誌8-4
- 239 弁天池・弁天池北
 ・中村 威 1961 「八王子市横川町縄文後期遺跡発掘調査報告書」多摩考古2
 ・弁天池北遺跡調査団 1981 「弁天池北遺跡－東京都八王子市横川町弁天池北遺跡の発掘調査」
- 240 船田
 ・八幡一郎 1929 「敷石遺跡の新資料」人類学雑誌44-7
 ・後藤守一 1933 「府下に於ける石器時代住居址発掘調査－榎原石器時代住居遺蹟」
 『東京府史蹟保存物調査報告書』10
 ・西野 元 1962 「八王子市長房町出土の土器」多摩考古4
- 241 落越B・C地区
 ・落越遺跡調査団 1982 「落越遺跡－予備調査報告書」
- 242 落越D～F・H～V・X・Y地区
 ・落越遺跡調査団 1982 「落越遺跡－予備調査報告書」
- 243 中原
 ・渡辺忠胤 1961 「八王子市犬目町中原遺跡調査報告」多摩考古2
 ・吉田 格他 1962 「東京都八王子市中原遺跡調査概報」武蔵野41-3・4
 ・渡辺忠胤 1963 「八王子市中原遺跡調査報告」多摩考古5
 ・正田通文他 1971 「東京都八王子市犬目中原遺跡」日本考古学年報19
- 244 宮田
 ・宮田遺跡調査会 1968 「東京都八王子市宮田遺跡」考古学ジャーナル25
 ・宮塚義人他 1978 「東京都八王子市宮田遺跡の調査(2)」多摩考古13
 ・梶 国男他 1985 「八王子市・中野明神社周辺の調査」多摩考古17
- 245 十内入上原
 ・八王子市谷野遺跡調査団 1971 「鞍骨山遺跡」
- 246 深沢
 ・塩野半十郎他 1969 「八王子市恩方地区における考古学的調査」
 ・深沢遺跡および小田野城跡調査団 1981 「深沢遺跡・小田野城跡
 －東京都八王子市恩方町西寺方町所在遺跡の発掘調査」

- 247 狐塚
 ・塩野半十郎他 1969 「八王子恩方地区における考古学的調査」
 ・秋間健郎他 1971 「東京都狐塚遺跡の調査」長野県考古学会誌11
- 248 力石
 ・塩野半十郎他 1969 「八王子恩方地区における考古学的調査」
 ・力石遺跡発掘調査団 1986 「力石遺跡発掘調査報告書」
 ・八王子市教育委員会 1986 「八王子市埋蔵文化財年報-1985年度」
- 249 八王子市宮下町 所在
 ・中村 威 1963 「八王子市宮下町縄文中期住居址発掘調査報」多摩考古5
- 250 櫛谷
 ・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 251 八王子市戸吹町熊野堂 所在
 ・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 252 戸吹
 ・八王子市谷野町遺跡調査団 1971 「鞍骨山遺跡」
- 253 龍津寺東
 ・大場磐雄他 1965 「北多摩南部地区における考古学上の調査」
 『北多摩文化財総合調査報告 第1分冊』
 ・和田 哲 1982 「昭島市龍津寺東遺跡の敷石住居址」多摩考古15
- 254 秋川市二宮 所在
 ・市史編纂委員会 1983 「秋川市史」
 ・加藤晋平他 1983 「秋川市二宮城跡の調査」都発表要旨Ⅷ
- 255 前田耕地
 ・前田耕地遺跡調査団 1977 「前田耕地Ⅰ」
 ・前田耕地遺跡調査団 1979 「前田耕地Ⅱ」
 ・前田耕地遺跡調査団 1981 「前田耕地Ⅲ」
 ・前田耕地遺跡調査団 1986 「前田耕地Ⅳ」
- 256 寺中・宅地附・宮ヶ谷戸
 ・市史編纂委員会 1983 「秋川市史」
- 257 二宮・二宮森腰
 ・加藤晋平 1974 「秋川市二宮神社境内の遺跡」
 ・河野重義他 1975 「秋川市二宮神社境内周辺の遺跡」
 ・橋口定志他 1978 「二宮遺跡 1976」
- 258 武者手ヶ原・塚場
 ・大場磐雄他 1969 「秋川流域の考古学的調査」『西多摩文化財総合調査報告 第3分冊』
 ・市史編纂委員会 1983 「秋川市史」
- 259 清水
 ・大場磐雄他 1969 「秋川流域の考古学的調査」『西多摩文化財総合調査報告 第3分冊』
 ・市史編纂委員会 1983 「秋川市史」
- 260 代継
 ・東電秋川線遺跡調査団 1976 「東電秋川線遺跡発掘調査報告書」
 ・市史編纂委員会 1983 「秋川市史」
 ・代継遺跡調査会 1987 「代継遺跡」
- 261 みとうがいど
 ・大場磐雄他 1969 「秋川流域の考古学的調査」『西多摩文化財総合調査報告 第3分冊』
- 262 中村
 ・大場磐雄他 1969 「秋川流域の考古学的調査」『西多摩文化財総合調査報告 第3分冊』
- 263 松原
 ・大場磐雄他 1969 「秋川流域の考古学的調査」『西多摩文化財総合調査報告 第3分冊』

- 264 五日市高校
 ・甲野 勇 1961 「都立五日市高等学校敷地から発見の土製耳飾」多摩考古3
 ・大場磐雄他 1969 「秋川流域の考古学的調査」『西多摩文化財総合調査報告 第3分冊』
 ・五日市高校遺跡調査会 1981 「五日市町都立五日市高等学校遺跡」
- 265 下宿道上
 ・大場磐雄他 1969 「秋川流域の考古学的調査」『西多摩文化財総合調査報告 第3分冊』
- 266 戸倉オオラッ原
 ・大場磐雄他 1969 「秋川流域の考古学的調査」『西多摩文化財総合調査報告 第3分冊』
- 267 加茂原
 ・加茂原遺跡調査団 1978 「かもっぱら」
- 268 宇佐岳原
 ・大場磐雄他 1969 「秋川流域の考古学的調査」『西多摩文化財総合調査報告 第3分冊』
- 269 寺岡
 ・大場磐雄他 1969 「秋川流域の考古学的調査」『西多摩文化財総合調査報告 第3分冊』
- 270 雑司原
 ・大場磐雄他 1969 「秋川流域の考古学的調査」『西多摩文化財総合調査報告 第3分冊』
 ・東京学芸大学考古学研究会 1978 「東京都・檜原村における考古学的調査(1)」考古学ノート7
- 271 上川苔・峰
 ・大場磐雄他 1969 「秋川流域の考古学的調査」『西多摩文化財総合調査報告 第3分冊』
 ・東京学芸大学考古学研究会 1978 「東京都・檜原村における考古学的調査(1)」考古学ノート7
- 272 上川苔熊野神社
 ・東京学芸大学考古学研究会 1978 「東京都・檜原村における考古学的調査(1)」考古学ノート7
 ・東京学芸大学考古学研究部 1984 「東京都檜原村における縄文早期遺跡の様相
 -押型文土器を中心に-」史海31
- 273 王子ヶ城
 ・大場磐雄他 1969 「秋川流域の考古学的調査」『西多摩文化財総合調査報告 第3分冊』
 ・東京学芸大学考古学研究会 1978 「東京都・檜原村における考古学的調査(1)」考古学ノート7
- 274 尾根通り
 ・大場磐雄他 1969 「秋川流域の考古学的調査」『西多摩文化財総合調査報告 第3分冊』
 ・東京学芸大学考古学研究会 1978 「東京都・檜原村における考古学的調査(1)」考古学ノート7
- 275 中之平
 ・甲野 勇 1962 「中之平遺跡について」武蔵野41-2
 ・吉田 格他 1975 「中之平遺跡-第一次調査概報」
 ・東京学芸大学考古学研究会 1978 「東京都・檜原村における考古学的調査(1)」考古学ノート7
- 276 福生 所在
 ・福生町誌編纂委員会 1960 「福生町誌」
 ・福生市遺跡調査団 1977 「福生市の遺跡」
- 277 長沢
 ・福生市遺跡調査団 1970 「長沢遺跡調査報告書」
 ・福生市遺跡調査団 1978 「福生市長沢遺跡」
 ・福生市遺跡調査団 1981 「長沢」
- 278 草花
 ・市史編纂委員会 1983 「秋川市史」
- 279 中高瀬
 ・市史編纂委員会 1983 「秋川市史」
- 280 北小宮
 ・大場磐雄他 1969 「秋川流域の考古学的調査」『西多摩文化財総合調査報告 第3分冊』
 ・今井正文 1980 「小宮神社遺跡」日本考古学年報31
 ・市史編纂委員会 1983 「秋川市史」

- 281 羽ヶ田
・市史編纂委員会 1983 「秋川市史」
- 282 岳の上
・大場磐雄他 1969 「秋川流域の考古学的調査」『西多摩文化財総合調査報告 第3分冊』
・服部敬史 1972 「岳の上遺跡」
- 283 日の出町大久野新井 所在
・大場磐雄他 1969 「秋川流域の考古学的調査」『西多摩文化財総合調査報告 第3分冊』
- 284 羽ヶ田上
・C. T. キーリー他 1979 「羽ヶ田上・山根坂上遺跡Ⅰ」
・C. T. キーリー他 1979 「羽ヶ田上遺跡 町道第182号線発掘地点」
・羽ヶ田上遺跡調査団 1981 「羽ヶ田上・山根坂上遺跡Ⅱ」
- 285 山根坂上
・山根坂上遺跡調査団 1981 「羽ヶ田上・山根坂上遺跡Ⅲ 1979年度の発掘調査」
・山根坂上遺跡調査団 1981 「羽ヶ田上・山根坂上遺跡Ⅳ 1977年度の発掘調査」
・C. T. キーリー他 1979 「羽ヶ田上・山根坂上遺跡Ⅰ」
- 286 方砂
・大場磐雄他 1967 「西多摩北東地区における考古学上の調査」
『西多摩文化財総合調査報告 第1分冊』
・久保田正寿 1977 「青梅市の埋蔵遺跡」
- 287 寺改戸
・大場磐雄他 1967 「西多摩北東地区における考古学上の調査」
『西多摩文化財総合調査報告 第1分冊』
・青梅市遺跡調査会 1986 「寺改戸遺跡」
- 288 千ヶ瀬
・久保田正寿 1977 「青梅市の埋蔵遺跡」
- 289 K-11-2 (大塚山)
・久保田正寿 1970 「青梅市霞地区における遺跡調査」多摩郷土研究38
・久保田正寿 1977 「青梅市の埋蔵遺跡」
- 290 喜代沢
・吉田 格 1972 「青梅市喜代沢遺跡」日本考古学年報20
・吉田 格 1973 「関東の石器時代」
・久保田正寿 1977 「青梅市の埋蔵遺跡」
・青梅市遺跡調査団 1979 「喜代沢遺跡発掘調査概報」
- 291 裏宿
・久保田正寿 1977 「青梅市の埋蔵遺跡」
・青梅市遺跡調査団 1982 「裏宿遺跡(一次)」
・青梅市遺跡調査団 1985 「裏宿遺跡(二次)」
- 292 崩橋
・久保田正寿 1977 「青梅市の埋蔵遺跡」
・青梅市遺跡調査団 1981 「崩橋遺跡・霞台遺跡群=昭和55年度調査概報=」
- 293 大附
・大場磐雄他 1968 「奥多摩地区における考古学上の調査」
『西多摩文化財総合調査報告 第2分冊』
・久保田正寿 1977 「青梅市の埋蔵遺跡」
・青梅市遺跡調査団 1982 「霞台遺跡群・大附遺跡他=昭和56年度調査概報=」
- 294 雨竜岳
・久保田正寿 1977 「青梅市の埋蔵遺跡」
・青梅市遺跡調査団 1982 「霞台遺跡群・大附遺跡他=昭和56年度調査概報=」

- 295 下宿
 ・大場磐雄他 1968 「奥多摩地区における考古学上の調査」
 『西多摩文化財総合調査報告 第2分冊』
 ・久保田正寿 1977 「青梅市の埋蔵遺跡」
- 296 滝振畑
 ・久保田正寿 1977 「青梅市の埋蔵遺跡」
- 297 上生原
 ・大場磐雄他 1968 「奥多摩地区における考古学上の調査」
 『西多摩文化財総合調査報告 第2分冊』
- 298 大船
 ・大場磐雄他 1968 「奥多摩地区における考古学上の調査」
 『西多摩文化財総合調査報告 第2分冊』
 ・久保田正寿 1977 「青梅市の埋蔵遺跡」
- 299 桜橋原
 ・大場磐雄他 1968 「奥多摩地区における考古学上の調査」
 『西多摩文化財総合調査報告 第2分冊』
 ・久保田正寿 1977 「青梅市の埋蔵遺跡」
 ・青梅市遺跡調査団 1982 「霞台遺跡群・大附遺跡他=昭和56年度調査概報=」
- 300 入ヶ谷
 ・大場磐雄他 1968 「奥多摩地区における考古学上の調査」
 『西多摩文化財総合調査報告 第2分冊』
 ・町史編纂委員会 1985 「奥多摩町誌 歴史編」
- 301 下野原
 ・吉田 格他 1967 「東京都奥多摩町海沢下野原遺跡縄文中期竪穴住居址発掘調査報告」武蔵野46-1
 ・町史編纂委員会 1985 「奥多摩町誌 歴史編」
- 302 白丸西の平
 ・町史編纂委員会 1985 「奥多摩町誌 歴史編」
 ・吉田 格他 1986 「奥多摩町白丸・西の平遺跡の調査」都発表要旨XI
- 303 登計原
 ・今村啓爾 1973 「東京都奥多摩町登計原遺跡発掘調査結果の概要」
 ・登計原遺跡調査団 1974 「とけっぱら遺跡」
 ・町史編纂委員会 1985 「奥多摩町誌 歴史編」
- 304 南氷川
 ・大場磐雄他 1968 「奥多摩地区における考古学上の調査」
 『西多摩文化財総合調査報告 第2分冊』
 ・町史編纂委員会 1985 「奥多摩町誌 歴史編」
- 305 堂場谷戸
 ・後藤守一他 1958 「小河内溪谷における考古学的調査」
 『小河内文化財総合調査報告 第2分冊』
 ・町史編纂委員会 1985 「奥多摩町誌 歴史編」
- 306 上河内平
 ・村高幹博 1938 「郷土小誌」
 ・吉田 格 1955 「小河内の縄文土器」武蔵野34-1
 ・後藤守一他 1958 「小河内溪谷における考古学的調査」
 『小河内文化財総合調査報告 第2分冊』
- 307 京王帝都相模原線No.2
 ・稲城市京王帝都相模原線遺跡調査団 1975 「稲城市京王帝都相模原線遺跡発掘調査報告書」
- 308 黒川東
 ・黒川東遺跡発掘調査団 1979 「黒川東遺跡」

- 309 黒川台東
・黒川東遺跡発掘調査団 1979 「黒川東遺跡」
- 310 吹上
・吹上遺跡調査団 1970 「日野吹上遺跡」
・日野市遺跡調査団 1978 「日野市遺跡調査会年報Ⅰ」
・日野市遺跡調査団 1978 「豊田寺坂遺跡」
・市史編纂委員会 1984 「日野市史史料集」考古資料編
- 311 平山
・東京西線及び北八王子変電所遺跡調査団 1974 「平山橋遺跡」
・持田友宏他 1978 「日野市平山遺跡第2・4・9次調査」都発表要旨Ⅳ
・日野市遺跡調査団 1986 「平山遺跡-第13次調査」
- 312 弁天橋
・弁天橋遺跡調査団 1981 「弁天橋遺跡」
- 313 野山第3
・橋口尚武他 1990 「武蔵村山市野山第3遺跡」都発表要旨15
- 314 中郷原（下清水）
・久保田正寿 1977 「青梅市の埋蔵遺跡」
・吉田 格他 1988 「下清水遺跡」都発表要旨13
- 315 小比企向原
・渡辺忠胤 1960 「八王子市小比企町向原複合住居址発掘調査報告」多摩考古1
・中村 威 1960 「八王子市小比企町山王台敷石住居址発掘調査報告」多摩考古1
・滝口 宏 1987 「八王子市小比企向原C遺跡」都発表要旨Ⅺ
- 316 黒川丸山
・斎藤武一他 1985 「黒川丸山遺跡」
- 317 坂東谷
・坂東谷遺跡発掘調査団 1987 「坂東谷遺跡」
- 318 桜田
・土井義夫 1978 「八王子市桜田遺跡の調査」都発表要旨Ⅳ
- 319 池の下
・元八王子池の下遺跡調査団 1983 「八王子市元八王子池の下遺跡発掘調査報告書」
- 320 多摩ニュータウンNo.9
・小松真名他 1986 「多摩ニュータウンNo.9遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和59年度第4分冊
- 321 多摩ニュータウンNo.90
・比田井克仁他 1986 「多摩ニュータウンNo.90遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和59年度第1分冊
- 322 多摩ニュータウンNo.116
・千葉基次 1987 「多摩ニュータウンNo.116遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和60年度第3分冊
- 323 多摩ニュータウンNo.205
・原川雄二 1982 「多摩ニュータウンNo.205遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和56年度第2分冊
- 324 多摩ニュータウンNo.206
・川田壽文 1982 「多摩ニュータウンNo.206遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和56年度第2分冊
- 325 多摩ニュータウンNo.366
・館野 孝 1989 「多摩丘陵の尖頭器」『旧石器時代 槍の文化史』
第2回多摩ニュータウン遺跡群を考えるシンポジウム レジメ
- 326 多摩ニュータウンNo.382
・石橋峯幸 1984 「多摩ニュータウンNo.382～4・6遺跡」
『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第2分冊
- 327 多摩ニュータウンNo.383
・石橋峯幸 1984 「多摩ニュータウンNo.382～4・6遺跡」
『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第2分冊

- 328 多摩ニュータウンNo.386
・川島雅人他 1987 「多摩ニュータウンNo.386 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和60年度第2分冊
- 329 多摩ニュータウンNo.388
・石橋峯幸 1987 「多摩ニュータウンNo.388・389・431 遺跡」
『多摩ニュータウン』昭和60年度第3分冊
- 330 多摩ニュータウンNo.396
・岩橋陽一 1984 「多摩ニュータウンNo.396 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第2分冊
- 331 多摩ニュータウンNo.419
・福田敏一他 1983 「多摩ニュータウンNo.419 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和57年度第2分冊
- 332 多摩ニュータウンNo.424
・原川雄二他 1984 「多摩ニュータウンNo.424 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第3分冊
- 333 多摩ニュータウンNo.531
・小松真名 1984 「多摩ニュータウンNo.531 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第4分冊
- 334 多摩ニュータウンNo.540
・竹田 均 1981 「多摩ニュータウンNo.540 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和55年度第2分冊
- 335 多摩ニュータウンNo.544
・坂入民子他 1982 「多摩ニュータウンNo.544 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和56年度第3分冊
- 336 多摩ニュータウンNo.608
・比田井民子他 1984 「多摩ニュータウンNo.607・608・634 遺跡」
『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第5分冊
- 337 多摩ニュータウンNo.636
・小松真名 1983 「多摩ニュータウンNo.636・637 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和57年度第2分冊
- 338 多摩ニュータウンNo.677A
・石崎俊哉他 1983 「多摩ニュータウンNo.677A・677B 遺跡」
『多摩ニュータウン遺跡』昭和57年度第4分冊
- 339 多摩ニュータウンNo.682
・小葉一夫 1989 「多摩ニュータウンNo.682 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和62年度第2分冊
- 340 多摩ニュータウンNo.707
・東京都教育委員会 1983 「T.N.T.No.707 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡緊急対応特別調査報告』3
- 341 多摩ニュータウンNo.726
・小坂井孝修 1984 「多摩ニュータウンNo.726・727・728 遺跡」
『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第6分冊
- 342 多摩ニュータウンNo.737
・岩橋陽一他 1986 「多摩ニュータウンNo.737 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和59年度第1分冊
- 343 多摩ニュータウンNo.754
・伊藤敏行他 1983 「多摩ニュータウンNo.753・754 遺跡」
『多摩ニュータウン遺跡』昭和57年度第4分冊
- 344 多摩ニュータウンNo.759
・並木 仁他 1982 「多摩ニュータウンNo.759 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和56年度第4分冊
- 345 多摩ニュータウンNo.774
・阿部祥人他 1982 「多摩ニュータウンNo.774・775 遺跡」
『多摩ニュータウン遺跡』昭和56年度第6分冊
- 346 多摩ニュータウンNo.796
・山口慶一 1982 「多摩ニュータウンNo.796 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和56年度第4分冊
・川崎邦彦 1986 「多摩ニュータウンNo.796 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和59年度第3分冊
・石井則孝他 1989 「多摩ニュータウンNo.796 遺跡」都発表要旨14
- 347 多摩ニュータウンNo.799
・竹田 均他 1986 「多摩ニュータウンNo.799 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和59年度第3分冊
- 348 多摩ニュータウンNo.817
・東京都埋蔵文化財センター 1985 「東京都埋蔵文化財センター 年報5 昭和59年度」

- 349 多摩ニュータウンNo.860
・小林深志他 1982 「多摩ニュータウンNo.860 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和56年度第4分冊
- 350 多摩ニュータウンNo.861
・竹尾 進 1983 「多摩ニュータウンNo.861 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和57年度第5分冊
- 351 大久保
・中西 充 1980 「八王子市恩方町大久保遺跡の調査」考古学ノート8
- 352 半蔵窪
・半蔵窪遺跡調査団 1989 「半蔵窪遺跡調査報告書」
- 353 精進バケ
・森田安彦他 1990 「精進バケ遺跡」
- 354 天王台
・羽村町天王台遺跡調査会 1990 「羽村町天王台遺跡調査報告」
- 355 下石原
・乙益重隆他 1985 「調布市下石原（はけ通）遺跡-第2地点-」都発表要旨X
・調布市遺跡調査会 1987 「調布市下石原遺跡-第3地点（第8地域福祉センター）-」
- 356 稲荷森
・戸田有二 1982 「神奈川県川崎市稲荷森遺跡発掘調査報告」
- 357 亀の子山
・久保哲三他 1986 「亀の子山遺跡」
- 358 潮見台A地点
・久保常晴編 1971 「潮見台」
- 359 潮見台B地点
・伊東秀吉他 1978 「潮見台遺跡B地点発掘調査報告書」
- 360 鷺ヶ峰
・金子皓彦他 1982 「鷺ヶ峰遺跡」
- 361 菅生水沢
・竹石健二 1980 「川崎市高津区菅生水沢遺跡発掘調査概報」
・竹石健二他 1980 「川崎市菅生水沢遺跡発掘調査報告書（E地点）」
・竹石健二他 1982 「川崎市高津区菅生水沢遺跡発掘調査報告書」
- 362 南平
・東原信行 1978 「川崎市高津区向ヶ丘字南平遺跡発掘調査報告」川崎市文化財調査集録14
- 363 北の谷
・増田精一他 1982 「北の谷遺跡」
- 364 多摩ニュータウンNo.880
・金持健司 1989 「多摩ニュータウンNo.880 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和62年度第6分冊
- 365 多摩ニュータウンNo.4
・小坂井孝修 1981 「多摩ニュータウンNo.4 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和55年度第1分冊
- 366 多摩ニュータウンNo.10
・東京都埋蔵文化財センター 1990 「東京都埋蔵文化財センター 年報10 平成元年度」
- 367 多摩ニュータウンNo.14
・東京都埋蔵文化財センター 1987 「東京都埋蔵文化財センター 年報7 昭和61年度」
- 368 多摩ニュータウンNo.71
・東京都埋蔵文化財センター 1990 「東京都埋蔵文化財センター 年報10 平成元年度」
- 369 多摩ニュータウンNo.92
・小島正裕 1987 「多摩ニュータウンNo.92遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和60年度第3分冊
- 370 多摩ニュータウンNo.105
・東京都埋蔵文化財センター 1988 「東京都埋蔵文化財センター 年報8 昭和62年度」
- 371 多摩ニュータウンNo.113
・東京都埋蔵文化財センター 1990 「東京都埋蔵文化財センター 年報10 平成元年度」

- 372 多摩ニュータウンNo.146
・田中純男 1982 「多摩ニュータウンNo.146 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和56年度第1分冊
- 373 多摩ニュータウンNo.166
・東京都埋蔵文化財センター 1987 「東京都埋蔵文化財センター 年報7 昭和61年度」
- 374 多摩ニュータウンNo.174
・東京都埋蔵文化財センター 1987 「東京都埋蔵文化財センター 年報7 昭和61年度」
- 375 多摩ニュータウンNo.177
・東京都埋蔵文化財センター 1987 「東京都埋蔵文化財センター 年報7 昭和61年度」
- 376 多摩ニュータウンNo.227
・東京都埋蔵文化財センター 1988 「東京都埋蔵文化財センター 年報8 昭和62年度」
- 377 多摩ニュータウンNo.231
・東京都埋蔵文化財センター 1988 「東京都埋蔵文化財センター 年報8 昭和62年度」
- 378 多摩ニュータウンNo.237
・東京都埋蔵文化財センター 1989 「東京都埋蔵文化財センター 年報9 昭和63年度」
- 379 多摩ニュータウンNo.241
・東京都埋蔵文化財センター 1989 「東京都埋蔵文化財センター 年報9 昭和63年度」
・東京都埋蔵文化財センター 1990 「東京都埋蔵文化財センター 年報10 平成元年度」
- 380 多摩ニュータウンNo.266
・東京都埋蔵文化財センター 1987 「東京都埋蔵文化財センター 年報7 昭和61年度」
- 381 多摩ニュータウンNo.271
・川島雅人 1986 「多摩ニュータウンNo.271・452 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和59年度第4分冊
・川島雅人 1987 「多摩ニュータウンNo.271・452 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和60年度第5分冊
- 382 多摩ニュータウンNo.287
・東京都埋蔵文化財センター 1988 「東京都埋蔵文化財センター 年報8 昭和62年度」
- 383 多摩ニュータウンNo.296
・松井和浩 1984 「多摩ニュータウンNo.296 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第1分冊
- 384 多摩ニュータウンNo.303
・東京都埋蔵文化財センター 1987 「東京都埋蔵文化財センター 年報7 昭和61年度」
- 385 多摩ニュータウンNo.304
・東京都埋蔵文化財センター 1988 「東京都埋蔵文化財センター 年報8 昭和62年度」
- 386 多摩ニュータウンNo.307
・東京都埋蔵文化財センター 1988 「東京都埋蔵文化財センター 年報8 昭和62年度」
- 387 多摩ニュータウンNo.309
・東京都埋蔵文化財センター 1988 「東京都埋蔵文化財センター 年報8 昭和62年度」
・東京都埋蔵文化財センター 1989 「東京都埋蔵文化財センター 年報9 昭和63年度」
- 388 多摩ニュータウンNo.320
・東京都埋蔵文化財センター 1989 「東京都埋蔵文化財センター 年報9 昭和63年度」
- 389 多摩ニュータウンNo.325
・江里口省三 1988 「多摩ニュータウンNo.325 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和61年度第1分冊
- 390 多摩ニュータウンNo.355
・千葉基次 1987 「多摩ニュータウンNo.355 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和60年度第3分冊
- 391 多摩ニュータウンNo.891
・東京都埋蔵文化財センター 1990 「東京都埋蔵文化財センター 年報10 平成元年度」
- 392 多摩ニュータウンNo.363
・丹野雅人 1988 「多摩ニュータウンNo.362・363 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和61年度第1分冊
- 393 多摩ニュータウンNo.384
・石橋幸幸 1984 「多摩ニュータウンNo.382～4・6 遺跡」
『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第2分冊
・東京都埋蔵文化財センター 1990 「東京都埋蔵文化財センター 年報10 平成元年度」

- 394 多摩ニュータウンNo.389
・東京都埋蔵文化財センター 1987 「東京都埋蔵文化財センター 年報7 昭和61年度」
- 395 多摩ニュータウンNo.393
・岩橋陽一 1983 「多摩ニュータウンNo.393 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和57年度第1分冊
- 396 多摩ニュータウンNo.398
・小林博範 1984 「多摩ニュータウンNo.398 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第2分冊
- 397 多摩ニュータウンNo.400
・東京都教育委員会 1983 「多摩ニュータウン遺跡緊急対応特別調査報告」3
- 398 多摩ニュータウンNo.407
・佐藤宏之 1984 「多摩ニュータウンNo.407 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第3分冊
- 399 多摩ニュータウンNo.414
・新井真博 1984 「多摩ニュータウンNo.414 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第3分冊
- 400 多摩ニュータウンNo.423
・石橋峯幸 1983 「多摩ニュータウンNo.423 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和57年度第1分冊
- 401 多摩ニュータウンNo.451
・松井和浩 1987 「多摩ニュータウンNo.451A・452遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和60年度第2分冊
- 402 多摩ニュータウンNo.454
・新井真博 1981 「多摩ニュータウンNo.454 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和55年度第1分冊
- 403 多摩ニュータウンNo.464
・東京都埋蔵文化財センター 1985 「東京都埋蔵文化財センター 年報5 昭和59年度」
- 404 多摩ニュータウンNo.894
・東京都埋蔵文化財センター 1989 「東京都埋蔵文化財センター 年報9 昭和63年度」
- 405 多摩ニュータウンNo.480
・東京都埋蔵文化財センター 1987 「東京都埋蔵文化財センター 年報7 昭和61年度」
- 406 多摩ニュータウンNo.481
・東京都埋蔵文化財センター 1989 「東京都埋蔵文化財センター 年報9 昭和63年度」
- 407 多摩ニュータウンNo.482
・東京都埋蔵文化財センター 1987 「東京都埋蔵文化財センター 年報7 昭和61年度」
- 408 多摩ニュータウンNo.490
・東京都埋蔵文化財センター 1989 「東京都埋蔵文化財センター 年報9 昭和63年度」
- 409 多摩ニュータウンNo.503
・東京都埋蔵文化財センター 1988 「東京都埋蔵文化財センター 年報8 昭和62年度」
・東京都埋蔵文化財センター 1989 「東京都埋蔵文化財センター 年報9 昭和63年度」
- 410 多摩ニュータウンNo.509
・栗城謙一 1982 「多摩ニュータウンNo.509 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和56年度第3分冊
- 411 多摩ニュータウンNo.513
・金持健司 1987 「多摩ニュータウンNo.513 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和60年度第4分冊
- 412 多摩ニュータウンNo.514
・小島正裕 1982 「多摩ニュータウンNo.514 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和56年度第6分冊
- 413 多摩ニュータウンNo.523
・東京都埋蔵文化財センター 1990 「東京都埋蔵文化財センター 年報10 平成元年度」
- 414 多摩ニュータウンNo.525
・小林深志 1983 「多摩ニュータウンNo.525 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和57年度第2分冊
- 415 多摩ニュータウンNo.530
・東京都教育委員会 1982 「多摩ニュータウン遺跡緊急対応特別調査報告」
- 416 多摩ニュータウンNo.556
・山口慶一 1982 「多摩ニュータウンNo.556 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和56年度第6分冊
- 417 多摩ニュータウンNo.559
・坂入民子 1982 「多摩ニュータウンNo.559 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和56年度第4分冊

- 418 多摩ニュータウンNo.562
・川島雅人 1979 「多摩ニュータウン遺跡調査報告 VII」
- 419 多摩ニュータウンNo.582
・山口慶一 1983 「多摩ニュータウンNo.582 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和57年度第3分冊
- 420 多摩ニュータウンNo.583
・山口慶一 1983 「多摩ニュータウンNo.583 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和57年度第3分冊
- 421 多摩ニュータウンNo.588
・竹田 均 1981 「多摩ニュータウンNo.588 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和55年度第2分冊
- 422 多摩ニュータウンNo.591
・並木 仁 1981 「多摩ニュータウンNo.591 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和55年度第2分冊
- 423 多摩ニュータウンNo.595
・千葉基次 1984 「多摩ニュータウンNo.593-594-595 遺跡」
『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第4分冊
- 424 多摩ニュータウンNo.597
・小葉一夫 1986 「多摩ニュータウンNo.597 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和59年度第4分冊
- 425 多摩ニュータウンNo.603
・加藤 修 1984 「多摩ニュータウンNo.603 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第4分冊
- 426 多摩ニュータウンNo.615
・東京都埋蔵文化財センター 1990 「東京都埋蔵文化財センター 年報10 平成元年度」
- 427 多摩ニュータウンNo.622
・山口慶一 1984 「多摩ニュータウンNo.622 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第5分冊
- 428 多摩ニュータウンNo.638
・山口慶一 1983 「多摩ニュータウンNo.638 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和57年度第3分冊
- 429 多摩ニュータウンNo.646
・東京都埋蔵文化財センター 1989 「東京都埋蔵文化財センター 年報9 昭和63年度」
- 430 多摩ニュータウンNo.652
・東京都埋蔵文化財センター 1985 「東京都埋蔵文化財センター 年報5 昭和59年度」
- 431 多摩ニュータウンNo.661
・武井利道 1983 「多摩ニュータウンNo.661 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和57年度第4分冊
- 432 多摩ニュータウンNo.663
・東京都埋蔵文化財センター 1985 「東京都埋蔵文化財センター 年報5 昭和59年度」
- 433 多摩ニュータウンNo.664
・東京都埋蔵文化財センター 1989 「東京都埋蔵文化財センター 年報9 昭和63年度」
- 434 多摩ニュータウンNo.665
・石崎俊哉 1984 「多摩ニュータウンNo.665 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第5分冊
- 435 多摩ニュータウンNo.671
・小林博範 1983 「多摩ニュータウンNo.671 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和57年度第4分冊
- 436 多摩ニュータウンNo.676
・小林深志 1983 「多摩ニュータウンNo.676 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和57年度第4分冊
- 437 多摩ニュータウンNo.683
・東京都埋蔵文化財センター 1990 「東京都埋蔵文化財センター 年報10 平成元年度」
- 438 多摩ニュータウンNo.685
・東京都埋蔵文化財センター 1987 「東京都埋蔵文化財センター 年報7 昭和61年度」
- 439 多摩ニュータウンNo.721
・竹尾 進 1989 「多摩ニュータウンNo.721 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和62年度第1分冊
・山口慶一 1989 「多摩ニュータウンNo.721 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和62年度第1分冊
- 440 多摩ニュータウンNo.734
・佐藤宏之 1986 「多摩ニュータウンNo.734 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和59年度第1分冊
- 441 多摩ニュータウンNo.748
・東京都埋蔵文化財センター 1986 「東京都埋蔵文化財センター 年報6 昭和60年度」

- 442 多摩ニュータウンNo.749
・阿部祥人 1981 「多摩ニュータウンNo.749 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和55年度第2分冊
- 443 多摩ニュータウンNo.751
・新井真博 1984 「多摩ニュータウンNo.751 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第6分冊
- 444 多摩ニュータウンNo.760
・東京都埋蔵文化財センター 1988 「東京都埋蔵文化財センター 年報8 昭和62年度」
- 445 多摩ニュータウンNo.782
・小林博範 1982 「多摩ニュータウンNo.782 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和56年度第5分冊
- 446 多摩ニュータウンNo.789
・東京都埋蔵文化財センター 1989 「東京都埋蔵文化財センター 年報9 昭和63年度」
・東京都埋蔵文化財センター 1990 「東京都埋蔵文化財センター 年報10 平成元年度」
- 447 多摩ニュータウンNo.801
・東京都埋蔵文化財センター 1989 「東京都埋蔵文化財センター 年報9 昭和63年度」
- 448 多摩ニュータウンNo.804
・小松真名 1981 「多摩ニュータウンNo.804 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和55年度第3分冊
- 449 多摩ニュータウンNo.811
・東京都埋蔵文化財センター 1987 「東京都埋蔵文化財センター 年報7 昭和61年度」
- 450 多摩ニュータウンNo.815
・千野裕道 1986 「多摩ニュータウンNo.815 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和59年度第4分冊
- 451 多摩ニュータウンNo.818
・丹野雅人 1984 「多摩ニュータウンNo.818 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第6分冊
・佐藤宏之 1986 「多摩ニュータウンNo.818 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和59年度第1分冊
・小葉一夫 1987 「多摩ニュータウンNo.818 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和60年度第1分冊
- 452 多摩ニュータウンNo.850
・栗城譲一 1984 「多摩ニュータウンNo.850 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第6分冊
- 453 多摩ニュータウンNo.852
・阿部祥人 1984 「多摩ニュータウンNo.852 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和58年度第6分冊
- 454 多摩ニュータウンNo.853
・東京都埋蔵文化財センター 1986 「東京都埋蔵文化財センター 年報6 昭和60年度」
- 455 多摩ニュータウンNo.858
・佐藤 攻 1983 「多摩ニュータウンNo.858 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和57年度第5分冊
- 456 多摩ニュータウンNo.898
・東京都埋蔵文化財センター 1990 「東京都埋蔵文化財センター 年報10 平成元年度」
- 457 多摩ニュータウンNo.863
・石橋峯幸 1987 「多摩ニュータウンNo.863 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和60年度第3分冊
- 458 多摩ニュータウンNo.864
・丹野雅人 1988 「多摩ニュータウンNo.864 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和61年度第1分冊
- 459 多摩ニュータウンNo.869
・東京都埋蔵文化財センター 1988 「東京都埋蔵文化財センター 年報8 昭和62年度」
- 460 多摩ニュータウンNo.872
・岩橋陽一 1989 「多摩ニュータウンNo.872 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和62年度第4分冊
- 461 多摩ニュータウンNo.88
・雪田隆子 1968 「多摩ニュータウン遺跡調査報告 V」
- 462 多摩ニュータウンNo.98
・安孫子昭二 1968 「多摩ニュータウン遺跡調査報告 V」
- 463 多摩ニュータウンNo.99
・安孫子昭二 1968 「多摩ニュータウン遺跡調査報告 V」
- 464 多摩ニュータウンNo.188
・安孫子昭二 1968 「多摩ニュータウン遺跡調査報告 V」

- 465 多摩ニュータウンNo.175
・安孫子昭二 1970 「多摩ニュータウン遺跡調査概報 昭和44年度」
- 466 多摩ニュータウンNo.32
・高林 均 1974 「多摩ニュータウン遺跡調査概報-No.31-32-259 遺跡-」
- 467 池の上
・梶 国男他 1979 「八王子市池の上遺跡の発掘調査」考古学ジャーナル163
- 468 川崎市多摩区菅 所在
・東原信行 1977 「川崎市多摩区菅発見の有舌尖頭器」川崎市文化財調査集録13
- 469 風久保西
・風久保西遺跡発掘調査団 1989 「風久保西遺跡発掘調査報告書」
- 470 大塚
・八王子市大塚地区遺跡調査団 1989 「八王子市大塚遺跡」
- 471 新堂
・多摩市教育委員会 1981 「新堂遺跡」
- 472 野川中洲北
・小金井市遺跡調査会 1989 「野川中洲北遺跡」
- 473 岡本前耕地
・都立学校遺跡調査会 1990 「岡本前耕地-都立砦工業高校体育館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報-」
- 474 喜多見陣屋
・喜多見陣屋遺跡調査会 1989 「喜多見陣屋遺跡 I」
- 475 東和泉
・小田急遺跡調査会 1990 「宿屋敷東、宿屋敷西、狛江駅北、田中・寺前東和泉、狛江市立第三中学校南側遺跡」
- 476 黒川海道
・村田文夫他 1978 「川崎市多摩区黒川海道遺跡採集の石器群」神奈川考古3
- 477 黒川若葉台駅
・村田文夫他 1978 「川崎市多摩区黒川海道遺跡採集の石器群」神奈川考古3
- 478 広福寺境内
・村田文夫 1968 「神奈川県川崎市生田広福寺境内採集の隆起線文系土器片について」古代文化20-2
- 479 平
・村田文夫他 1978 「川崎市多摩区黒川海道遺跡採集の石器群」神奈川考古3
- 480 国領南
・市史編纂委員会 1990 「調布市史」上
- 481 谷ツ
・黒川地区遺跡調査団 1990 「谷ツ遺跡 黒川地区遺跡群報告書Ⅱ」
- 482 中久保
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 483 東元町4丁目 所在
・上敷領 久 1988 「国分寺市東元町出土の尖頭器」東京の遺跡No.18
- 484 東京経済大学構内
・市史編纂委員会 1986 「国分寺市史」上
- 485 堂山
・市史編纂委員会 1990 「調布市史」上
- 486 浅間谷
・吉田 格・比留間 博 1970 「狭山・六道山・浅間谷遺跡」
- 487 六道山
・吉田 格・比留間 博 1970 「狭山・六道山・浅間谷遺跡」
- 488 七軒家
・新藤康夫他 1974 「平代坂・七軒家」

- 489 国分寺市光町一丁目 所在
 ・上敷領 久 1988 「国分寺市東元町出土の尖頭器」東京の遺跡No.18
- 490 国分寺市西元町一丁目 所在
 ・市史編纂委員会 1986 「国分寺市史」上
- 491 国分寺市西元町三丁目 所在
 ・市史編纂委員会 1986 「国分寺市史」上
- 492 国分寺市南町一丁目 所在
 ・市史編纂委員会 1986 「国分寺市史」上
- 493 殿ヶ谷新田
 ・市史編纂委員会 1978 「立川市史」上
- 494 松中原
 ・市史編纂委員会 1978 「立川市史」上
- 495 天王橋 A
 ・市史編纂委員会 1978 「立川市史」上
- 496 上水向
 ・市史編纂委員会 1978 「立川市史」上
- 497 大山道東
 ・市史編纂委員会 1978 「立川市史」上
- 498 宮の橋
 ・市史編纂委員会 1978 「立川市史」上
- 499 観音寺原
 ・市史編纂委員会 1978 「立川市史」上
- 500 留原
 ・都道32号線留原遺跡調査会 1987 「留原」

第10表 多摩川流域旧石器時代遺跡一覽

5	稲荷丸北	57	恋ヶ窪南	150	多摩ニュータウンNo.406
6	瀬田	58	恋ヶ窪	151	多摩ニュータウンNo.359
7	滝ヶ谷	61	多喜窪	194	神谷原(櫛田第Ⅱ)
8	下山	62	上神明	195	櫛田第Ⅲ
9	下山北	64	弁財天池	198	下寺田
10	堂ヶ谷戸	67	上布田	200	館町第7地点
14	向野田	69	飛田給	201	館町第1地点
15	上之台	70	府中都市計画道路2・1・4号線	202	館町第8地点
19	北野	74	向郷	205	神明上
20	市立第五中学校	75	大和田	211	東寺方
21	丸池	78	狭山	224	西野
23	嘉留多	80	下原	225	下耕地
24	砧中学校	90	武蔵台	226	石川天野
25	下神明	95	多摩ニュータウンNo.471・473	255	前田耕地
26	入間町城山	101	多摩ニュータウンNo.379	257	二宮・二宮森腰
28	滝坂	102	多摩ニュータウンNo.511	273	王子ヶ城
35	羽根沢台	108	多摩ニュータウンNo.27	307	京王帝都相模原線No.2
36	原	110	多摩ニュータウンNo.31	315	小比企向原
37	天文台構内	111	多摩ニュータウンNo.52	320	多摩ニュータウンNo.9
38	出山	112	多摩ニュータウンNo.281	322	多摩ニュータウンNo.116
39	坂上	113	多摩ニュータウンNo.450	324	多摩ニュータウンNo.206
40	野川	114	多摩ニュータウンNo.466	325	多摩ニュータウンNo.366
41	I C U構内遺跡群	116	多摩ニュータウンNo.57	329	多摩ニュータウンNo.388
42	野川公園柵	119	堂場	330	多摩ニュータウンNo.396
43	武蔵野公園	120	和田・百草	332	多摩ニュータウンNo.424
44	栗山	121	仁王塚	340	多摩ニュータウンNo.707
45	新橋	128	多摩ニュータウンNo.433	345	多摩ニュータウンNo.774
46	中山谷	129	多摩ニュータウンNo.426	349	多摩ニュータウンNo.860
47	前原	130	多摩ニュータウンNo.727	362	南平
48	貫井南	133	多摩ニュータウンNo.512	364	多摩ニュータウンNo.880
49	西之台	135	多摩ニュータウンNo.125	373	多摩ニュータウンNo.166
50	平代坂	136	多摩ニュータウンNo.401	374	多摩ニュータウンNo.174
51	はけうえ	137	多摩ニュータウンNo.402	375	多摩ニュータウンNo.177
52	貫井	138	多摩ニュータウンNo.457	381	多摩ニュータウンNo.271
53	荒牧	140	多摩ニュータウンNo.740	385	多摩ニュータウンNo.304
54	花沢東	144	多摩ニュータウンNo.699	388	多摩ニュータウンNo.320
55	本町(国分寺村石器時代)	145	多摩ニュータウンNo.207	390	多摩ニュータウンNo.355
56	花沢西	146	多摩ニュータウンNo.300	395	多摩ニュータウンNo.393

397	多摩ニュータウンNo.400	517	中西	551	坂浜
402	多摩ニュータウンNo.454	518	中原橋	552	飯坂上
405	多摩ニュータウンNo.480	519	小中尾 (N-4)	553	瑞穂町殿ヶ谷 所在
431	多摩ニュータウンNo.661	520	府中市栄町二、三丁目 所在	554	多摩ニュータウンNo.2
440	多摩ニュータウンNo.734	521	白糸台 (2・2・12号線)	555	多摩ニュータウンNo.26
457	多摩ニュータウンNo.863	522	分梅町一丁目市道	556	多摩ニュータウンNo.59
472	野川中洲北	523	パークハイム府中	557	多摩ニュータウンNo.91
484	東京経済大学構内	524	武蔵府中郵便局	558	多摩ニュータウンNo.139
485	堂山	525	都営美好町一丁目アパート	559	多摩ニュータウンNo.144
486	浅間谷	526	東京競馬場八幡町舎宅	560	多摩ニュータウンNo.213
487	六道山	527	府中市若松町4丁目	561	多摩ニュータウンNo.301
488	七軒家	528	林ノ上	562	多摩ニュータウンNo.302
492	国分寺市南町一丁目 所在	529	昭島市大神町北享保新田所在	563	多摩ニュータウンNo.352
493	殿ヶ谷新田	530	昭島市宮沢町・中神町 所在	564	多摩ニュータウンNo.385
494	松中原	531	仙川	565	多摩ニュータウンNo.392
496	上水向	532	蟹沢	566	多摩ニュータウンNo.394
497	大山道東	533	中台南	567	多摩ニュータウンNo.420
498	宮の橋	534	西原	568	多摩ニュータウンNo.421
499	観音寺原	535	上石原	569	多摩ニュータウンNo.455
501	東山野	536	町田市上小山田町八号 所在	570	多摩ニュータウンNo.467
502	中神明	537	ICU Loc. 15	571	多摩ニュータウンNo.471-B
503	将監山	538	野川中洲	572	多摩ニュータウンNo.488
504	下野田山	539	武蔵野公園低湿地	573	多摩ニュータウンNo.500
505	西谷戸	540	小金井市東町一丁目 所在	574	多摩ニュータウンNo.519
506	仙川	541	日野市旭が丘一丁目 所在	575	多摩ニュータウンNo.633
507	上川町釜の沢 所在	542	熊ノ郷	576	多摩ニュータウンNo.662
508	谷野町 所在	543	多摩蘭坂	577	多摩ニュータウンNo.667
509	寺田遺跡群No.4	544	武蔵国分寺跡	578	多摩ニュータウンNo.706
510	片倉 (南部地区No.2)	545	殿ヶ谷戸北	579	多摩ニュータウンNo.722
511	館町第2地点	546	殿ヶ谷戸	580	多摩ニュータウンNo.733
512	館町第12地点	547	国分寺市西恋ヶ窪三丁目 所在	581	多摩ニュータウンNo.769
513	館町第16地点	548	国分寺市西恋ヶ窪三丁目、日吉町 所在	582	多摩ニュータウンNo.799
514	天王橋B地点	549	光町	583	多摩ニュータウンNo.813
515	三鷹高校校庭	550	国分寺市光町一丁目 所在	584	野水橋
516	原			585	古八幡

第 1 1 表 旧石器時代ナイフ形石器文化期遺跡一覽

5 稲荷丸北	95 多摩ニュータウンNo.471・473	502 中神明
7 滝ヶ谷	101 多摩ニュータウンNo.379	503 将監山
8 下山	102 多摩ニュータウンNo.511	504 下野田山
9 下山北	108 多摩ニュータウンNo.27	505 西谷戸
10 堂ヶ谷戸	111 多摩ニュータウンNo.52	506 仙川
15 上之台	113 多摩ニュータウンNo.450	510 片倉(南部地区No.2)
19 北野	116 多摩ニュータウンNo.57	512 館町第12地点
20 市立第五中学校	119 堂場	514 天王橋B地点
23 嘉留多	129 多摩ニュータウンNo.426	515 三鷹高校校庭
24 砧中学校	133 多摩ニュータウンNo.512	520 府中市栄町二、三丁目 所在
25 下神明	135 多摩ニュータウンNo.125	521 白糸台(2・2・12号線)
26 入間町城山	137 多摩ニュータウンNo.402	525 都営美好町一丁目アパート
28 滝坂	138 多摩ニュータウンNo.457	528 林ノ上
36 原	140 多摩ニュータウンNo.740	537 ICU Loc. 15
37 天文台構内	150 多摩ニュータウンNo.406	538 野川中洲
38 出山	151 多摩ニュータウンNo.359	539 武蔵野公園低湿地
39 坂上	194 神谷原(柵田第Ⅱ)	543 多摩蘭坂
40 野川	198 下寺田	544 武蔵国分寺跡
41 ICU構内遺跡群	201 館町第1地点	545 殿ヶ谷戸北
44 栗山	211 東寺方	546 殿ヶ谷戸
45 新橋	226 石川天野	549 光町
46 中山谷	307 京王帝都相模原線No.2	551 坂浜
47 前原	322 多摩ニュータウンNo.116	559 多摩ニュータウンNo.144
48 貫井南	324 多摩ニュータウンNo.206	562 多摩ニュータウンNo.302
49 西之台	329 多摩ニュータウンNo.388	565 多摩ニュータウンNo.392
50 平代坂	330 多摩ニュータウンNo.396	567 多摩ニュータウンNo.420
51 はけうえ	332 多摩ニュータウンNo.424	568 多摩ニュータウンNo.421
54 花沢東	345 多摩ニュータウンNo.774	570 多摩ニュータウンNo.467
56 花沢西	373 多摩ニュータウンNo.166	575 多摩ニュータウンNo.633
58 恋ヶ窪	375 多摩ニュータウンNo.177	579 多摩ニュータウンNo.722
62 上神明	381 多摩ニュータウンNo.271	581 多摩ニュータウンNo.769
64 弁財天池	397 多摩ニュータウンNo.400	582 多摩ニュータウンNo.799
70 府中都市計画道路2・1・4号線	405 多摩ニュータウンNo.480	583 多摩ニュータウンNo.813
74 向郷	457 多摩ニュータウンNo.863	585 古八幡
78 狭山	472 野川中洲北	
90 武蔵台	499 観音寺原	

第 1 2 表 旧石器時代尖頭器石器群期遺跡一覽

5	稲荷丸北	129	多摩ニュータウンNo.426	497	大山道東
14	向野田	133	多摩ニュータウンNo.512	498	宮の橋
19	北野	135	多摩ニュータウンNo.125	499	観音寺原
20	市立第五中学校	136	多摩ニュータウンNo.401	505	西谷戸
23	嘉留多	137	多摩ニュータウンNo.402	506	仙川
24	砧中学校	138	多摩ニュータウンNo.457	511	館町第2地点
25	下神明	140	多摩ニュータウンNo.740	519	小中尾(N-4)
26	人間町城山	144	多摩ニュータウンNo.699	520	府中市栄町二、三丁目 所在
37	天文台構内	145	多摩ニュータウンNo.207	524	武蔵府中郵便局
38	出山	194	神谷原(櫛田第Ⅱ)	525	都営美好町一丁目アパート
40	野川	195	櫛田第Ⅲ	529	昭島市大神町北享保新田 所在
41	I C U構内遺跡群	200	館町第7地点	530	昭島市宮沢町・中神町 所在
45	新橋	224	西野	535	上石原
47	前原	255	前田耕地	538	野川中洲
48	貫井南	325	多摩ニュータウンNo.366	542	熊ノ郷
49	西之台	329	多摩ニュータウンNo.388	543	多摩蘭坂
50	平代坂	332	多摩ニュータウンNo.424	545	殿ヶ谷戸北
51	はけうえ	345	多摩ニュータウンNo.774	546	殿ヶ谷戸
54	花沢東	349	多摩ニュータウンNo.860	552	飯坂上
56	花沢西	364	多摩ニュータウンNo.880	553	瑞穂町殿ヶ谷 所在
58	恋ヶ窪	390	多摩ニュータウンNo.355	559	多摩ニュータウンNo.144
61	多喜窪	395	多摩ニュータウンNo.393	561	多摩ニュータウンNo.301
67	上布田	397	多摩ニュータウンNo.400	563	多摩ニュータウンNo.352
69	飛田給	431	多摩ニュータウンNo.661	566	多摩ニュータウンNo.394
75	大和田	457	多摩ニュータウンNo.863	568	多摩ニュータウンNo.421
78	狭山	472	野川中洲北	572	多摩ニュータウンNo.488
90	武蔵台	484	東京経済大学	574	多摩ニュータウンNo.519
95	多摩ニュータウンNo.471・473	485	堂山	580	多摩ニュータウンNo.733
108	多摩ニュータウンNo.27	486	浅間谷	581	多摩ニュータウンNo.769
111	多摩ニュータウンNo.52	487	六道山	582	多摩ニュータウンNo.799
113	多摩ニュータウンNo.450	493	殿ヶ谷新田	585	古八幡
116	多摩ニュータウンNo.57	494	松中原		
120	和田・百草	496	上水向		

第 1 3 表 旧石器時代細石器石器群期遺跡一覽

8	下山	78	狭山	340	多摩ニュータウンNo.707
19	北野	110	多摩ニュータウンNo.31	397	多摩ニュータウンNo.400
20	市立第五中学校	129	多摩ニュータウンNo.426	402	多摩ニュータウンNo.454
37	天文台構内	140	多摩ニュータウンNo.740	457	多摩ニュータウンNo.863
38	出山	225	下耕地	486	浅間谷
40	野川	226	石川天野	515	三鷹高校校庭
43	武蔵野公園	255	前田耕地	520	府中市栄町二、三丁目 所在
44	栗山	257	二宮・二宮森腰	539	武蔵野公園低湿地
45	新橋	273	王子ヶ城	561	多摩ニュータウンNo.301
46	中山谷	315	小比企向原	564	多摩ニュータウンNo.385
49	西之台	325	多摩ニュータウンNo.366	581	多摩ニュータウンNo.769
51	はけうえ	329	多摩ニュータウンNo.388		

第 14 表 多摩川流域旧石器時代参考文献

- 501 東山野
・区史編纂委員会 1975 「世田谷区史料」8 考古編
- 502 中神明
・大槻信次他 1982 「中神明遺跡・横穴墓群・下野毛岸横穴墓群・瀬田貝塚遺跡」区遺跡調査報告3
・大槻信次他 1985 「中野田遺跡・松原羽根木通遺跡他」区遺跡調査報告6
- 503 将監山
・大槻信次他 1982 「将監山遺跡調査報告書 I」
- 504 下野田山
・大槻信次他 1985 「中野田遺跡・松原羽根木通遺跡他」区遺跡調査報告6
- 505 西谷戸
・竹石健司他 1983 「西谷戸遺跡・西谷戸横穴墓群発掘調査概報」
- 506 仙川
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 507 上川町釜の沢 所在
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 508 谷野町 所在
・伊禮正雄 1972 「多摩地方の中世城址」文化財の保護4
- 509 寺田遺跡群No.4
・寺田遺跡調査団 1973 「松山麁寺・東京都八王子市寺田遺跡群発掘調査報告」
- 510 片倉(南部地区No.2)
・服部敬史・宮塚義人他 1971 「八王子市由木地区および小比企丘陵の遺跡」
・南部地区遺跡調査団 1980 「八王子南部地区の遺跡
-東京都八王子市宇津貫町およびその周辺所在の遺跡分布調査報告」
- 511 館町第2地点
・館町遺跡調査団 1983 「八王子館町遺跡確認調査報告」
・館町遺跡調査団 1985 「館町遺跡 I」
・館町遺跡調査団 1986 「館町遺跡 II」
・八王子市教育委員会 1986 「八王子市埋蔵文化財年報-1985年度」
- 512 館町第12地点
・館町遺跡調査団 1983 「八王子館町遺跡確認調査報告」
- 513 館町第16地点
・館町遺跡調査団 1983 「八王子館町遺跡確認調査報告」
- 514 天王橋B地点
・宮崎 糺 1965 「砂川発見の石槍について」立川市史研究1
- 515 三鷹高校校庭
・大場磐雄他 1966 「北多摩北部地区における考古学上の調査」
『北多摩文化財総合調査報告第2分冊』
- 516 東
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 517 中西
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 518 中原橋
・市史編纂委員会編 1970 「三鷹市史」
- 519 小中尾(N-4)
・大場磐雄他 1968 「奥多摩地区における考古学上の調査」『西多摩文化財総合調査報告第2分冊』
・久保田正寿 1977 「青梅市の埋蔵遺跡」
- 520 府中市栄町二、三丁目 所在
・武蔵国分寺関連遺跡調査団 1981 「武蔵国分寺関連遺跡の調査 I」

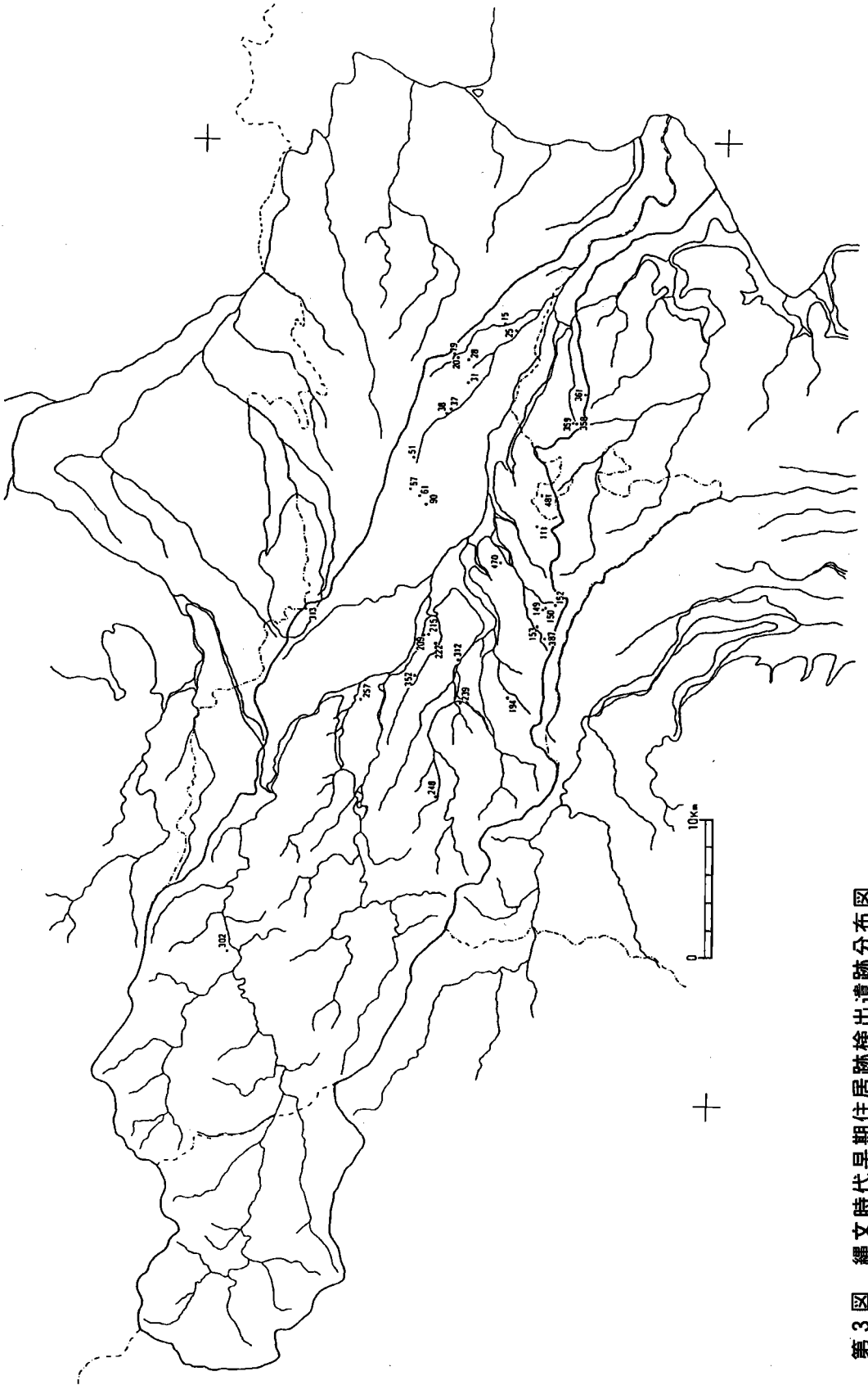
- ・武蔵国分寺関連遺跡調査団 1982 「武蔵国分寺関連遺跡の調査 II」
- ・武蔵国分寺関連遺跡調査団 1983 「武蔵国分寺関連遺跡の調査 III」
- ・武蔵国分寺関連遺跡調査団 1985 「武蔵国分寺跡発掘調査報告」
- 521 白糸台(2・2・12号線)
 - ・府中市遺跡調査団 1978 「武蔵国府関連遺跡調査抄報 I - 白糸台遺跡の調査 1 -」
 - ・府中市遺跡調査団 1978 「武蔵国府の調査 IV」
- 522 分梅町一丁目市道
 - ・府中市遺跡調査団 1981 「武蔵国府関連遺跡調査報告 III」
- 523 パークハイム府中
 - ・府中市遺跡調査団 1984 「武蔵国府関連遺跡調査報告 V」
- 524 武蔵府中郵便局
 - ・府中市遺跡調査団 1984 「武蔵国府関連遺跡調査報告 V」
- 525 都営美好町一丁目アパート
 - ・府中市遺跡調査団 1986 「武蔵国府関連遺跡調査報告 VII」
- 526 東京競馬場八幡町舎宅
 - ・府中市遺跡調査団 1984 「武蔵国府の調査 XV」
- 527 府中市若松町四丁目 所在
 - ・井東澄雄 1973 「人見・上ノ関-東京都北多摩郡下-遺物(とくに石器)の調査報告」
日本大学農獣医学部教養紀要 9
- 528 林ノ上
 - ・甲野 勇・松井新一 1962 「昭島市祥島林ノ上石器時代遺跡調査概要」多摩考古 4
 - ・大場磐雄他 1965 「北多摩南部地区における考古学上の調査」
『北多摩文化財総合調査報告第 1 分冊』
 - ・昭島市教育委員会 1970 「成人学校歴史講座資料」
 - ・昭島市教育委員会 1970 「昭島市の文化財」
 - ・甲野 勇他 1972 「昭島市祥島林ノ上石器時代遺跡調査概報」
 - ・和田 哲 1978 「昭島市祥島林ノ上遺跡の調査」
 - ・和田 哲 1985 「林ノ上遺跡」
- 529 昭島市大神町北享保新田 所在
 - ・立川市史編纂委員会 1968 「立川市史」上
 - ・和田 哲 1982 「考古学からみた昭島市」
- 530 昭島市宮沢町・中神町 所在
 - ・和田 哲 1982 「考古学からみた昭島市」
- 531 仙川
 - ・小田静夫他 1974 「調布市仙川遺跡」都埋文報告 2
 - ・調布市遺跡調査団 1980 「調布市仙川二丁目遺跡-調布市立第八中学校内-」
- 532 蟹沢
 - ・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第 3 分冊 遺跡一覧
- 533 中台南
 - ・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第 3 分冊 遺跡一覧
- 534 西原
 - ・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第 3 分冊 遺跡一覧
- 535 上石原
 - ・榎原松司・青木一美 1967 「調布市上石原遺跡(土師)調査概報」武蔵野 46-1
 - ・調布市遺跡調査団 1978 「調布市上石原遺跡-第 2 地点-」
 - ・調布市遺跡調査団 1979 「調布市上石原遺跡-上石原(宮上)遺跡第 3 地点」
 - ・調布市遺跡調査団 1980 「調布市上石原遺跡-上石原(宮上)遺跡-」
 - ・乙益重隆・紀野自由 1984 「調布市上石原遺跡第 5 地点の調査」都発表要旨 IX
 - ・調布市遺跡調査団 1987 「調布市上石原遺跡-第 5・6 地点-」

- 536 町田市上小山田八号 所在
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 537 I. C. U. Loc 15
・J. E. キダー・小山修三他 1972 「国際基督教大学内Loc. 15の先土器文化」人類学雑誌80-1
- 538 野川中洲
・宍戸武昭 1973 「野川中洲遺跡発見の先土器時代資料」考古学ノート
・東京学芸大学考古学研究会 1974 「平代坂・七軒家」
- 539 武蔵野公園低湿地
・小金井市武蔵野公園低湿地遺跡調査団 1984 「武蔵野公園低湿地遺跡」
・吉田 格・伊藤富治夫他 1984 「小金井市武蔵野公園低湿地遺跡」都発表要旨IX
・伊藤富治夫 1984 「小金井市武蔵野公園低湿地遺跡の調査」考古学ジャーナル235
- 540 小金井市東町一丁目 所在
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 541 日野市旭が丘一丁目 所在
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 542 熊ノ郷
・吉田 格 1952 「武蔵野台地の縄文時代以前の遺跡と遺物-東京熊ノ郷、殿ヶ谷戸遺跡」
考古学雑誌38-2
・国分寺市市史編纂委員会 1986 「国分寺市史」上
- 543 多摩蘭坂
・恋ヶ窪遺跡調査団 1980 「多摩蘭坂遺跡」
・国分寺市市史編纂委員会 1986 「国分寺市史」上
- 544 武蔵国分寺跡
・武蔵国分寺遺跡調査団 1976 「武蔵国分寺跡発掘調査概報 I」
・武蔵国分寺遺跡調査団 1976 「武蔵国分寺跡発掘調査概報 II」
・武蔵国分寺遺跡調査団 1977 「武蔵国分寺跡発掘調査概報 III」
・武蔵国分寺遺跡調査団 1979 「武蔵国分寺遺跡調査会年報 I」
・武蔵国分寺遺跡調査団 1980 「武蔵国分寺跡発掘調査概報 IV」
・武蔵国分寺遺跡調査団 1981 「武蔵国分寺跡発掘調査概報 V」
・武蔵国分寺遺跡調査団 1982 「武蔵国分寺跡発掘調査概報 VI」
・武蔵国分寺遺跡調査団 1982 「武蔵国分寺遺跡調査会年報 II (第一分冊)」
・武蔵国分寺遺跡調査団 1984 「武蔵国分寺遺跡調査会年報 II (第二分冊)」
・武蔵国分寺遺跡調査団 1984 「武蔵国分寺跡発掘調査概報 VII」
・武蔵国分寺遺跡調査団 1985 「武蔵国分寺跡発掘調査概報 VIII」
・武蔵国分寺遺跡調査団 1985 「武蔵国分寺跡発掘調査概報 IX」
- 545 殿ヶ谷戸北
・門上秀叙 1960 「無土器時代遺跡調査略報」東京経済学会誌
・大場磐雄他 1965 「北多摩南部地区における考古学上の調査」
『北多摩文化財総合調査報告第一分冊』
・国分寺市市史編纂委員会 1986 「国分寺市史」上
- 546 殿ヶ谷戸
・吉田 格 1952 「東京都国分寺町中期縄文式竪穴住居址調査概要」武蔵野32-3-4
・吉田 格 1954 「武蔵野台地の縄文式文化以前の遺跡」武蔵野33-3-4
・国分寺市市史編纂委員会 1986 「国分寺市史」上
- 547 国分寺市西恋ヶ窪三丁目 所在
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 548 国分寺市西恋ヶ窪三丁目、日吉四丁目 所在
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 549 光町
・国分寺市市史編纂委員会 1986 「国分寺市史」上

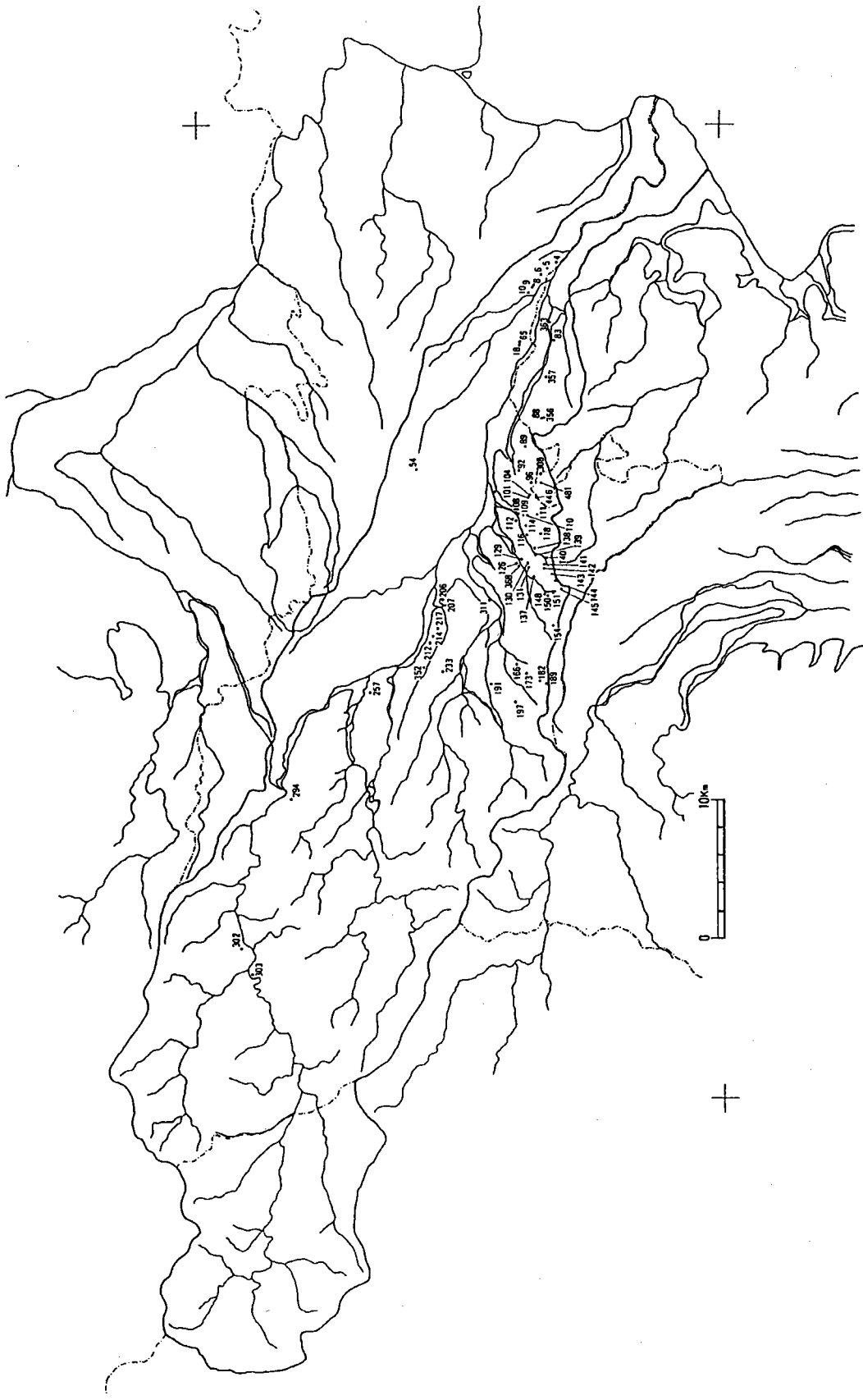
- 550 国分寺市光町一丁目 所在
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 551 坂浜
・樋口清之・國學院大学先土器研究会 1969 「東京都南多摩郡稲城町坂浜遺跡」上代文化38
- 552 飯坂上
・秋川市市史編纂委員会 1983 「秋川市史」
- 553 瑞穂町殿ヶ谷 所在
・肥留間 博 1972 「瑞穂町の遺跡」
・肥留間 博 1972 「残堀川流域発見の尖頭器」考古学ノート2
- 554 多摩ニュータウンNo.2
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 555 多摩ニュータウンNo.26
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 556 多摩ニュータウンNo.59
・多摩ニュータウン遺跡調査団 1967 「多摩ニュータウン遺跡調査報告IV」
- 557 多摩ニュータウンNo.91
・石井則孝・鶴間正昭 1985 「多摩ニュータウンNo.91遺跡の調査」都発表要旨X
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1986 「多摩ニュータウン遺跡 昭和59年度 第4分冊」
- 558 多摩ニュータウンNo.139
・多摩ニュータウン遺跡調査会 1970 「多摩ニュータウン遺跡調査概報」昭和45年度
- 559 多摩ニュータウンNo.144
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1982 「多摩ニュータウン遺跡 昭和56年度 第1分冊」
- 560 多摩ニュータウンNo.213
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1986 「東京都埋蔵文化財センター 年報6 昭和60年度」
- 561 多摩ニュータウンNo.301
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1988 「東京都埋蔵文化財センター 年報8 昭和62年度」
- 562 多摩ニュータウンNo.302
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1985 「東京都埋蔵文化財センター 年報5 昭和59年度」
- 563 多摩ニュータウンNo.352
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1986 「多摩ニュータウン遺跡 昭和59年度 第1分冊」
- 564 多摩ニュータウンNo.385
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 565 多摩ニュータウンNo.392
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1984 「多摩ニュータウン遺跡 昭和58年度 第3分冊」
- 566 多摩ニュータウンNo.394
・多摩ニュータウン遺跡調査会 1977 「多摩ニュータウン遺跡調査概報-No.394 遺跡」
- 567 多摩ニュータウンNo.420
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1983 「多摩ニュータウン遺跡 昭和57年度 第2分冊」
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1984 「多摩ニュータウン遺跡 昭和58年度 第3分冊」
- 568 多摩ニュータウンNo.421
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1984 「多摩ニュータウン遺跡 昭和58年度 第3分冊」
- 569 多摩ニュータウンNo.456
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1981 「多摩ニュータウン遺跡 昭和55年度 第1分冊」
- 570 多摩ニュータウンNo.467
・多摩ニュータウン遺跡調査会 1974 「多摩ニュータウン遺跡調査概報」昭和48年度
- 571 多摩ニュータウンNo.471-B
・館野 孝 1987 「多摩ニュータウンNo.471-B 遺跡の調査概要」月刊文化財1987.12.
- 572 多摩ニュータウンNo.488
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1984 「多摩ニュータウン遺跡 昭和58年度 第4分冊」

- 573 多摩ニュータウンNo.500
・東京都教育委員会 1988 「東京都遺跡地図」第3分冊 遺跡一覧
- 574 多摩ニュータウンNo.519
・佐藤 攻 1975 「多摩ニュータウン内遺跡・昭和49年度調査」都発表要旨Ⅰ
・多摩ニュータウン遺跡調査団 1979 「多摩ニュータウン遺跡調査概報」
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1981 「多摩ニュータウン遺跡 昭和55年度 第2分冊」
- 575 多摩ニュータウンNo.633
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1984 「多摩ニュータウン遺跡 昭和58年度 第5分冊」
- 576 多摩ニュータウンNo.662
・多摩ニュータウン遺跡緊急対応特別調査班 1983 「多摩ニュータウン遺跡緊急対応特別調査報告Ⅲ」
- 577 多摩ニュータウンNo.667
・多摩ニュータウン遺跡緊急対応特別調査班 1983 「多摩ニュータウン遺跡緊急対応特別調査報告Ⅲ」
- 578 多摩ニュータウンNo.706
・多摩ニュータウン遺跡緊急対応特別調査班 1982 「多摩ニュータウン遺跡緊急対応特別調査報告Ⅰ」
- 579 多摩ニュータウンNo.722
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1981 「多摩ニュータウン遺跡 昭和55年度 第2分冊」
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1982 「多摩ニュータウン遺跡 昭和56年度 第4分冊」
- 580 多摩ニュータウンNo.733
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1986 「多摩ニュータウン遺跡 昭和59年度 第1分冊」
- 581 多摩ニュータウンNo.769
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1983 「多摩ニュータウン遺跡 昭和57年度 第5分冊」
・石井則孝・小葉一夫 1983 「多摩ニュータウンNo.769 遺跡の調査」都発表要旨Ⅷ
・阿部祥人・丹野雅人 1985 「東京都多摩ニュータウンNo.769」
- 582 多摩ニュータウンNo.799
・多摩ニュータウン遺跡緊急対応特別調査班 1982 「多摩ニュータウン遺跡緊急対応特別調査報告Ⅰ」
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1982 「多摩ニュータウン遺跡 昭和56年度 第4分冊」
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1986 「多摩ニュータウン遺跡 昭和59年度 第3分冊」
- 583 多摩ニュータウンNo.813
・(財)東京都埋蔵文化財センター 1986 「多摩ニュータウン遺跡 昭和59年度 第4分冊」
- 584 野水橋
・三鷹市市史編纂委員会編 1970 「三鷹市史」
・吉田 格・高麗 正 1985 「三鷹市野水橋横穴墓群の調査」都発表要旨Ⅹ
- 585 古八幡
・市遺跡調査団 1986 「古八幡遺跡」

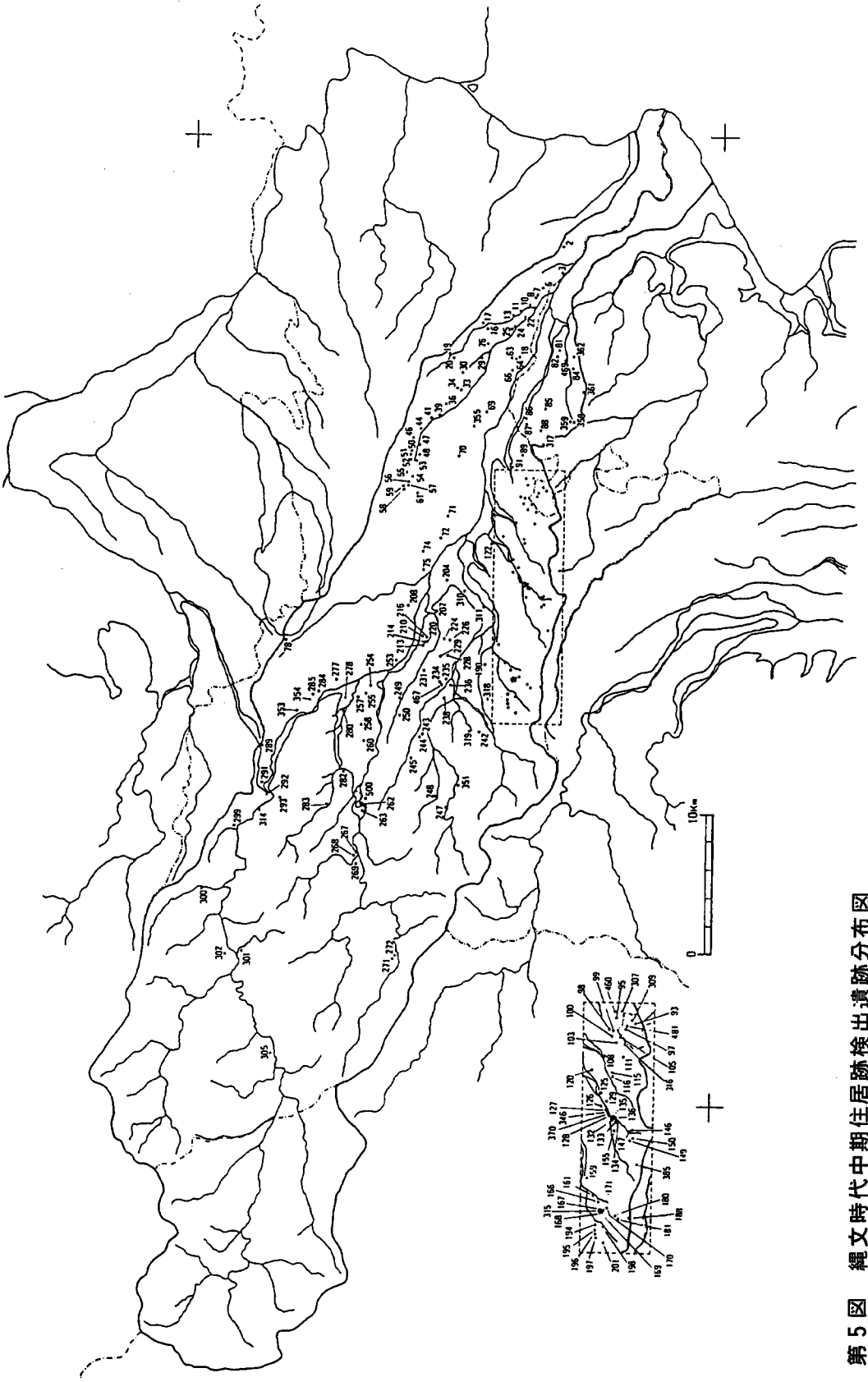
※ 5～499 の旧石器時代遺跡の文献は縄文時代遺跡の文献と重複しているので割愛した。



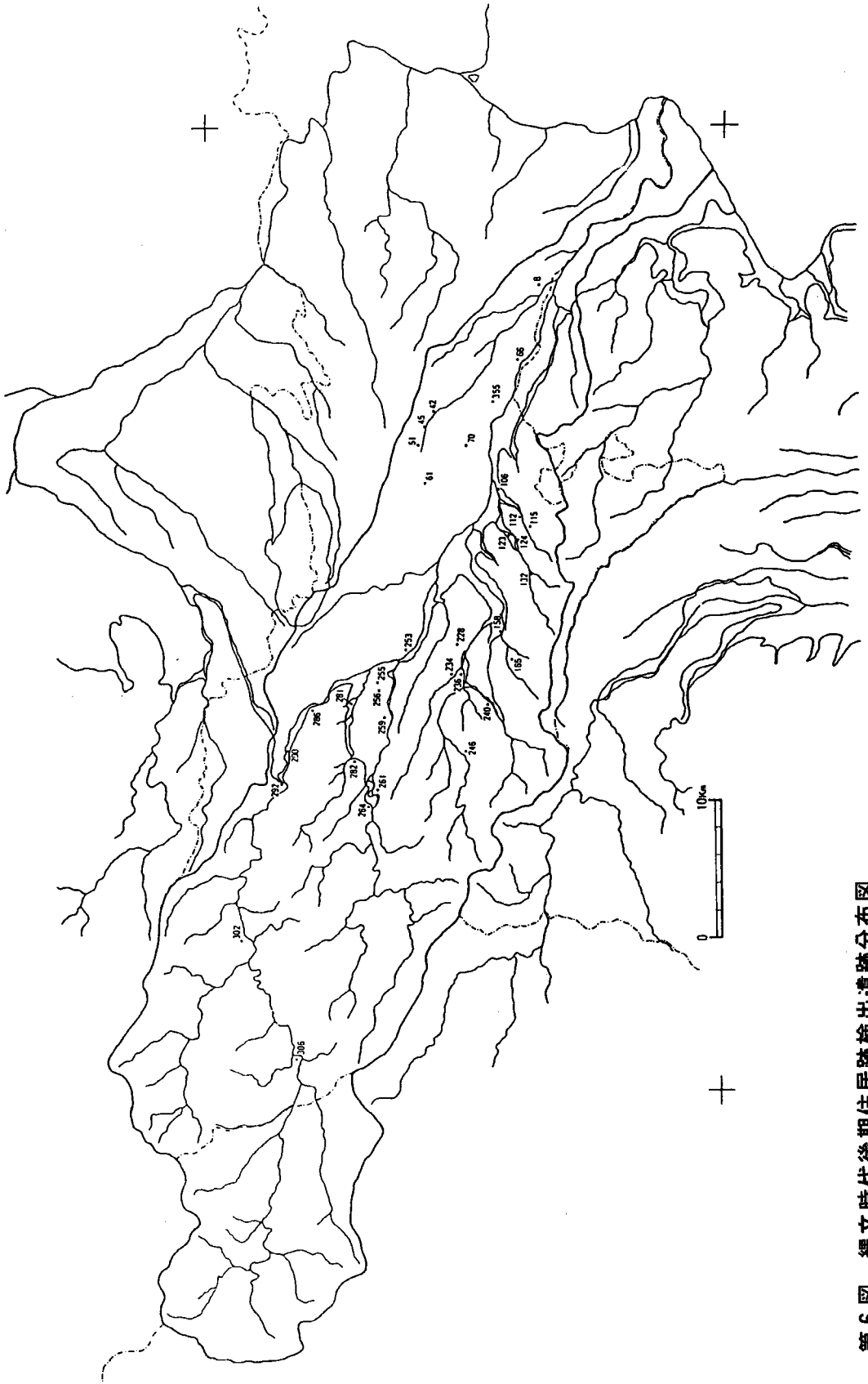
第3図 縄文時代早期住居跡検出遺跡分布図



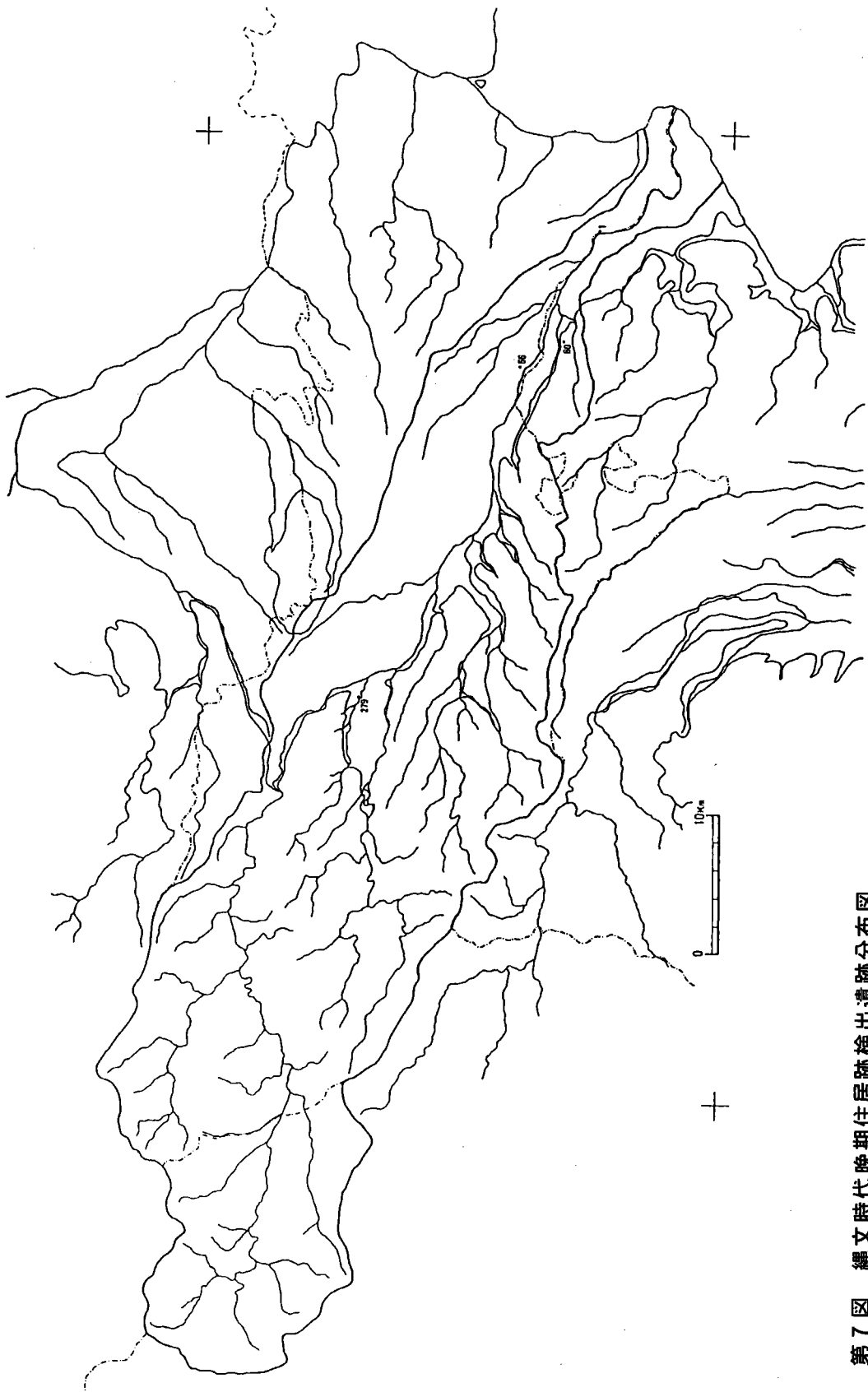
第4図 縄文時代前期住居跡検出遺跡分布図



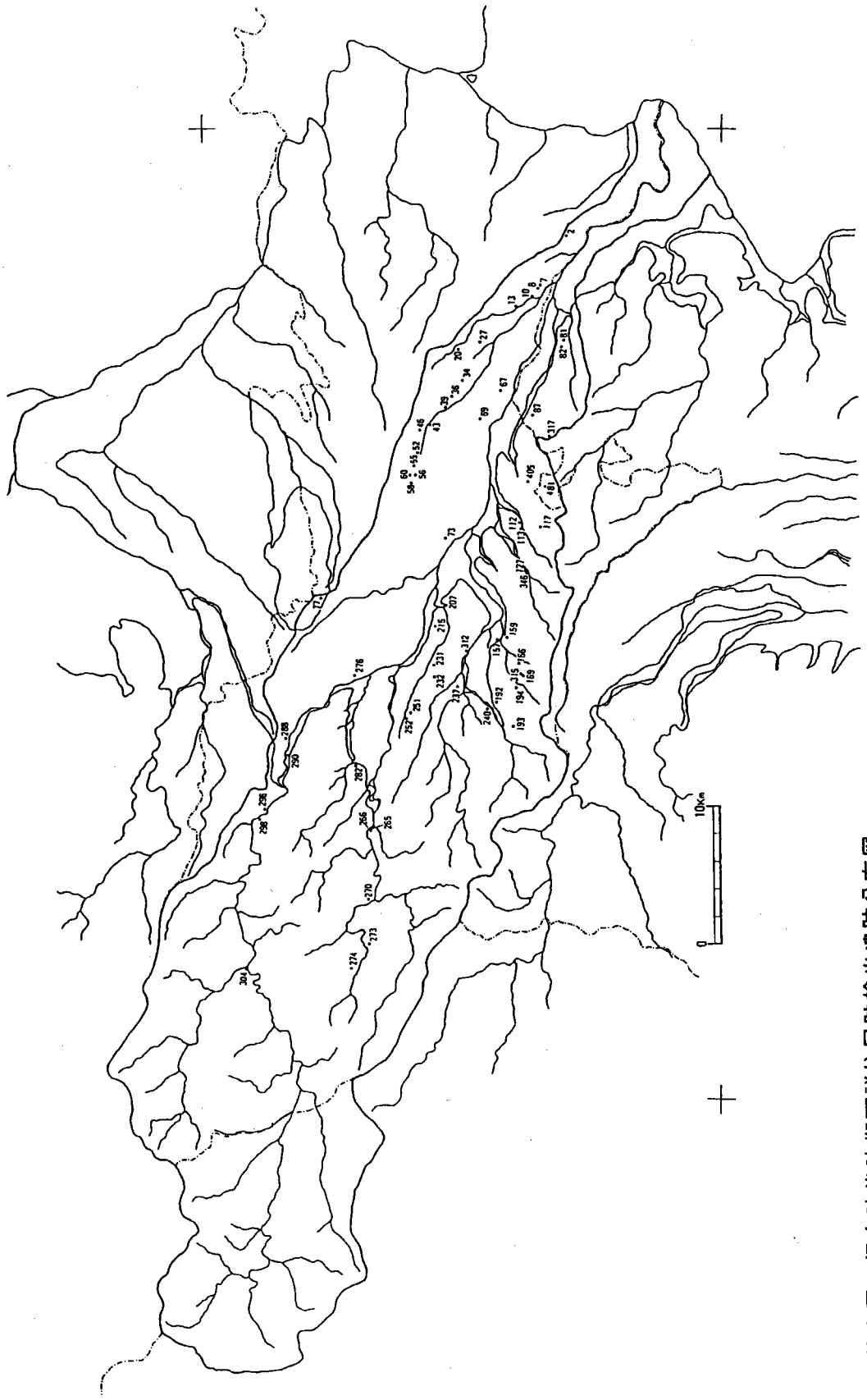
第5図 縄文時代中期住居跡検出遺跡分布図



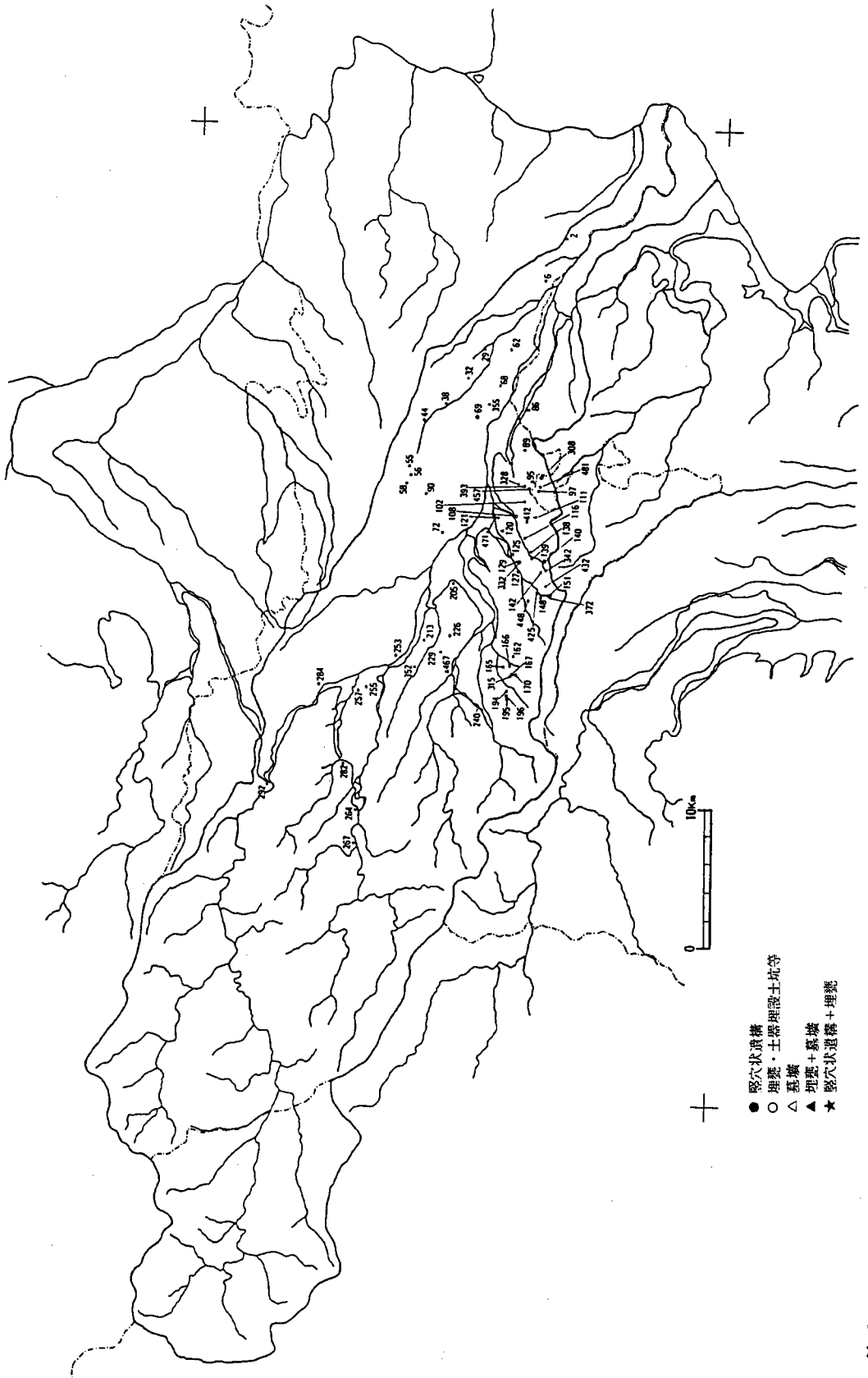
第6図 縄文時代後期住居跡検出遺跡分布図



第7図 縄文時代晩期住居跡検出遺跡分布図

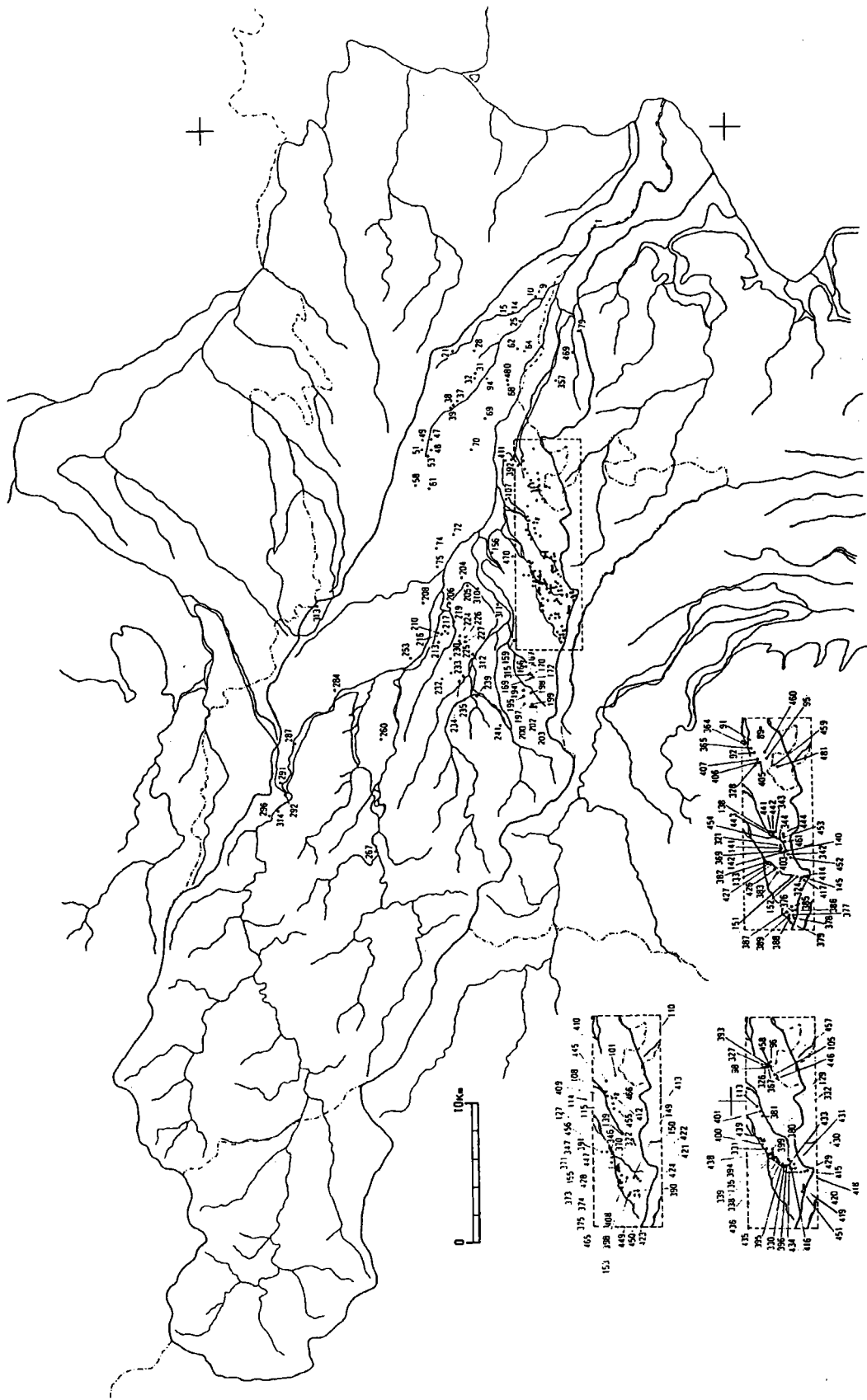


第8圖 縄文時代時期不詳住居跡検出遺跡分布図

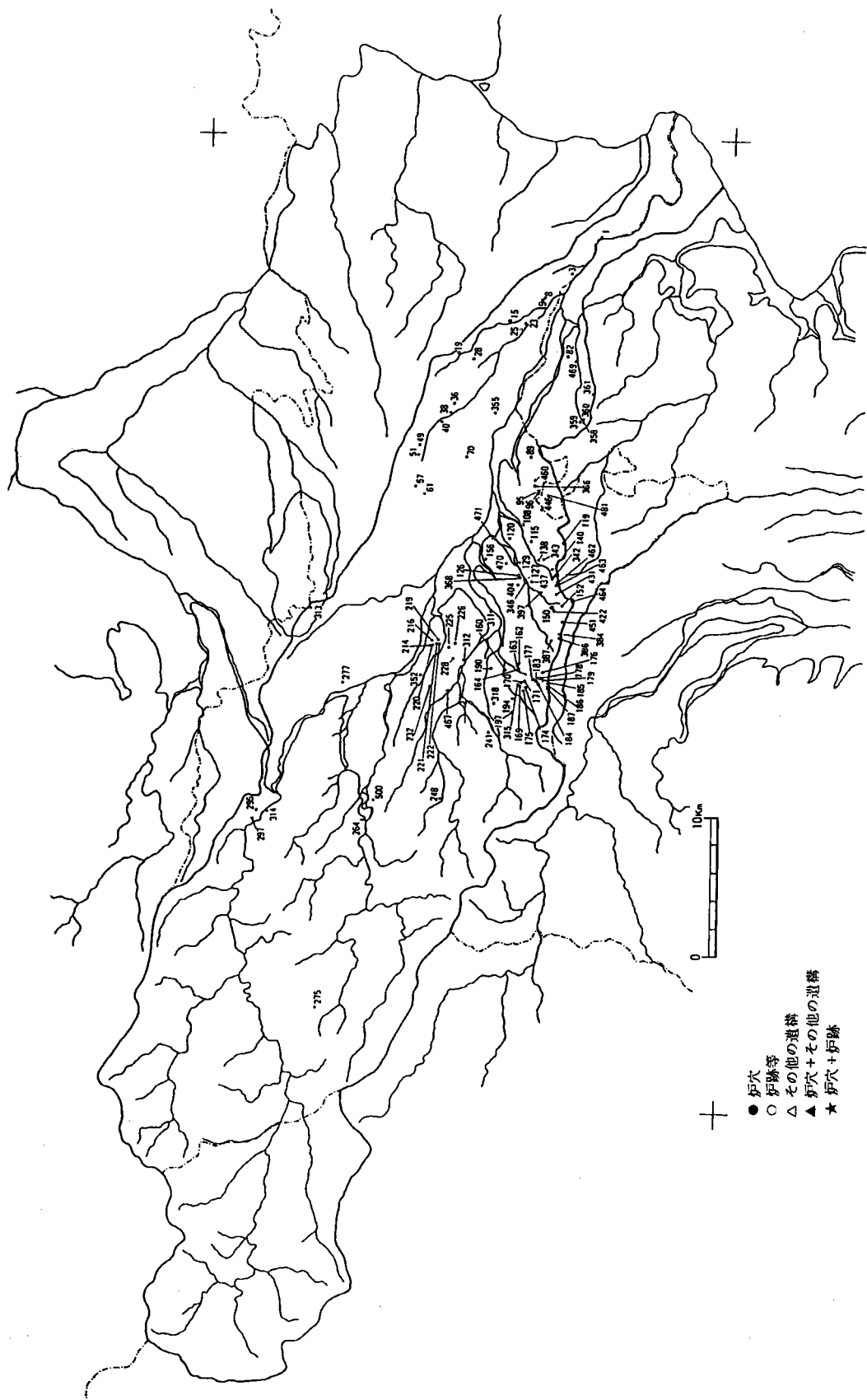


- 竪穴状遺構
- 埴甕・土器埋設土坑等
- △ 墓塚
- ▲ 埴甕 + 墓塚
- ★ 竪穴状遺構 + 埴甕

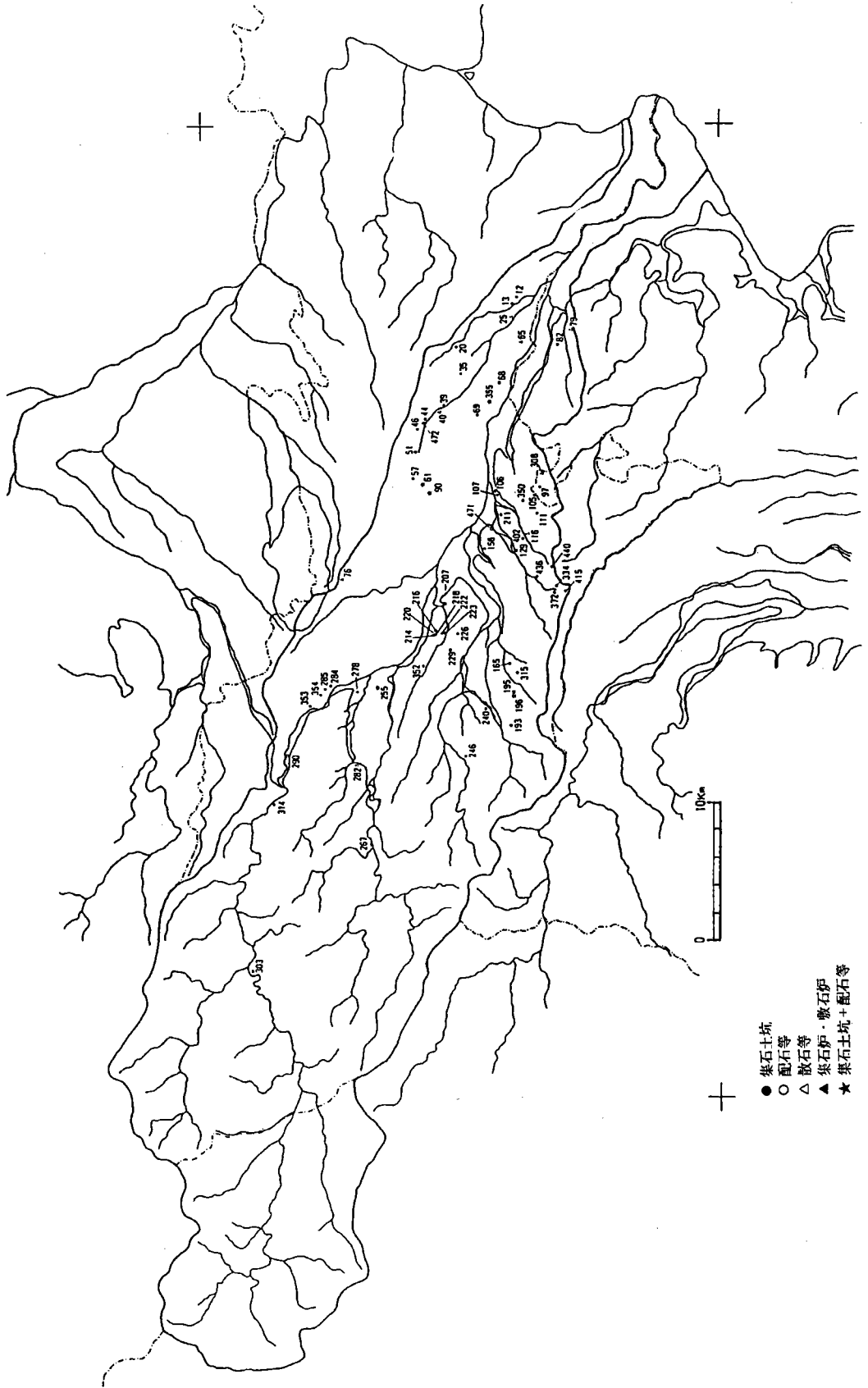
第9図 縄文時代竪穴状遺構等検出遺跡分布図



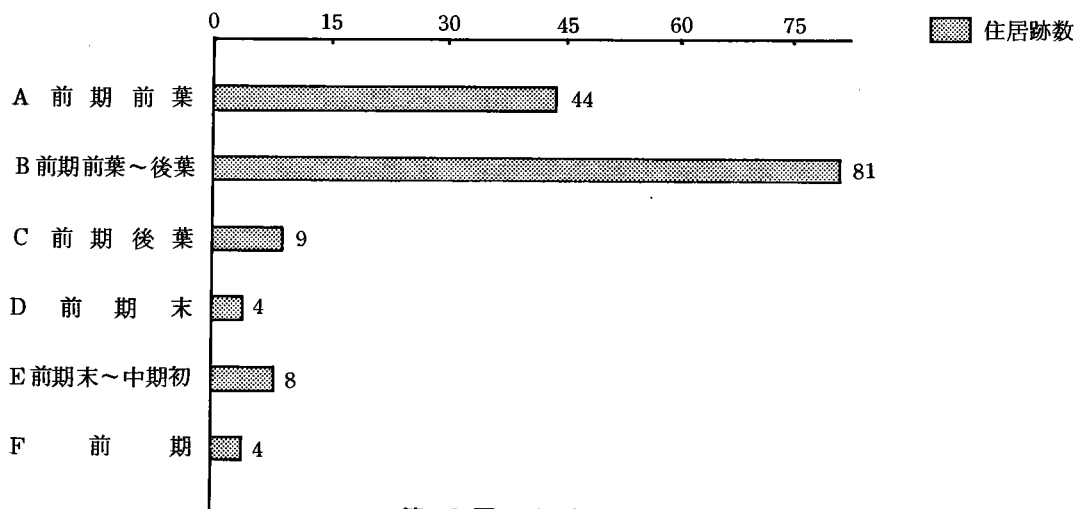
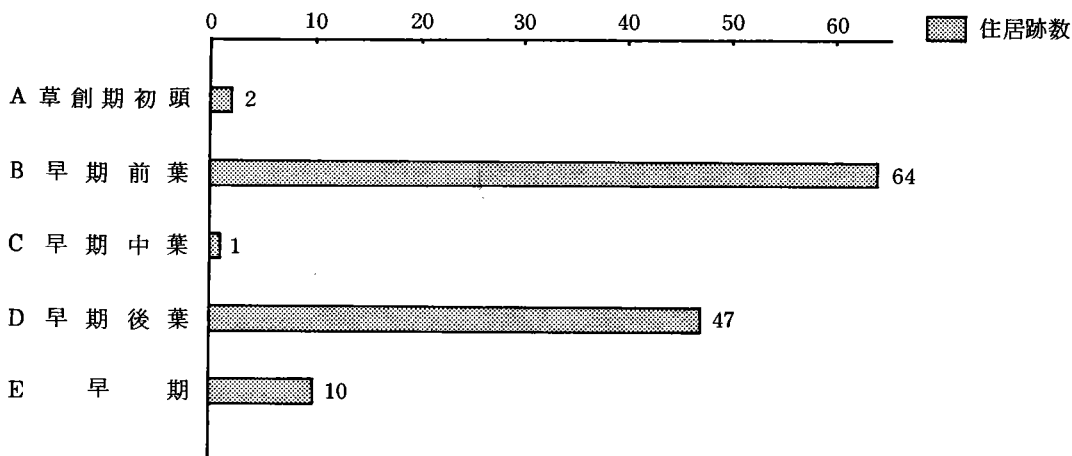
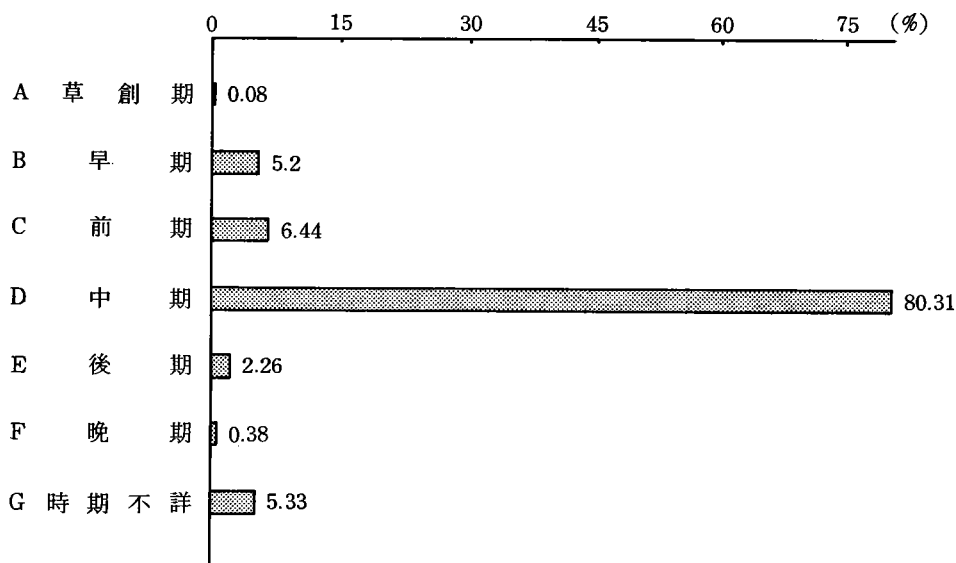
第10図 縄文時代集石検出遺跡分布図



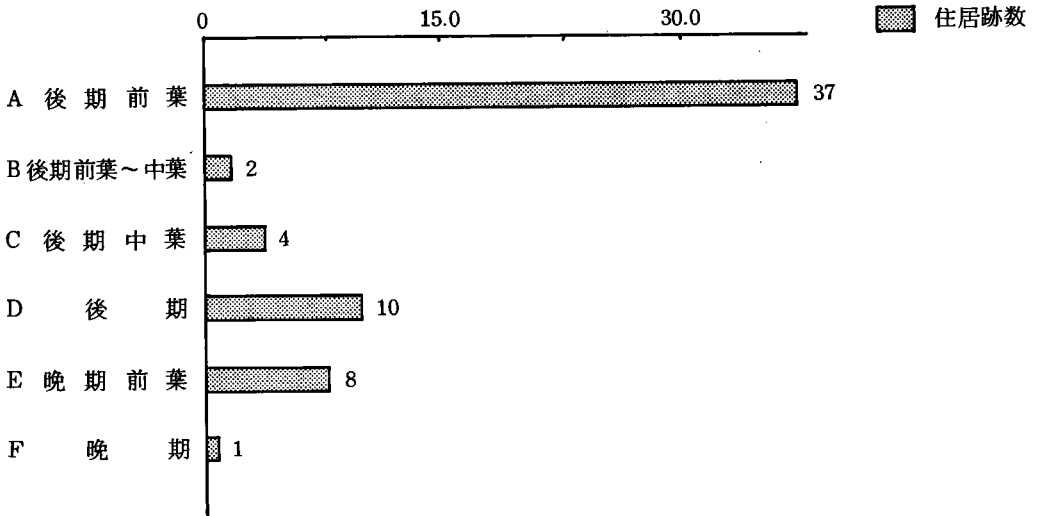
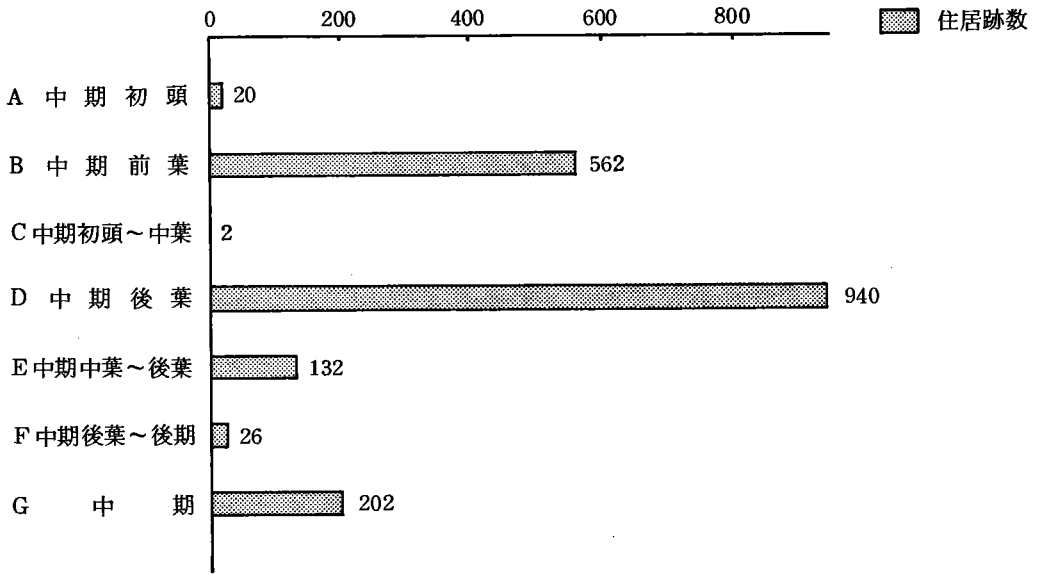
第11図 縄文時代炉穴等検出遺跡分布図



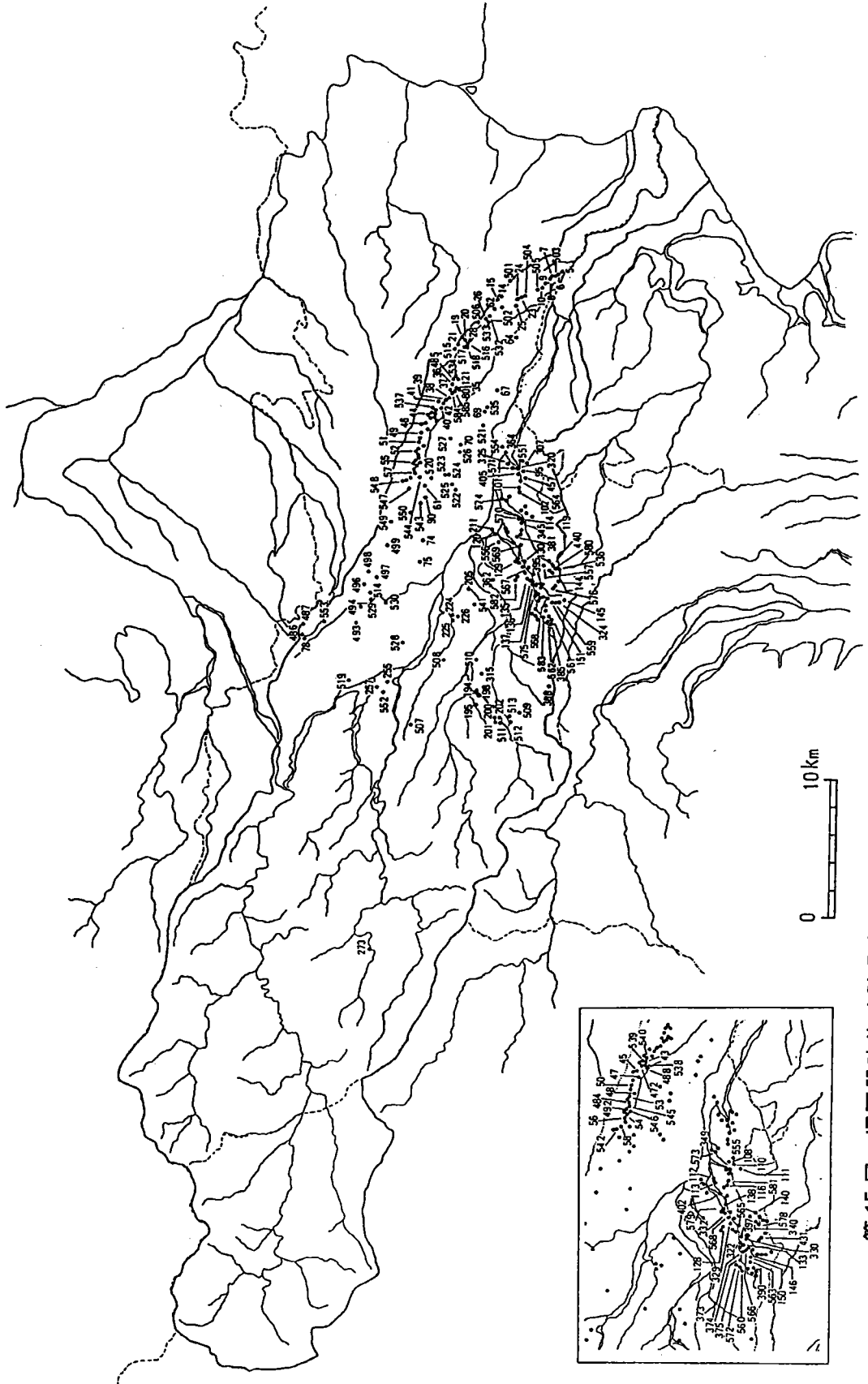
第12図 縄文時代集石土坑等検出遺跡分布図



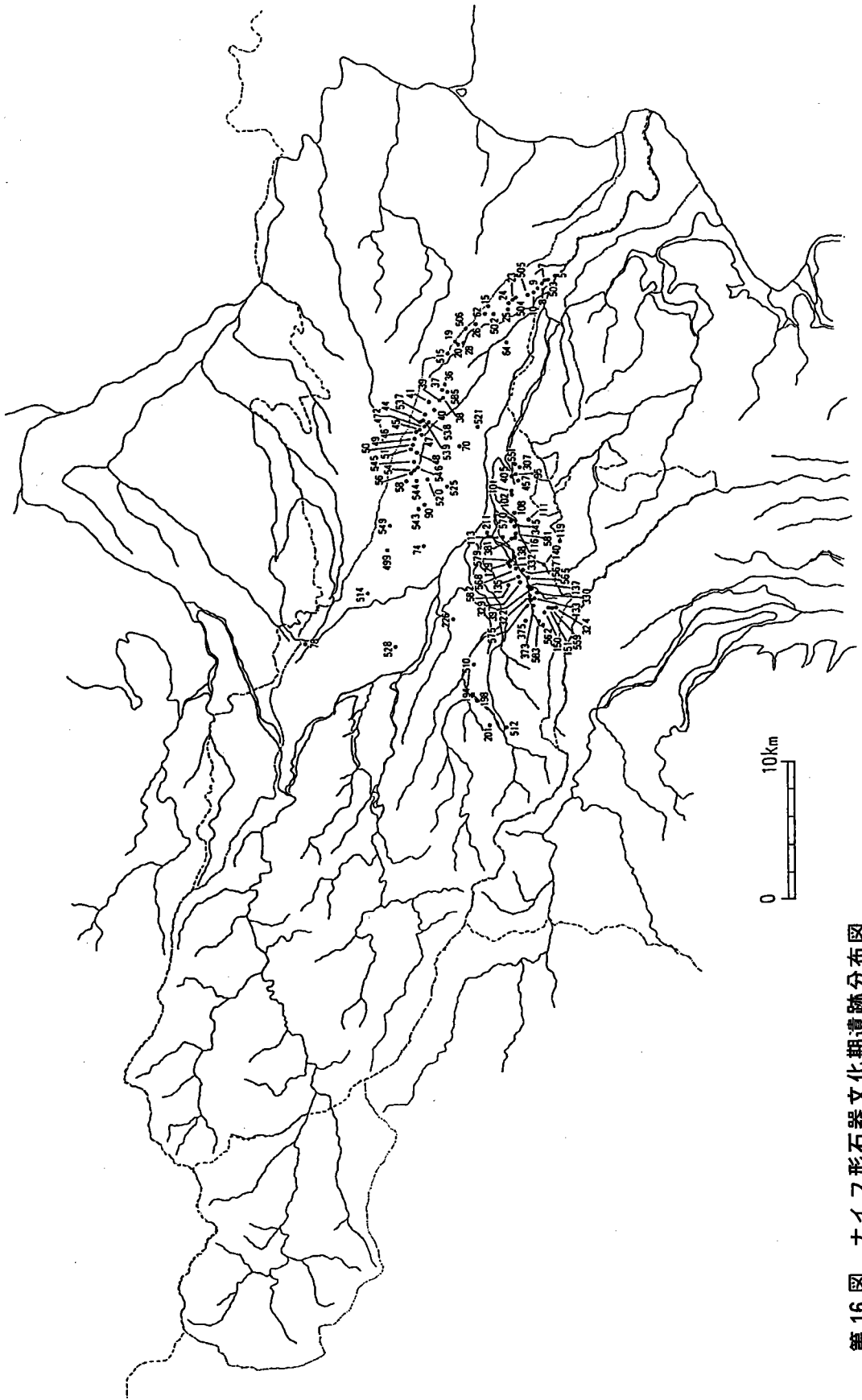
第13図 各時期毎の住居跡数(1)



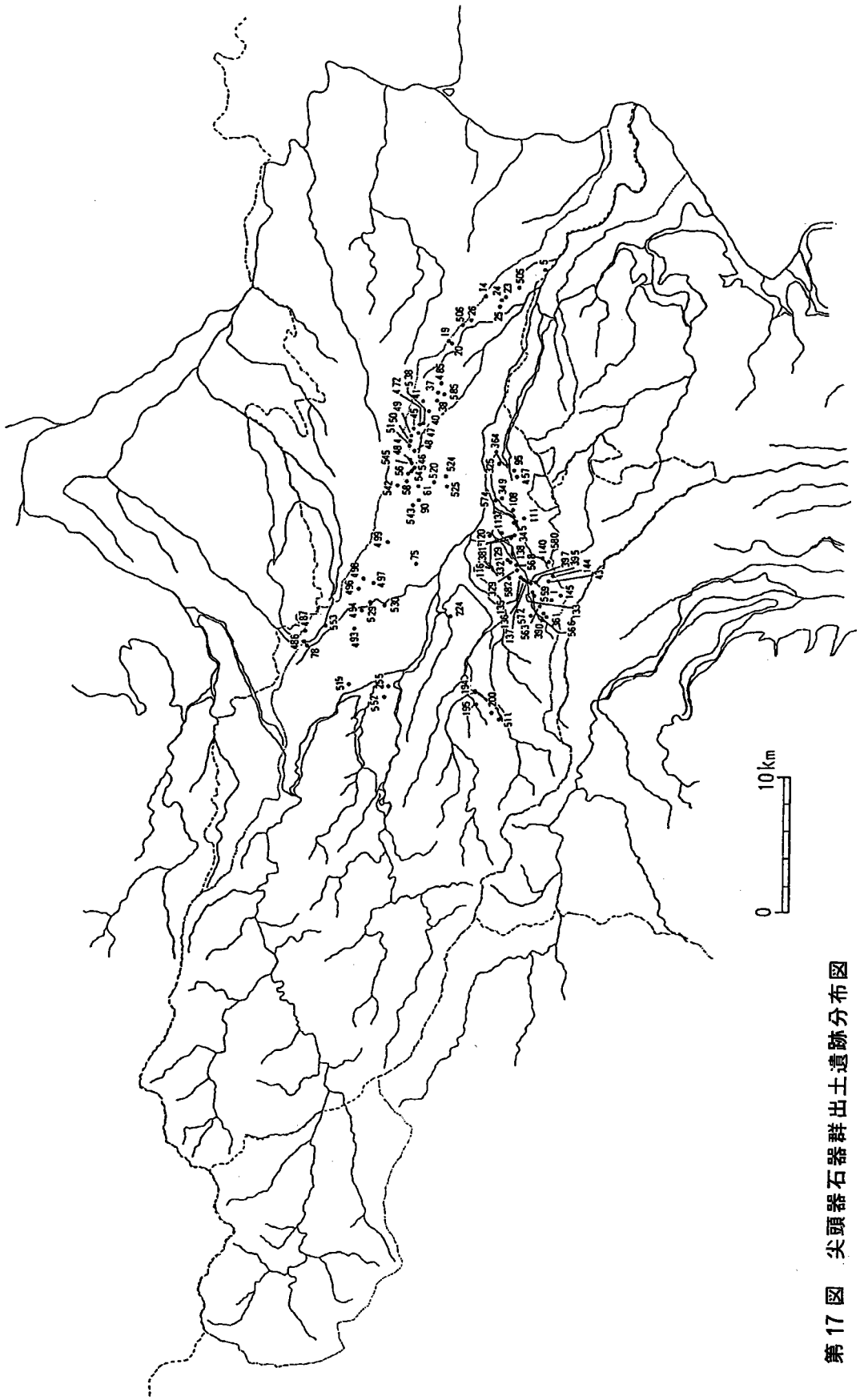
第 14 図 各時期毎の住居跡数 (2)



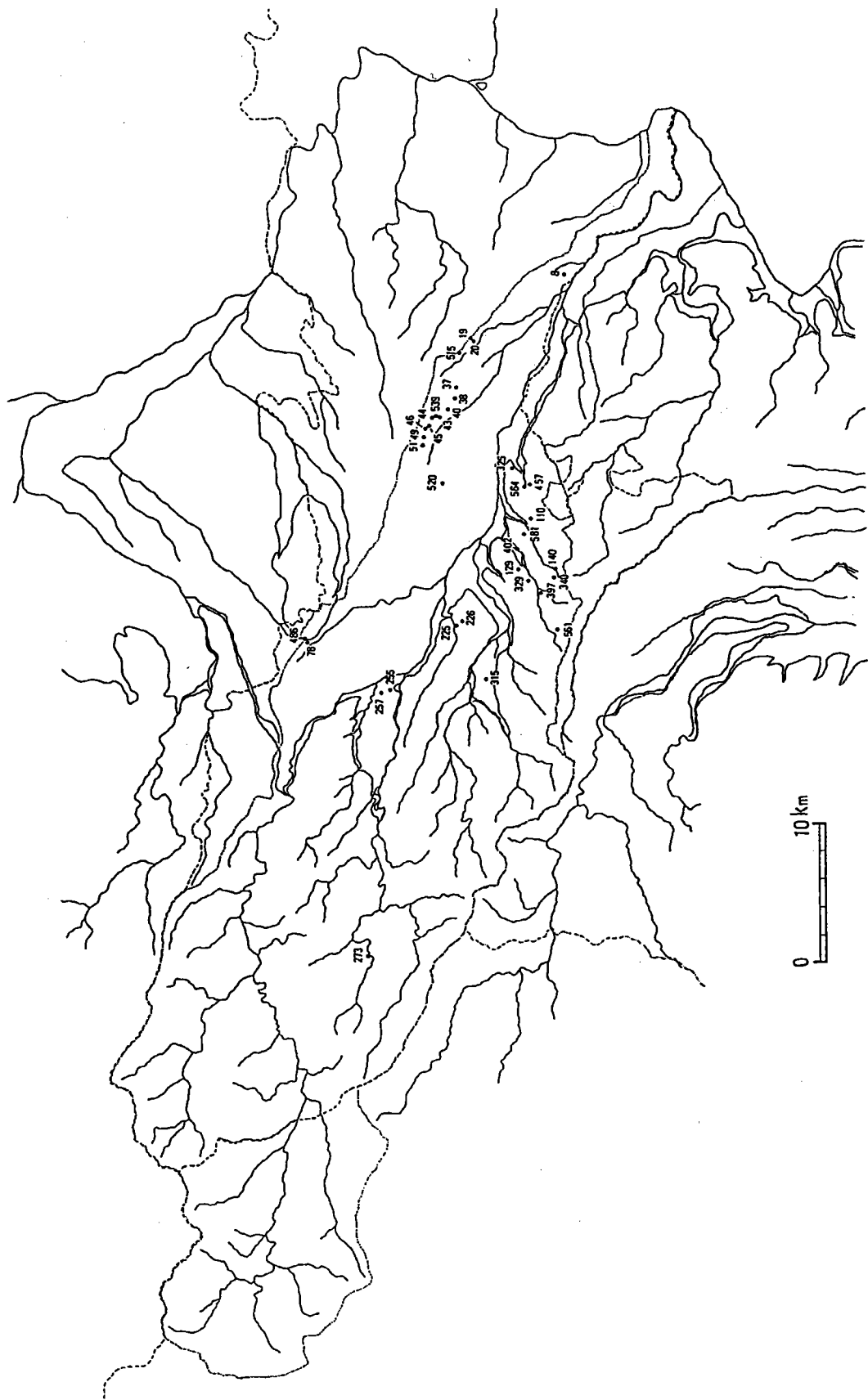
第15図 旧石器時代遺跡分布図



第16図 ナイフ形石器文化期遺跡分布図



第17图 尖頭石器群出土遺跡分布图



第18図 細石器石器群出土遺跡分布図